

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）

令和7年7月
文部科学省・国立教育政策研究所

目次

1. 令和7年度全国学力・学習状況調査の概要	・ ・ ・ ・ ・	2
2. 教科に関する調査結果	・ ・ ・ ・ ・	3
(1) 小学校国語	・ ・ ・ ・ ・	4
(2) 中学校国語	・ ・ ・ ・ ・	10
(3) 小学校算数	・ ・ ・ ・ ・	14
(4) 中学校数学	・ ・ ・ ・ ・	21
(5) 小学校理科	・ ・ ・ ・ ・	28
(6) 中学校理科	・ ・ ・ ・ ・	31
3. 質問調査結果（児童生徒、学校）	・ ・ ・ ・ ・	48
(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況	・ ・ ・ ・ ・	48
① 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善		
② 主体的な学習の調整		
(2) ICTを活用した学習状況	・ ・ ・ ・ ・	53
① ICTの活用状況等		
② ICTを活用する自信		
③ ICT機器活用の効力感		
(3) 教科に関する意識や学習活動	・ ・ ・ ・ ・	62
① 各教科への興味・関心、理解度		
② 男女差		
③ 各教科等における言語能力の育成		
(4) 児童生徒のウェルビーイングに関する状況	・ ・ ・ ・ ・	73
(5) 学校外での学習状況	・ ・ ・ ・ ・	74
4. 文部科学省の主な取組一覧	・ ・ ・ ・ ・	76

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査概要

調査実施日	令和7年4月14日(月)～17日(木)
調査対象	小学校6年生、中学校3年生
調査事項	①児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、理科〕 / 質問調査 ②学 校：質問調査
調査問題	・ 学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。 ・ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。
今年度の調査の特徴	・ CBT調査の導入（中学校理科） ・ 生徒質問でのランダム方式の試行 ・ 結果公表の内容、スケジュールの改善

調査対象及び集計対象
児童生徒数・学校数

	小学校				中学校			
	調査対象 児童数(※1)	集計対象 児童数(※2)	調査対象 学校数	集計対象 学校数(※2)	調査対象 生徒数(※1)	集計対象 生徒数(※2)	調査対象 学校数	集計対象 学校数(※2)
公立	995,300人	936,576人	18,313校	18,269校 (99.8%)	969,010人	871,097人	9,311校	9,272校 (99.6%)
国立	6,313人	6,136人	75校	75校 (100%)	9,982人	9,128人	80校	77校 (96.3%)
私立	13,464人	6,596人	251校	126校 (50.2%)	83,627人	16,560人	803校	235校 (29.3%)
合計	1,015,077人	949,308人	18,639校	18,470校 (99.1%)	1,062,619人	896,785人	10,194校	9,584校 (94%)

(※1) 調査対象児童生徒数について、公立及び国立は、調査実施前に学校から申告された児童生徒数、私立は、令和6年度学校基本調査による。調査当日までに増減した可能性がある。

(※2) 集計対象児童生徒数・学校数は、調査の実施日に調査を実施した数。集計対象児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科（小学校：理科、中学校：数学）の解答用紙の枚数で算出。

教科に関する調査結果概要

教科に関する調査の結果のポイント

【国語】

- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題が見られた。
 - 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題が見られた。
- 文章を読む目的を明確にして必要な情報を捉えること、伝えたいことの根拠を明確にして書くことを意識させることが重要。

【算数・数学】

- 数直線上の分数を捉えることや、百分率を倍を使って捉え直し表現することに課題が見られた。
 - あらかじめ書かれている図形の証明を評価・改善することに課題が見られた。
- 基準となる数を見だし数量の関係を捉えさせることや、数学的な用語や表現について知識の習得と習得した知識を活用する活動を行き来しながら理解を深めていくことが重要。

【理科】

- 電気が通る回路を実際の生活の中でつくることに関する理解に課題が見られた。
 - 化学変化を原子や分子のモデルで表すことに課題が見られた。
- 問題解決や科学的な探究のプロセスを通して、学習を通して身に付けた知識を活用することができるような指導の充実が重要。

◆全国（国公私）の平均正答数・平均正答率・平均IRTスコア（※）

※中学校理科はCBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。本資料では、中学校理科のスコアに関する表・グラフを水色で表している。

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
令和7年度	9.4/14問 (67.0%)	9.3/16問 (58.2%)	9.7/17問 (57.3%)	7.6/14問 (54.6%)	7.3/15問 (48.8%)	505
【参考】令和6年度 (理科は令和4年度)	9.5/14問 (67.8%)	10.2/16問 (63.6%)	10.8/17問(63.4%)	8.8/15問 (58.4%)	8.5/16問 (53.0%)	10.4/21問(49.7%)

(※) 各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意が必要。

問題作成の
ポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、測定しようとする資質・能力を発揮することが求められる言語活動を展開する文脈を重視して出題している。今年度は、

- 「話すこと・聞くこと」について、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題を出題した。
- 令和5年度までの調査で課題が見られた内容（「読むこと」文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること）について状況を確認するため、問題（大問3三）を出題した。

結果のポイント

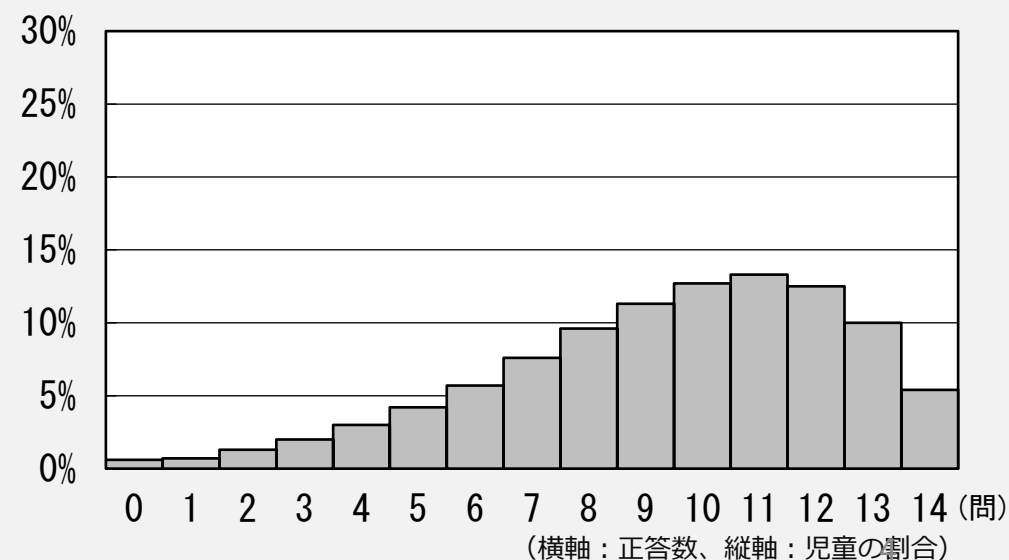
- 【pp.5-6】自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることはできている。
- 【pp.7-9】目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題がある。文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要である。必要な情報は、目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることも大切である。

〈分類・区分別集計結果〉

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	77.0
		(2)情報の扱い方に関する事項	1	63.2
		(3)我が国の言語文化に関する事項	1	81.3
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	66.4
		B 書くこと	3	69.7
		C 読むこと	4	57.7
評価の観点		知識・技能	4	74.6
		思考・判断・表現	10	63.9
問題形式		選択式	9	64.9
		短答式	3	78.6
		記述式	2	59.0

〈小学校国語の児童の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
9.4問/14問	67.0%	10.0問	3.0問	11問



結果のポイント①-2

自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることはできている。

具体的な設問例
大問1三(2)

バスの運転士にインタビューしている様子（【インタビューの様子の一部】）を読み、小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する。

- (2) 「インタビューの様子の一部」の小森さんが――部イのように発言した理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。
- 1 相手の答えは自分の予想どおりであることが分かったから。
 - 2 自分が聞こうとしていた内容のほかに、新たに聞きたいことが見つかったから。
 - 3 相手の答えと自分の考えを比べて、考えを深めることができたから。
 - 4 自分が共感した内容を取り上げて、話題を広げようと考えたから。

小森さん
イ
なるほど。たくさんの方が、乗客の安全を支えてくださっているんですね。私たちは時間を守ることも大切だと思っていました。私たちが思っていた以上に安全を第一に考えてくださっていることが分かりました。

解答の分析

無解答率0.6%

【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する。

1	2.6%
2	15.9%
3	73.8%
4	7.0%
上記以外	0.1%

○正答の「3」を選択した児童は、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることはできていると考えられる。

○誤答の「2」を選択した児童は、小森さんが、自分が聞こうとしていた内容のほかに、新たに聞きたいことを見付けていると捉えており、相手の答えと自分の考えを比べて、考えを深めているという意図を捉えることができなかったと考えられる。

学習指導に当たって

- インタビューをする前に、自分が知りたいことや疑問に思っていることを整理したり、相手の答えを予想したりするなどして、準備をしておくことが大切である。
- 自分が知りたい内容に関する言葉を取り上げ、更に質問しながら理解を深め、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめていけるようにすることが大切である。

「令和7年度【小学校国語】報告書」大問1 授業アイデア例

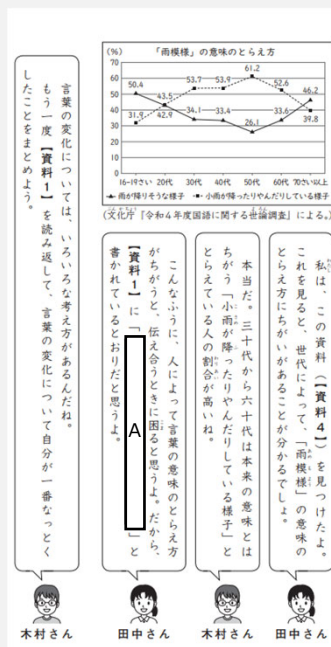
https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25plang_idea01.pdf#page=10



目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題がある。

具体的な設問例 大問3三(1)

資料を基に言葉の変化について話し合っている場面で、発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する。



【資料4】

「話し合いの様子」

木村さんが読んだ二つの資料（「資料2」、「資料3」）には、言葉が変化していることが書かれていたよ。「資料1」に「言葉の正誤を軽んじて決めることはできない」と書かれていることにつながっているよ。

木村さん

【話し合いの様子】

三 木村さんは言葉の変化について田中さんと話し合いながら、【資料1】を読み返しています

（飯間浩明「日本語をつかまえろ！」による。）

「あたらしい」は新しい形
「ふい、き」ということばを、「ふいん、き」と言人が多く用いました。こう言うの、「たいへんだ、日本語がこわれてしまふ」と思う人がいるかもしれせん。でも、心配しないでください。にたようなことは昔からよくあることです。「できごと」が、また古くなく」という意味で、私たちは「新しい」と言います。大昔の奈良時代には「あらたし」と書いていました。今でも「新しく」という意味で「あらたに」と書くときや、「あらた」は大昔から使われていました。ところが、次の平安時代には「あらたし」が「あたらし」になりました。「たとえ」の順番が入れかわっています。つまり、「あらたし」に比べれば、「あたらし」は新しい形です。それが変化して、今は「あたらしい」になりました。

「あたらしい」は新しい形

【資料2】

【資料(3)】

今、あなたを「勉強がとてもできる」といふ言い方を要するとは思われないでしょう。「とても」は「非常に」の意味を表します。ところが、1000年ほど前の大正時代、作家の芥川龍之介は、「とても安」、「とても寒い」といふ言い方は新しいと書いています。それより前の時代には「とてもうまい」、「とてもまたまらない」のように、「とてもうない」の形で言ったいうのです。つまり、大正時代よりも前は「勉強がとてもできる」とは言わず、「よくは、そんなことはとてもできない」と言っていたんですね。この場合の「とても」は「どうしても」「どうだってい」という意味を表します。

こんな話を聞くと、「じゃあ、これからは「とてもできない」と言わず、「とてもできる」とは言わないようにしよう」と思うかもしれません。でも、その必要はありません。もっと古い時代、室町時代には、「とても散るべき花」と言えば、「どう散る花」という意味です。

ここは昔の意味だけで使うのと思ったら、現代では暮れせなくなってしまう事。「事は何だっか」を知ることは大事です。「現代ではよく使われているか」を理解することも大事です。現代の人は、ここは現代の意味で使うのが一番いいのです。

〔飯間浩明「日本語をつかまそう」による〕

とでも言え、できない。

第1「規範」……………判断したり行動したりするときの手法。
 第2「短絡」……………よく考えもせず、ものごとを簡単に結びつけてしまうこと。
 第3「文化庁」……………文化や芸術を広める仕事や、文化財を守る仕事などをする、国の機関

（文化庁国語課——文化庁国語課の推進しやすい日本語）による

言葉は、年月とともに変化したものなのです。かつて規範的であると考へられていた言葉の形や意味が現代においては通用しなくなつていたり、使ひ方が変わつていたりする場合は少なくありません。ですから、意味や使ひ方に揺れが生じている言葉について「この使ひ方だけが正しい」と決めつけるのは短絡的ともいえるでしょう。①この本を読むとおおづきになると思いますが、文化庁国語課では言葉の意について「正しい」「誤り」といった判断をせず、代わりに、②「本来の意味」「本来とは違う使ひ方」といった言ひ方にとめていきます。言葉の正誤を軽々しく決めることはすべきないと考へてからです。

とはいえ、どんな言葉を使つてもいい、というわけではありません。③「コミュニケーションの食い違い」を放置して生じてくれないとも言われます。その広がりがややさにも、触れていただきたいと考へています。

④「言葉は生きてくれない」とも言われます。

資料 1

3 木村さんの学校では、言葉の変化について学ぶために、みんなて「資料1」を読みました。そして「資料1」を読んで一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことをもとに考えをまとめることにしました。「資料1」をよく読んであとの問いに答えましょう。

解答の分析

無解答率3.4%

【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄

A

 に当てはまる内容として適切なものを選択する。

【資料1】の①～④のどれが適切か。

〔正答率：41.0 %〕

- | | | |
|---|--|--------|
| 1 | ①この本を読むとお気づきになるとおもいます | …5.2% |
| 2 | ②「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方に
とどめています | …33.8% |
| 3 | ③コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません | |
| 4 | ④「言葉は生きている」とも言われます | …16.4% |

○正答の「3」を選択した児童は、田中さんが、
【資料4】に書かれていることと【資料1】に
「コミュニケーションの食い違いを放置してお
くわけにもいきません。」と書かれていること
を結び付けていると捉えることができています。

○誤答の「2」を選択した児童の中には、「人によって言葉の意味のとらえ方がちがう」ことを「本来の意味」「本来とは違う使い方」であると考え、複数の資料を結び付けようとしたが、必要な情報を整理し切れなかった児童がいたと考えられる。

関連する過去の問題 令和5年度 大問2二

【資料1】と【資料2】を読んで分かったことをメモにまとめている場面で、【相田さんのメモ】の「ア」にあてはまる内容として最も適切なものを選択する。

【相田さんのメモ】
ぼくは、運動の面から考えてみたい。運動をすると健康にどんないいことがあるのかな。

【資料1】運動について書かれた本の一部
運動は、体力の向上につながります。そのため、子供から若年寄りまで適度に運動をすることが大切だとされています。私たちが日ごろ行っている運動には、いくつかの種類があります。例えば、体にたくさん筋肉を取り入れながら続けることで持久力を高める運動や、瞬間的に大きな力を出すことで筋肉の力を高める運動などです。生活の中に自分が好きな運動を取り入れれば、続けて取り組むことができます。その際は、目的に応じた運動を選ぶとともに、健康状態や体力に合わせて自分のペースで行うことが大切です。

【資料2】運動について書かれたパンフレットのページ
運動で健康な体をつくらう！
運動には、筋力や持久力などを高めるほかに、病気への抵抗力を高める効果もあります。また、運動によって気持ちさがリフレッシュするなどの効果もあります。

どんな運動をするというの？
運動をする際、自分に合った運動を選んで行うことが大切です。主な運動の種類には、下のようにより、軽いジョギングなどの持久力を高める運動や、腹筋運動などの筋力や、瞬間的に大きな力を出すことで、体のよわさを高める運動や、たくさん動きを高める運動などがあります。

このような運動は日常生活の中にもあります。例えば、休みの外遊び、犬の散歩、階段の上下り、荷物運びなどです。日常生活の中で体を動かす機会をつくると効果的です。

主に持久力を高める運動の例
軽いジョギング 縄とび(続けてとぶ)

主に筋力や持久力を高める運動の例
腹筋運動 腕立てふせ

二 相田さんは、【資料1】と【資料2】を読んで分かったことをメモにまとめています。次の「相田さんのメモ」の「ア」にあてはまる内容として最も適切なものを、下の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【相田さんのメモ】
◇持久力を高める運動
・たくさん歩く運動
・軽いジョギング
・縄とび(続けてとぶ)

1 ◇体のよわさを高める運動
・瞬間的に大きな力を出す
・うで立てふせ

2 ◇体のよわさを高める運動
・瞬間的に大きな力を出す
・うで立てふせ

3 ◇持久力を高める運動
・たくさん歩く運動
・軽いジョギング
・縄とび(続けてとぶ)

4 ◇持久力を高める運動
・たくさん歩く運動
・軽いジョギング
・縄とび(続けてとぶ)

相田さん

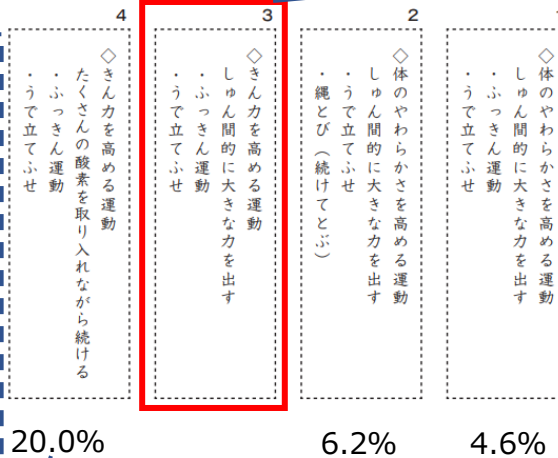
解答の分析

無解答率1.4%

【資料1】と【資料2】の文章と図を結び付けて分かることを選択する。

[正答率: 67.6 %]

誤答の「4」を選択した児童は「筋力を高める運動」「腹筋運動」と「腕立てふせ」であることを捉えることはできたが、「筋力を高める運動」が「瞬間的に大きな力を出す」ものであることを捉えることができなかったと考えられる。



正答の「3」を選択した児童は、【資料1】から、「筋力を高める運動」は「瞬間的に大きな力を出す」ものであること、【資料2】から、「筋力を高める運動」の例が「腹筋運動」と「腕立てふせ」であることを、それぞれの資料の文章や図などを結び付けることができたと考えられる。

本設問は、目的に応じて、文章と図表を結び付けて必要な情報を見付けることが求められていた。これに関連して、令和7年度調査大問3三を出題したが、**文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに、引き続き課題が見られる結果となった。**

指導改善のポイント

必要な情報を見付けるためには、文章の要旨を捉えた上で、図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしながら、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要である。目的に応じて必要な情報かどうかを確かめたり、情報と情報がどのような関係にあるのかを考えたりしながら読むことができるように指導すると効果的である。

「令和5年度【小学校国語】報告書」

大問2 授業アイデア例

https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukouku/report/data/23plang_ida_a_02_k.pdf#page=13



結果のポイント②-2

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題がある。

具体的な設問例

大問3三(2)

【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由としてまとめて書く。

条件① 納得したことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書くこと。

条件② 納得した理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

(2)

木村さんは、「資料1」を読み返して言葉の変化について自分が一番なっとくしたことを、
 「資料2」、「資料3」、「資料4」に書かれていることを理由にしてまとめることにしました。
 あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

○ ○ 言葉の変化についてなっとくしたことを「資料1」から言葉や文を取り上げて書くこと。
 ○ なっとくした理由を「資料2」、「資料3」、「資料4」の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

※次の枠は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

解答の分析

無解答率16.1%

正答例 〔正答率56.5%〕	<u>言葉は年月とともに変化することになっとくしました。なぜなら、「新しい」という言葉が、奈良時代には「あらたし」と言われていたように、時代とともに言葉の形が変わることがあるからです。</u>
誤答例	<u>言葉の広がりや深さにも、ふれていただきたいということになっとくしました。これからも言葉を大切にしたいと思います。</u>

○誤答例の解説

このように解答した児童は、納得したことは【資料1】から言葉や文を取り上げて書いている。しかし、納得した理由を【資料2】【資料3】【資料4】から言葉や文を取り上げて書いていない。（条件②を満たしていない）

指導改善のポイント

複数の資料を結び付けて読む学習活動を設定し、それぞれの資料がどのような関係にあるのかを考えながら読むことが重要である。その際、それぞれの資料にある、語句や情報を丸や四角で囲んだり、線などでつないだりするなどして、どの部分と結び付くのか視覚的に明らかにしながら読む指導を行うことが効果的である。

「令和7年度【小学校国語】報告書」
大問3 授業アイデア例

https://www.nier.go.jp/25chousakekkahou_koku/report/data/25plang_idea_03.pdf#page=13



問題作成の
ポイント

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づいて、その全体を視野に入れながら、中心的に取り上げるものを出題している。今年度は、

- 過年度の調査結果に見られた課題等を踏まえ、話や文章の構成や展開について考えたり、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたりすることができるかどうかを問う問題を出題した。

結果のポイント

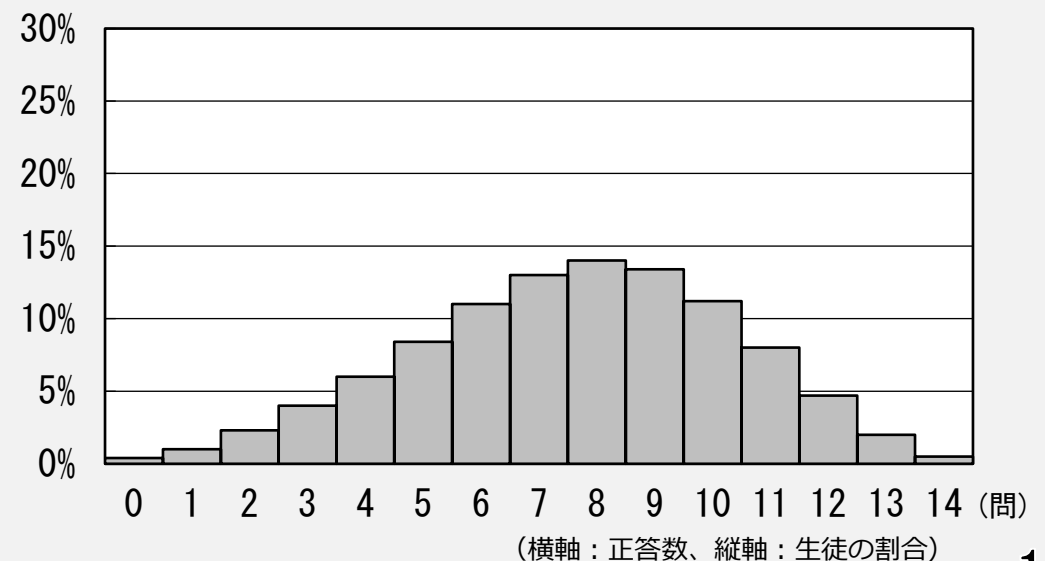
- 【p.11】文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることはできている。
- 【p.12】自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。
- 【p.13】読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題がある。

〈分類・区分別集計結果〉

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	48.5
		(2)情報の扱い方に関する事項	0	
		(3)我が国の言語文化に関する事項	0	
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	53.4
		B 書くこと	5	53.1
		C 読むこと	3	62.6
評価の観点		知識・技能	2	48.5
		思考・判断・表現	12	55.6
問題形式		選択式	8	64.2
		短答式	2	73.8
		記述式	4	25.6

〈中学校国語の生徒の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
7.6問/14問	54.6%	8.0問	2.7問	8問



結果のポイント①

文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることはできている。

具体的な設問例 大問3二

「二人の兄弟」の物語の中で、「兄」と「弟」がどのような性格の人物として描かれているかを書く。

3 次の文章は、島崎藤村が書いた「二人の兄弟」という物語です。この物語は、「一 榎木の実」「二 釣の話」で構成されています。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

二人の兄弟

一 榎木の実

島崎藤村

皆さんは榎木の実を拾ったことがありますか。あの実の落ちている木の下へ行ったことがありますか。あの香しい木の実を集めたり食べたりして遊んだことがありますか。

そろそろあの榎木の実が落ちる時分でした。二人の兄弟はそれを拾うのを楽しみにして、まだあの実が青くて食べられない時分から、早く紅くなれ早く紅くなれと言って待っていました。

二人の兄弟の家には奉公して働いている正直な好いお爺さんがありました。このお爺さんは山へも木を伐りに行くし、田へも野菜をつくりに行つて、何でもよく知っていました。

このお爺さんが兄弟の子供に申しました。

「まだ榎木の実はまだ食べられません。もう少しお待ちなさい」とそう申しました。

弟は気の短い子供で、榎木の実の紅くなるのが待てていられませんでした。お爺さんが止めるのも聞かずに、馳出して行きました。この子供が木の実を拾いに行きますと、高い枝の上のいた一羽の、榎鳥が大きな声を出しまして、

「早過ぎた。早過ぎた」と鳴きました。

気の短い弟は、枝に生っているのを打ち落とすつもりで、石ころや棒を拾っては投げつけました。その度に、榎木の実が葉と一緒に落ちて、バラバラバラ落ちて来ましたが、どれもこれも、まだ青くて食べられないばかりでした。

そのうちに今度は兄の子供が出掛けて行きました。兄は弟と違って気長な子供でしたから「大丈夫、榎木の実はまだ紅くなっている」と安心して、ゆっくり構えて出掛けて行きました。兄の子供が木の実を拾いに行きますと、高い枝の上のいた榎鳥がまた大きな声を出しまして、

「遅過ぎた。遅過ぎた」と鳴きました。

気長な兄は、しきりと木の下を探し廻りましたが、紅い榎木の実は一つも見つかりませんでした。この子供がゆっくり出掛けて行くうちに、木の下に落ちていたのを皆な他の子供に拾われてしまいました。

二人の兄弟がこの話をお爺さんにしたら、お爺さんがそう申しました。

「二人はあんまり早過ぎたし、一人はあんまり遅過ぎました。丁度いい時を知らなければ、好い榎木の実は拾われません。私がその丁度いい時を覚えてあげます」と申しました。

ある朝、お爺さんが二人の子供に、「さあ、早く拾いにお出なさい、丁度いい時が来ました」と教えました。その朝は風が吹いて、榎木の枝が揺れるような日でした。二人の兄弟が急いで木の下へ行きますと、榎鳥が高い枝の上からそれを見ていまして、

「丁度いい。丁度いい」と鳴きました。

榎木の下には、紅い小さな球のような実が、そこにも、ここにも、一ぱい落ちこぼれていました。二人の兄弟は木の周囲を廻って、拾っても、拾っても、拾いきれないほど、それを集めて楽しみました。

榎鳥は首を傾げて、このありさまを見ていました。

「なんとこの榎木の下には好い実が落ちていまして。沢山お拾いなさい。序に、私も一つ御褒美を出しますから、それも拾って行って下さい」と言いながら青い翼の入った小さな羽を高い枝の上から落としてよこしました。

二人の兄弟は榎木の実ばかりでなく、榎鳥の美しい羽を拾い、おまけにその大きな榎木の下で、「丁度いい時」までも覚えて帰って来ました。

解答の分析

無解答率 3.9%

(正答の条件)

次の条件を満たして解答している。

- ①兄の欄に「気が長い」のように解答している。
②弟の欄に「気が短い」のように解答している。

正答

条件①、②を満たして解答しているもの・・・90.0%

誤答ア

条件①を満たし、条件②を満たさないもの・・・1.4%

誤答イ

条件②を満たし、条件①を満たさないもの・・・1.4%

正答について

(正答率)
90.0%

文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることはできている。物語の描写を基にして、登場人物の人物像や相互関係などがどのように設定されているかを考えながら読むことができていると考えられる。

学習指導に当たって

文学的な文章においては、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の人物像や相互関係などがどのように設定されているかを考えながら読むことが大切である。

結果のポイント②

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。

具体的な設問例 大問 1 四

【ちらし】に、小学生の感想をもとに今年の美術展で工夫したことを書き加える。

条件 1：今年の美術展の【工夫】と、【工夫】と結びつく小学生の【感想の一部】を選択する。

条件 2：1で選んだ【工夫】と【感想の一部】との関係が分かるように、接続する語句や指示する語句を用いて書く。

【ちらし】(更新版②)

第一中学校 美術展

毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。
私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれもかいいしんの出来です。
今年は、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。

日時 令和7年11月15日(土) 10時～16時
場所 第一中学校 体育館
会場図

体験できる時間(各回30分間)
① 10時～ ② 11時～ ③ 12時～ ④ 13時～
中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくるができます。

第一小学校6年生のみなさんへ

【工夫】

- A 作品に込めた思いや作品をつくる過程について、中学生が、来場者の求めに応じて説明する。
- B 昨年はおみやげにしていたペン立てを、今年は体験コーナーを設けて、小学生につくってもらう。中学生は、美術の時間に学んだことを生かし、手助けや助言をする。

【感想の一部】

- A どうやってあんなすばらしい作品をつくったのか知りたくなりました。美術でどんなことを学べるのが楽しみです。
- B いろいろな作品が展示されていて楽しかったです。思いのこもった作品が多いうに感じました。
- C おみやげにペン立てをもらえてよかったです。手づくりだと聞いてびっくりしました。私もつくってみたいです。

解答の分析

無解答率1.6%

正答例 (正答率) 31.2%	<u>昨年の来場者から、どうやって作品を作ったのか知りたくなったという感想をもらいました。そこで、今年は中学生が作品について説明します。気になる作品があったら、ぜひ中学生に質問してください。</u>
誤答例	① 昨年は、 <u>おみやげのペン立てを私もつくってみたいという感想をもらいました。しかし、今年は、自分でペン立てをつくる体験コーナーがあります。</u> ② <u>今年の美術展では、中学生が作品について説明します。昨年参加した小学生の感想に、いろいろな作品が展示されていて楽しかったという声がありました。</u>

○誤答例の解説

- 誤答例①のように解答した生徒は、接続する語句や指示する語句を用いて、書くことはできている。一方で、【工夫】と【感想の一部】との関係を適切に示して書くことができていないと考えられる。
- 誤答例②のように解答した生徒は、【工夫】と【感想の一部】を選び、その内容を適切に取り上げて書くことはできている。一方で、接続する語句や指示する語句を用いて、適切に関係付けて書くことができていないと考えられる。

指導改善のポイント

根拠を明確にするためには、自分の考えが事実や事柄に基づいたものであるかを確認することが必要である。その際に、接続する語句や指示する語句を用いるなどして、伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くよう指導することが大切である。



問題作成の
ポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、算数の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、解決過程を振り返って概念を形成したり体系化したりする過程を遂行する」という数学的活動を行う文脈を重視した。今年度は、

- 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、小数や分数の計算の仕方について統合的・発展的に考察できるかを問う問題を出題した。
- 日常生活の問題を解決するために、伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係について考察できるかを問う問題を出題した。
- 日常の事象について、目的に応じて表やグラフからデータの特徴や傾向を捉え考察できるかを問う問題を出題した。

結果のポイント

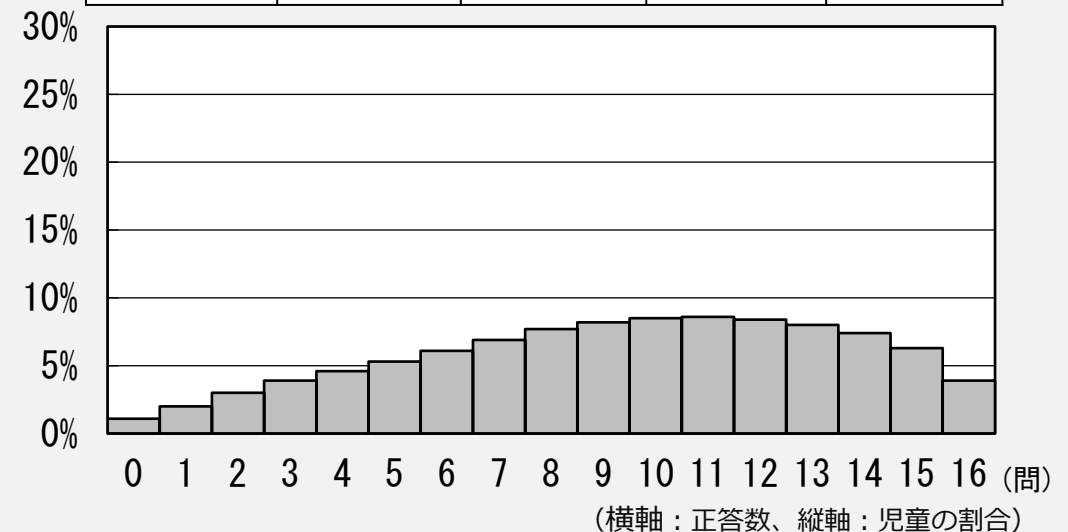
- 【p.15】異分母の分数の加法の計算をすることはできているが、数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることに課題がある。
- 【pp.16-17】伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見だすことはできているが、百分率を用いる場面において、倍を使って捉え直し表現することに課題がある。
- 【pp.18-20】棒グラフから項目間の関係を読み取ることはできているが、目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の 領域	数と計算	8	62.5
	図形	4	56.4
	測定	2	55.0
	変化と関係	3	57.7
	データの活用	5	62.8
評価の観点	知識・技能	9	65.7
	思考・判断・表現	7	48.5
問題形式	選択式	6	67.4
	短答式	6	64.2
	記述式	4	35.2

〈小学校算数の児童の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
9.3問/16問	58.2%	10.0問	4.0問	11問



結果のポイント①

異分母の分数の加法の計算をすることはできているが、数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることについては課題がある。

具体的な設問例
大問3(4)

$\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ の加法の計算をする。

(4) $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ を計算しましょう。

解答の分析

無解答率4.1%

$\frac{5}{6}$ と解答しているもの（大きさの等しい分数を含む）	81.5%
$\frac{1}{3}$ 又は $\frac{2}{6}$ と解答しているもの（大きさの等しい分数を含む）	2.9%
$\frac{1}{6}$ と解答しているもの（大きさの等しい分数を含む）	0.6%
上記の3つ以外で、分母が6である分数を解答しているもの	2.3%
$\frac{2}{5}$ と解答しているもの（大きさの等しい分数を含む）	2.5%
上記の5つ以外の解答	6.2%

具体的な設問例
大問3(3)

数直線上に示された数を分数で書く。

(3) 次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう。



解答の分析

無解答率7.8%

正答 (正答率 35.4%)	アを $\frac{1}{3}$ と解答し、イを $\frac{5}{3}$ 又は $1\frac{2}{3}$ と解答しているもの
誤答例	アを $\frac{1}{3}$ と解答し、イを $\frac{5}{6}$ 又は $\frac{2}{3}$ と解答しているもの
○誤答例の解説 アについては0から1までが3等分されていることから、 $\frac{1}{3}$ であると捉えることはできているが、イについては0から2までが6等分されていることから $\frac{5}{6}$ であると誤って捉えていると考えられる。又は1から2までが3等分されていることから $\frac{2}{3}$ と誤って捉えていると考えられる。	

指導改善のポイント

0から1までが何等分されているのかに着目して、単位分数を捉えることができるようにすることが大切である。その上で、他の目盛りが表す分数を単位分数の幾つ分かで考えることができるようにすることも大切である。

「令和7年度【小学校算数】報告書」

大問3 授業アイディア例

https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25pmath_idea_03.pdf#page=17



結果のポイント②

伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことはできているが、「10%増量」の意味を解釈し、「増加後の量」が「増加前の量」の何倍になっているかを表すことに課題がある。

具体的な設問例
大問4(1)

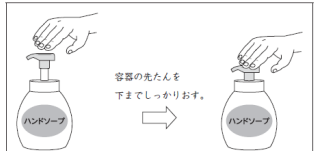
新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選択する。

保健委員のあさひさんは、手を洗うときに使っているハンドソープについて詳しく調べています。

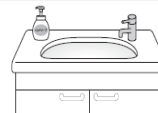


あさひ ハンドソープを空になるまで使ったら、何プッシュすることができるのかを知りたいです。

「プッシュとは、容器の先たんを下までしっかり！ 回すことです。」「プッシュしたとき、ハンドソープの液体が毎回同じ量ずつ出ることします。」



(1) まず、あさひさんは、保健室にある新品のハンドソープを空になるまで使うとしたら、何プッシュすることができるのかを考えています。



あさひ 保健室にある新品のハンドソープには、ハンドソープの液体が240 mL入っています。

新品のハンドソープには、ハンドソープの液体が240 mL入っています。新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るためには、240 mLの他に何がわかれればよいですか。

下の ア から エ までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

ア	「プッシュ分」のハンドソープの液体の量	3 mL
イ	「プッシュするときにおす長さ	2 cm
ウ	あさひさんが1日にプッシュする回数の平均	8 回
エ	あさひさんが手を洗うときにかかる時間の平均	60 秒

具体的な設問例
大問4(4)

10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選択する。

(4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。

広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800 mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。上の○にあてはまる数を、下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.1
- 2 1.1
- 3 10
- 4 110

解答の分析

無解答率2.5%

アと解答しているもの	82.9%
イと解答しているもの	3.8%
ウと解答しているもの	7.5%
エと解答しているもの	1.4%
上記以外の解答	1.8%

○誤答の解説

ウと解答した児童は、ハンドソープの液体の量のほかに、あさひさんが1日にプッシュする回数の平均が必要であると判断していると考えられる。

解答の分析

無解答率4.1%

正答 〔正答率 41.3%〕	2 1.1
誤答例	1 0.1 (37.4%) 3 10 (14.6%)

○誤答の解説

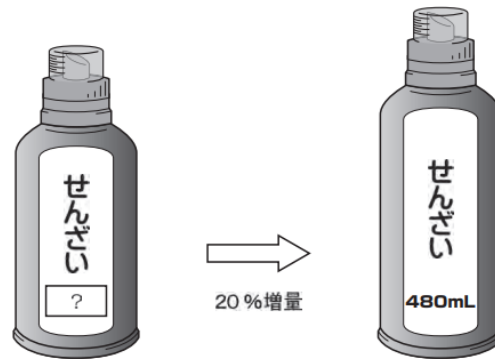
1 「10%増量」について、百分率で表された10%を0.1と捉えることはできているが、「増加後の量」が「増加前の量」の110%になることを捉えることはできていないと考えられる。又は、「増加後の量」が「増加前の量」の1.1倍と捉えることができていないと考えられる。

3 「10%増量」について、「増加後の量」は「増加前の量」の10倍と捉えているとも考えられる。

関連する過去の問題 平成27年度B2(2)

日常生活の事象において、示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができるかどうかをみる。

(2) 次に、せんざいを買います。家で使っているせんざいが、20%増量して売られていました。増量後のせんざいの量は480 mLです。
増量前のせんざいの量は何 mL ですか。求める式と答えを書きましょう。



解答の分析

正答例
〔正答率 13.4%〕

【式】 $480 \div 1.2$
【答え】 400

誤答例

- ① 【式】 480×0.8
【答え】 384
② 【式】 $480 \div 0.2$
【答え】 2400

○誤答例の解説

①増量後の量を基準として20%減量した量が、増量前の量になると捉え、増量後の量の80%に当たる量を求める式を解答している。

②20%増量前後の数量関係を捉えることができずに、問題に示された量と割合を乗除の式に表そうとしている。

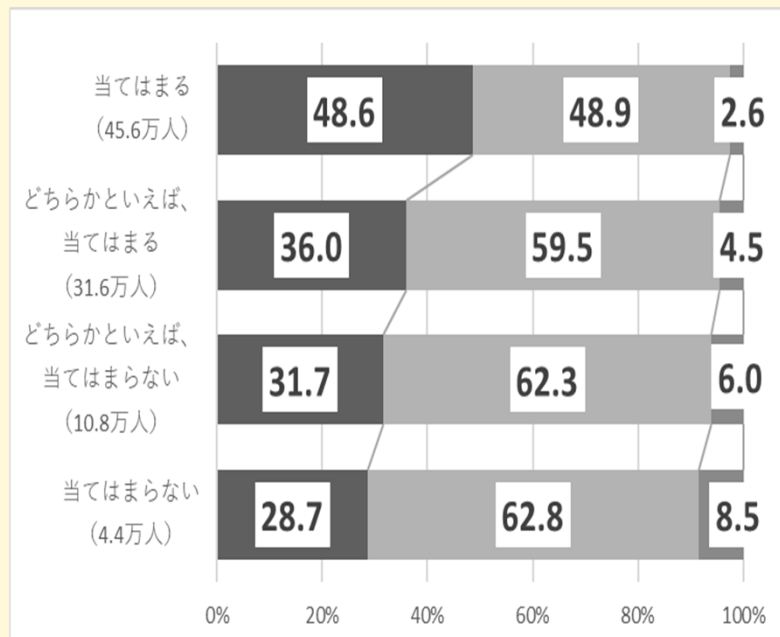
指導改善のポイント

基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるようにすることが重要である。

クロス集計 児童質問調査 × 大問4(4)の正答率

児童質問調査〔56〕「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか」の各選択肢を選んだ児童の本設問における解答状況(%)

■ 正答 ■ 誤答 ■ 無解答 0.153



この質問に否定的に回答したグループの方が、大問4(4)の正答率が低く、無解答率も高い。

「令和7年度【小学校算数】報告書」
大問4 授業アイデア例

https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25pmath_idea_04.pdf#page=17



結果のポイント③

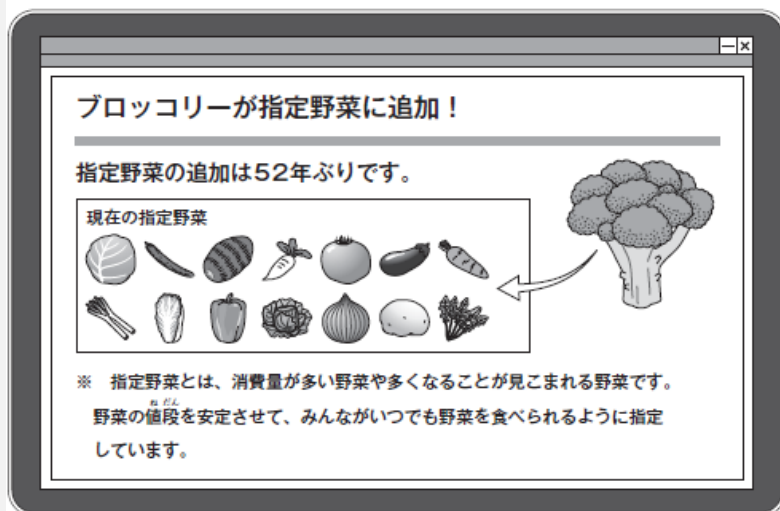
棒グラフから、項目間の関係を読み取ることはできている。

具体的な設問例

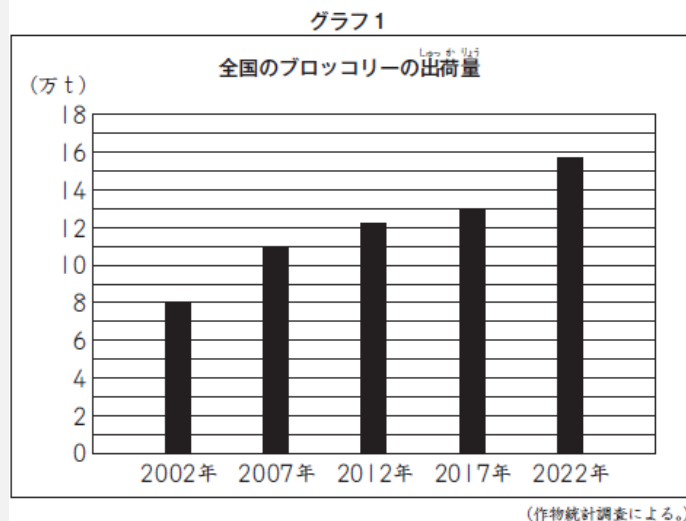
大問 1 (1)

2022年の全国のプロッコリーの出荷量が2002年の全国のプロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選択する。

あいりさんたちは、2026 年度からプロッコリーが指定野菜に追加されることをニュースで知り、指定野菜について調べることにしました。



(1) あいりさんは、プロッコリーについて調べていると、右のグラフ1を見つけました。



グラフ1からわかることを、次のようにまとめます。

2022年の全国のプロッコリーの出荷量は、2002年の出荷量の約 倍になっています。

上の に入る数を、下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.5
- 2 2
- 3 8
- 4 16

解答の分析

無解答率0.4%

1	4.0 %
2	78.8 %
3	13.6 %
4	3.0 %
上記以外	0.2 %

○誤答の解説

3 2022年の出荷量が約16万t、2002年の出荷量が約8万tであることを読み取り、誤ってその差を求めていると考えられる。又は、2002年の出荷量が約8万tであることから、8と解答していると考えられる。

結果のポイント④

目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。

具体的な設問例

大問1(2)

都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選択し、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く。

(2) あいりさんは、自分たちが住んでいる都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べています。調べていると、2013年と2023年について、右のグラフ2とグラフ3を見つけました。



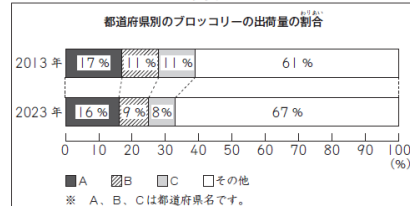
グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか一つのグラフを見れば、都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかわかります。

2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。
また、その記号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこに着目したかがわかるようにしましょう。

ア 2023年は2013年より増えた。

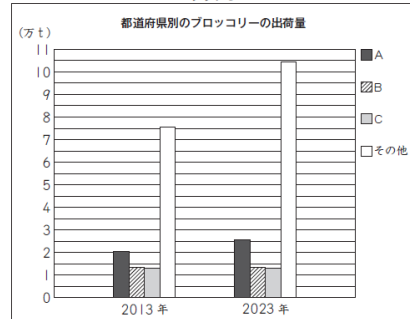
イ 2023年は2013年より減った。

グラフ2



(作物統計調査による。)

グラフ3



(作物統計調査による。)

解答の分析

無解答率0.9%

正答例
正答率
31.2%

【記号】ア

【わけ】グラフ3を見ると、2013年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量は約2万t、2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量は約2.5万tで2023年の方が多いです。だから、都道府県Aのブロッコリーの出荷量は増えています。

誤答例

①【記号】ア

【わけ】グラフ3を見ると、2013年は7.5万tで、2023年は10.5万tで2023年の方が多いからです。

②【記号】イ

【わけ】グラフ2を見ると、2013年は17%で、2023年は16%なので、1%減っています。

○誤答例の解説

①2023年は2013年より増えたと判断できており、グラフ3に着目したことも記述できており、グラフ3に着目したことも記述できているが、2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量に着目して、2013年より多いことは記述できていない。

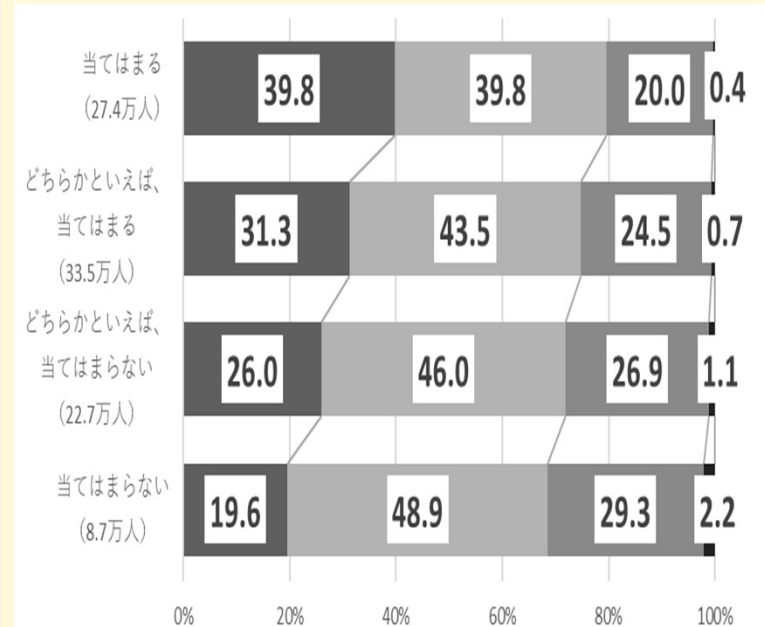
②都道府県Aのブロッコリーの出荷量の割合に着目し、2023年は2013年より減ったと判断していると考えられる。

クロス集計

児童質問調査 × 本設問の正答率

児童質問調査〔58〕「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」の各選択肢を選んだ児童の本設問における解答状況(%)

正答 記号のみ正答 誤答 無回答 0.132



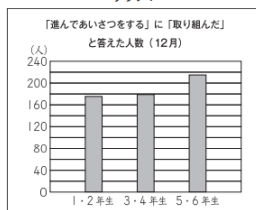
この質問に否定的に回答したグループの方が、大問1(2)の正答率が低く、記号のみ正答だった割合が高い。

関連する 過去の問題 平成30年度B3 (2)

一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができるかどうかをみる。

しおりさんたちは、「進んであいさつをする」について、12月のアンケート調査の結果を、1・2年生、3・4年生、5・6年生に分けて調べました。
そして、「進んであいさつをする」に「取り組んだ」と答えた人数を、グラフ1に表しました。

グラフ1

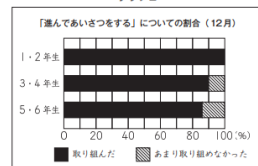


「取り組んだ」と答えた人数が、いちばん多いのは5・6年生ですね。

でも、1・2年生、3・4年生、5・6年生の学年の人数が、それぞれ175人、200人、250人と、ちがうので、「取り組んだ」と答えた人数の割合も調べてみませんか。

しおりさんたちは、1・2年生、3・4年生、5・6年生それぞれの、学年の人数をもとにしたときの「進んであいさつをする」に「取り組んだ」と答えた人数の割合を求め、グラフ2に表しました。

グラフ2



(2) グラフ1とグラフ2を見て、次のようにまとめます。

- ・「進んであいさつをする」に「取り組んだ」と答えた人数が、いちばん少ないのは [②] です。
- ・ [②] の、「進んであいさつをする」に「取り組んだ」と答えた人数の割合は、いちばん [④] です。

上の②にはあてはまるものを、下の 1 から 3 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、上の④にはあてはまるものを、下の 4 と 5 から選んで、その番号を書きましょう。

- | | |
|---------|-------|
| ① 1・2年生 | ④ 小さい |
| ② 3・4年生 | ⑤ 大きい |
| ③ 5・6年生 | |

解答の分析

正答率

24.0%

過去の調査においては、複数のグラフから読み取ることができる情報を関連付けながら考察することに課題があった。

指導改善のポイント

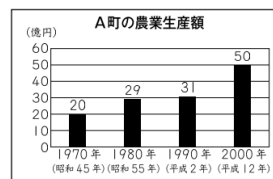
様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現できるようにすることが重要である。その際、グラフのどの部分やどの数値に着目したのかを説明するなど、他者に分かりやすく表現できるようにすることが大切である。

関連する 過去の問題 平成20年度B2 (3)

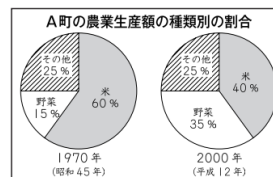
1970年と2000年の米の生産額（比較量）の大小を判断するために、各年の農業生産額（基準量）と米の生産額の割合の両方を基にする必要があることを理解し、そのことを基に他者の考え方が正しいかどうかを判断して、その理由を言葉や式を用いて記述できるかどうかをみる。

ひろしさんが住んでいるA町の農業生産額について、下の2種類の資料を使って調べます。

棒グラフは、農業生産額を1970年から10年ごとに表しています。



円グラフは、1970年と2000年の農業生産額の種類の割合を表しています。



(3) 次は、米について考えます。

A町の1970年と2000年の米の生産額について、ひろしさんは、次のように言いました。

米の割合が、60%から40%に減っているから、米の生産額は、減っています。



ひろし

ひろしさんの言っていることは、正しいですか。「正しい」か「正しくない」かのどちらかを○で囲みましょう。また、そのわけを、言葉や式を使って書きましょう。

解答の分析

正答率

17.6%

過去の調査においては、1970年と2000年の米の生産額（比較量）の大小を判断するために、各年の農業生産額（基準量）と米の生産額の割合の両方を基にする必要があることを理解し、そのことを基に他者の考え方が正しいかどうかを判断して、その理由を言葉や式を用いて記述することに課題があった。

「令和7年度【小学校算数】報告書」

大問1 授業アイディア例

https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25pmath_idea_01.pdf#page=16



問題作成の
ポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、解決過程を振り返って概念を形成したり体系化したりする過程を遂行する」という数学的活動を行う文脈を重視した。今年度は、今後の学習において活用される基礎的・基本的な知識及び技能や、その知識及び技能が、生徒が問題解決をしていく過程でどのように用いられているかについて明確にして問題を出題した。

- 生徒が目的意識をもって数学的に問題発見・解決する過程を遂行することに配慮し、問題を出題した。
- 学習指導要領第2章第3節数学における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題した。

結果のポイント

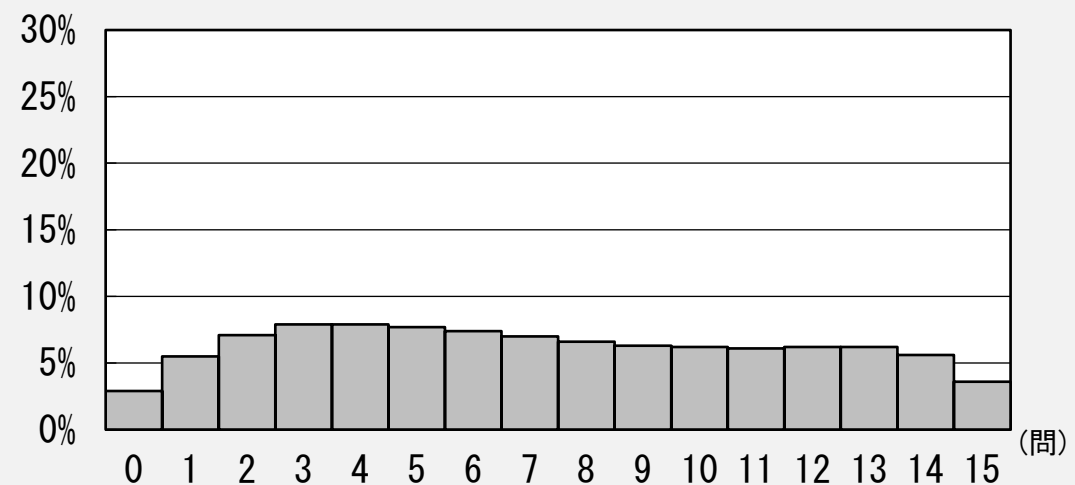
- 【pp.22-23】必ず起こる事柄の確率について理解できているが、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについては課題がある。
- 【p.24】数学の用語の意味の理解に課題がある。
- 【pp.25-27】統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することに課題がある。また、証明したことを基に、新たに見いだした事柄を証明することにも課題がある。

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の 領域	数と式	5	44.1
	図形	4	47.0
	関数	3	48.8
	データの活用	3	59.0
評価の観点	知識・技能	9	54.8
	思考・判断・表現	6	39.7
問題形式	選択式	3	54.4
	短答式	7	52.5
	記述式	5	40.2

〈中学校数学の生徒の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
7.3問/15問	48.8%	7問	4.2問	4問



(横軸：正答数、縦軸：生徒の割合)

結果のポイント①

必ず起こる事柄の確率については理解しているが、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについては課題が見られる。

具体的な設問例 大問7(1)

Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く。

〈日常生活からの場面設定〉

- 7 優斗さんと芽依さんは、地域のイベントで「じゃんけんカードゲーム」を行うことを計画しました。そこで、表に「グー」、「チョキ」、「パー」の絵がかかれたカードをそれぞれ同じ枚数ずつたくさん準備しました。これらのカードを裏にすると、表の「グー」、「チョキ」、「パー」の絵はわかりません。
- 二人は、これらのカードを使ったゲームの進め方を、次のように考えました。



進め方

- ① 準備したすべてのカードを裏にしてよく混ぜ、裏にしたまま、対戦するAとBの手元にそれぞれ3枚ずつ並べる。



- ② AとBは、手元のカードのいずれか1枚を同時に表にする。じゃんけんのルールをもとに勝敗を決め、負けた人は勝った人に表にしたカードを渡す。これを1回目とする。



勝った人に渡す



ただし、あいこのときはカードの受け渡しをせず、1回目を終了する。

- ③ 1回目終了後、自分の手元のカードを、すべて裏にしてよく混ぜてから並べ、②と同様に2回目を行う。
- ④ 2回目終了後、手元のカードの枚数に応じて景品をもらう。

優斗さんと芽依さんは、前ページの進め方でゲームを行うときのAとBのそれぞれの勝ちやすさについて調べることにしました。

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。ただし、手元のカードのいずれか1枚を表にするとき、どのカードを表にすることも同様に確からしいものとします。

- (1) 優斗さんと芽依さんは、前ページの進め方では、右の図のようにAとBのそれぞれの手元のカードが同じ絵のカードになる場合があることに気づきました。



Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」で1回目を行うとき、次のことがいえます。

1回目は必ずAが勝つから、1回目にAが勝つ確率は である。

上の に当てはまる数を書きなさい。

解答の分析

無解答率3.1%

正答 (正答率 77.6%)	1
誤答例	① 100 …4.5%
	② $\frac{1}{3}$ …4.6%
	③ $\frac{1}{2}$ …3.0%
○誤答例の解説	
①必ず起こる事柄の確率を100と捉えていると考えられる。	
②じゃんけんの結果についての「勝ち」、「負け」、「あいこ」の3通り、カードの表の絵の「グー」、「チョキ」、「パー」の3種類、手元のカードが3枚など、「3」に着目して、1回目にAが勝つ確率は $\frac{1}{3}$ と求めたと考えられる。	
③じゃんけんの勝敗についての「勝ち」、「負け」の2通りなど、「2」に着目して、1回目にAが勝つ確率は $\frac{1}{2}$ と求めたと考えられる。	

結果のポイント①

必ず起こる事柄の確率については理解しているが、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについては課題がある。

具体的な設問例

大問7 (2)

Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する。

〈日常生活からの場面設定〉

(2) 優斗さんと芽依さんは、手元のカードの絵によっては、Aが必ず勝ったり、Bが必ず勝ったりする場合があることに気づきました。そこで、二人は、手元のカードがいろいろな場合で、AとBのそれぞれの勝ちやすさについて考えることにしました。



調べたこと

A	B	
グー	チョキ	○カードの絵の出方は全部で9通り
グー	チョキ	○Aが勝つ場合は4通り
グー	パー	○Bが勝つ場合は4通り
グー	パー	○あいこになる場合は1通り
チョキ	チョキ	・Aが勝つ確率は $\frac{4}{9}$
チョキ	パー	・Bが勝つ確率は $\frac{4}{9}$
パー	チョキ	・あいこになる確率は $\frac{1}{9}$
パー	パー	

優斗さんと芽依さんは、前ページの調べたことをもとに話し合っています。

優斗さん「AとBの勝つ確率は、どちらも $\frac{4}{9}$ だから、勝ちやすさは同じだね。」
 芽依さん「手元のカードが3枚ずつのとき、カードの絵によって、AとBのどちらかが勝ちやすかったり、勝ちやすさが同じだったりするね。」
 優斗さん「AとBの手元のカードの枚数が違うとき、勝ちやすさはどうなるのかな。」

二人は、Aの手元のカードの枚数が4枚、Bの手元のカードの枚数が2枚の場合で、AとBのそれぞれの勝ちやすさについて考えることにしました。

そこで、Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚で、AとBのそれぞれの勝ちやすさについて調べることにしました。



このとき、AとBのどちらが勝ちやすいですか。下のアからウまでの中から正しいものを1つ選び、それが正しいことの理由を、確率を求め、その値を用いて説明しなさい。

ア Aの方が勝ちやすい。

イ Bの方が勝ちやすい。

ウ AとBの勝ちやすさは同じである。

解答の分析

無解答率2.2%

正答例

正答率
56.3%

○ウを選択
【理由】

- ・Aの勝つ確率は $\frac{3}{8}$ であり、Bが勝つ確率は $\frac{3}{8}$ であることからAの勝つ確率と、Bの確率は等しいから、AとBの勝ちやすさは同じであると解答 … **53.0%**
- ・全部で8通りの出方があり、Aが勝つ場合の数とBが勝つ場合の数はそれぞれ3通りで等しいから、AとBの勝ちやすさは同じであると解答 … **3.3%**

誤答例

○ウを選択したが、理由が誤っているもの

- ① 例「Aの勝つ確率は $\frac{3}{8}$ である。」 「 $\frac{3}{8}$ だから。」 … **1.0%**
- ② 例「A、Bそれぞれの勝つ確率が $\frac{1}{3}$ で等しいから。」 … **7.2%**
- ③ 上記以外の回答、又は無回答 … **11.9%**
- アを選択しているもの … **5.4%**
- イを選択しているもの … **4.4%**

ウを選択した生徒は全体の76.4%であり、勝ちやすさが等しいことを理解できている生徒もいる一方で、そのように判断した理由を数学的な表現を用いて説明することには課題があると考えられる。

○誤答例の解説

- ① A、Bのどちらか一方の勝つ確率のみ、又は、確率が $\frac{3}{8}$ であることのみを記述している。
- ② 根拠として、誤った確率又は場合の数を記述している。

指導改善のポイント

直観的な予想が外れやすい不確定な事象を取り上げ、起こりやすさについて確率を求めて判断する活動を取り入れることが大切である。この活動を通して、確率を用いることの必要性を理解するとともに、判断の理由を確率を用いて説明できるように指導することが大切である。

結果のポイント②

数学の用語の意味の理解に課題がある。

具体的な設問例

- 大問1 1から9までの数の中から素数をすべて選ぶ。
 大問4 一次関数 $y=6x+5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める。
 大問5 ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める。

- ① 下の1から9までの数の中から素数をすべて選び、選んだ数のマーク欄を黒く塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

- ④ 一次関数 $y = 6x + 5$ の変化の割合は6です。この一次関数について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求めなさい。

- ⑤ 下の表は、ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表です。

階級 (m)	度数 (人)
以上 未満	
5 ~ 10	3
10 ~ 15	8
15 ~ 20	9
20 ~ 25	10
25 ~ 30	6
30 ~ 35	3
35 ~ 40	1
合計	40

20 m 以上 25 m 未満の階級の相対度数を求めなさい。

解答の分析

無解答率0.7%

正答 (正答率) 32.2%	2、3、5、7 と解答
誤答例	① 3、5、7 ② 2、3、5、7、9 ③ 1、2、3、5、7 …19.5% ④ 1、3、5、7 …10.1% ⑤ 1、3、5、7、9 … 8.5% ⑥ 上記3～5以外で1を含んで解答しているもの …11.9%
○誤答の解説 ③～⑥の反応率の合計は50%であり、1が素数に含まれると捉えている生徒がいると考えられる。	

解答の分析

無解答率7.9%

正答 (正答率) 35.4%	12
誤答例	① 17 …29.1% ② 6 …6.3%
○誤答の解説 ①17と解答した生徒の中には、 x の増加量を x の値と捉え、 $y = 6x + 5$ に $x = 2$ を代入し、 y の値を求めた生徒がいると考えられる。	

解答の分析

無解答率9.2%

正答 (正答率) 43.1%	0.25
誤答例	① 10 …15.6% ② 4 …5.9% ③ 30 …6.8%
○誤答の解説 ①10と解答した生徒の中には、階級の相対度数と階級の度数を混同している生徒がいると考えられる。	

指導改善のポイント

整数の性質について理解を深める場面において、整数を様々な視点で分類し、1より大きい自然数のうち、1とその数自身以外には約数をもたない数の集合が素数であることを理解できるように指導することが大切である。

指導改善のポイント

一次関数について、表、式、グラフを関連付けて、 x の値の変化に伴って、 y の値がどのように変化するかを調べる活動を通して、変化の割合の意味や一次関数の変化の割合が一定であることを理解したり、 x の増加量に対する y の増加量を求めたりすることができるように指導することが大切である。

指導改善のポイント

大きさの異なる複数のデータの分布の傾向を考察する活動を設定し、ある階級の度数の総度数に対する割合を求めて比較する場面を取り入れることを通して、相対度数の必要性和意味について理解できるように指導することが大切である。

結果のポイント③

統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することに課題がある。

具体的な設問例

大問9(2)

平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上に $BE=DF$ となる点E、Fをそれぞれとっても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する。

解答の分析

無解答率7.1%

正答例
〔正答率〕
37.0%

Ⅰを選択し
「②、③より、 $AD+DF=BC+BE$ …④」
と記述しているもの

誤答例

①Ⅰを選択し
「②、③より、 $AD+DF=BC+BE$ …④」
以外を記述しているもの …12.4%

②Ⅰを選択し、無解答 … 5.9%

③ア・イ・ウのいずれかを選択し、記述しているもの、または無解答であるもの …30.2%

○誤答例の解説

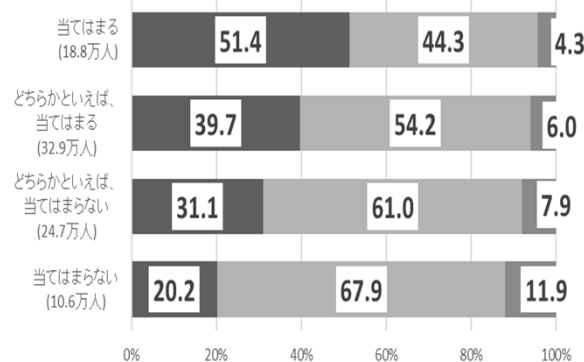
- ①Ⅰを選択したものの、「 $AF-DF=EC-BE$ 」という解答が見られた。この中には、書き直す部分は捉えているが、「 $AF=AD+DF$ 」、「 $EC=BC+BE$ 」と捉えることができなかった生徒がいると考えられる。
- ③ア、イ、ウのいずれかを選択しているものが30.2%である。この中には、イを選択し、「 $AF=CE$ 」という解答がみられた。これは、結論から導かれる性質を根拠として用いてしまっていると考えられる。

クロス分析

生徒質問調査 × 本設問の正答率

生徒質問調査〔58〕「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」の各選択肢を選んだ生徒の本設問における解答状況(%)

■ 正答 ■ 誤答 ■ 無解答 0.199



この質問に否定的に回答したグループの方が、大問9(2)の正答率が低く、無解答率も高い。

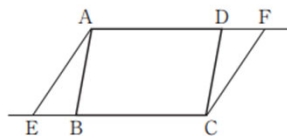
授業アイディア例

「令和7年度【中学校数学】報告書」大問9 授業アイディア例

https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mmath_idea_09.pdf#page=9



図2



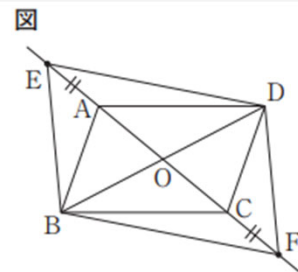
ア	平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、 $AD \parallel BC$ よって、 $AF \parallel EC$ ……①
イ	平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、 $AD = BC$ ……②
ウ	仮定より、 $DF = BE$ ……③
エ	②、③より、 $AD - DF = BC - BE$ ……④
オ	④より、 $AF = EC$ ……⑤
	①、⑤より、 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、 四角形AECFは平行四辺形である。

関連する過去の問題

平成30年度B4(2)

平行四辺形ABCDの外側に2つの点E、Fを取っても、四角形EBFDは平行四辺形となることの証明を完成する。

(2) 右の図のように、平行四辺形ABCDの対角線の交点をOとし、線分OA、OCを延長した直線上に $AE = CF$ となる点E、Fをそれぞれとります。優花さんは、このときも四角形EBFDは平行四辺形になると予想しました。



図において四角形EBFDが平行四辺形になることは、前ページの優花さんの証明の一部を書き直すことで証明できます。書き直すことが必要な部分を、下のアからオまでの中から1つ選び、正しく書き直さない。

ア	平行四辺形の対角線はそれぞれの中点で交わるから、 $OB = OD$ ……① $OA = OC$ ……②
イ	仮定より、 $AE = CF$ ……③
ウ	②、③より、 $OA - AE = OC - CF$ ……④
エ	④より、 $OE = OF$ ……⑤
オ	①、⑤より、 対角線がそれぞれの中点で交わるから、 四角形EBFDは平行四辺形である。

解答の分析

正答例
正答率
43.3%

- ・ウを選択し、
②、③より、 $OA + AE = OC + CF$ …④ と解答しているもの
- ・エを選択し、
 $OE = OF$ が成り立つ根拠を記述し、 $OE = OF$ …⑤ と解答しているもの

誤答例

- ①ウを選択し、
②、③より、 $OA + AE = OC + CF$ ……④ 以外を解答 ……9.2%
- ②ウを選択し、無回答のもの ……7.2%
- ③ア、イ、オのいずれかを選択しているもの…24.2%

○誤答例の解説

③ア、イ、オのいずれかを選択しているものが24.2%である。この中には、「アを選択し、平行四辺形の対角線はそれぞれの中点で交わるから、 $OB = OD$ と $OE = OF$ になる。」という解答がみられた。これは、条件を変えた場合について、 $OE = OF$ が成り立つ根拠を記述する必要があることを理解していないと考えられる。

指導改善のポイント

証明したことを基に、条件を変えた場合の証明について考察する場面を設定し、条件を変えても変わらない関係や、条件を変えると変わる関係を見だし、もとの証明を評価・改善することにより条件を変えた場合の証明ができるように指導することが大切である。

結果のポイント④

ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。

具体的な設問例

大問9 (3)

平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上に、 $BE=DF$ となる点E、Fをそれぞれとる。さらに、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する。

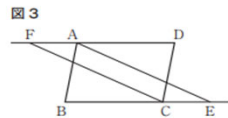
(正答の条件)

次の(a)、(b)、(c)とそれぞれの根拠を記述し、証明しているもの。

なお、ここで根拠として求める記述は、正答例に記述されている程度のものとする。

(a) $AG \parallel HC$ (b) $GC \parallel AH$ (c) 四角形AGCHは平行四辺形である。

(3) 次の図3のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上に、 $BE=DF$ となる点E、Fをそれぞれとります。



このとき、四角形FCEAは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。

証明2

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、

$$AD \parallel BC$$

よって、 $FA \parallel CE$ ……①

平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、

$$AD = BC$$

仮定より、

$$DF = BE$$

②、③より、

$$DF - AD = BE - BC$$

④より、

$$FA = CE$$

①、⑤より、

1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、四角形FCEAは平行四辺形である。

さらに、次の図4のように、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとすると、四角形AGCHも平行四辺形になります。

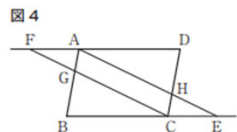


図4において、四角形AGCHが平行四辺形になることは、2組の向かい合う辺がそれぞれ平行であることを示すことで証明できます。四角形AGCHが平行四辺形になることを証明しなさい。ただし、四角形FCEAが平行四辺形であることはすでにわかっていることとします。

解答の分析

無解答率31.2%

正答例
(正答率
33.8%)

平行四辺形ABCDの向かい合う辺は平行であるから、

$$AB \parallel DC$$

よって、 $AG \parallel HC$ ……①

平行四辺形FCEAの向かい合う辺は平行であるから、

$$FC \parallel AE$$

よって、 $GC \parallel AH$ ……②

①、②より、2組の向かい合う辺がそれぞれ平行であるから、四角形AGCHは平行四辺形である。

誤答例

①四角形AGCHは平行四辺形であるから、……。

②向かい合った2組の辺が平行だから、四角形AGCHは平行四辺形である。

○誤答例の解説

①「四角形AGCHは平行四辺形である」という結論を、根拠として用いて証明したと考えられる。

②結論を導くために必要な条件はとらえられているが、根拠を明らかにして表現することができなかったと考えられる。

指導改善のポイント

- 事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、仮定や仮定から分かる事柄、結論を導くために必要な事柄を明らかにするなどして証明の方針を立て、その方針を基に推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。

問題作成の
ポイント

学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、「A物質・エネルギー」、「B生命・地球」の二つの内容区分から、バランスよく出題した。今年度は、

- 問題を解決するまでの道筋を構想し、根拠のある予想や仮説を発想したり、解決の方法を発想したりするなど、自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題を出題した。
- 事実的な知識を既有的知識と関係付けたり活用したりする中で概念的に理解しているかどうかをみる問題を出題した。
- 自然の事物・現象に働きかけることで得られた様々な情報について、要因や根拠を見いだすことや、観察、実験などの結果について、その傾向を見いだしたり、考察したりすることができるかどうかをみる問題を出題した。

結果のポイント

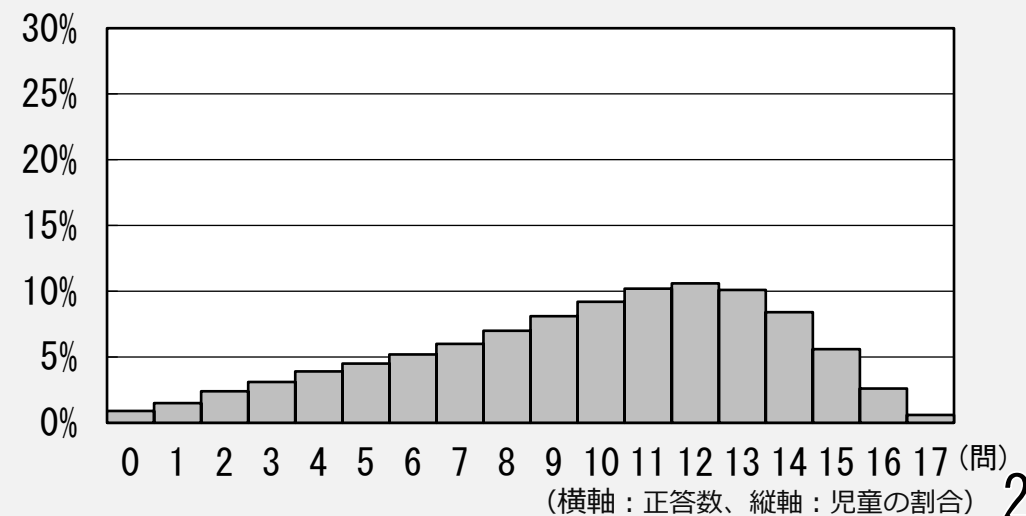
- 【p.29】赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができていた。
- 【p.30】電気が通る回路のつくり方について理解し、表現することに課題がある。

〈分類・区分領域別集計結果〉

分類	区分・領域		対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領 の 区分・領域	A 区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	46.8
		「粒子」を柱とする領域	6	51.5
	B 区分	「生命」を柱とする領域	4	52.2
		「地球」を柱とする領域	6	66.9
評価の観点	知識・技能		8	55.5
	思考・判断・表現		9	58.9
問題形式	選択式		11	54.9
	短答式		4	69.8
	記述式		2	45.3

〈小学校理科の児童の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
9.7 問/17問	57.3 %	10.0 問	3.8 問	12 問



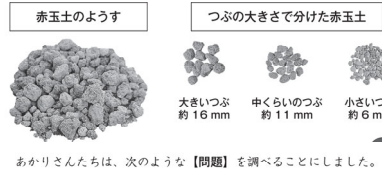
結果のポイント①

赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができている。

具体的な設問例
大問 1 (3)

【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ問題

1 としやさんとあかりさんは、学校の花だんに入れた、赤玉土という土を見て、気づいたことを話しています。



【問題】
水のしみこみ方は、赤玉土のつぶの大きさによって、ちがいがあろうか。

あかりさんたちは【問題】を、大きいつぶと小さいつぶの赤玉土で確かめる【方法】について考えました。

【方法】

① どう明なプラスチックでできた2つの同じコップに次のことをする。
・4つの穴を同じようにあける。
・同じ高さの線を図のように引く。
これらを穴あきのコップA、Bとする。

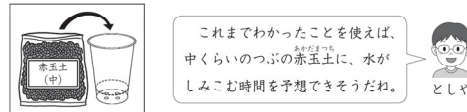
② 土をふくろから取り出し、次のように入れる。
・コップAは大きいつぶの赤玉土
・コップBは小さいつぶの赤玉土

③ コップAに水をすばやく入れ、時間をはかり始め、水の面が同じ高さの線に下がるまでの時間をはかる。コップBも同じようにして時間をはかる。

④ 受け皿にたまった水、コップの土や水をすべて出し、②と③を全部で3回行う。

【結果】 (赤玉土に水がしみこむ時間)

	コップA (大きいつぶ)	コップB (小さいつぶ)
1回目	3秒	11秒
2回目	4秒	10秒
3回目	4秒	11秒



(3) 大きいつぶと小さいつぶを比べたときの【方法】と同じように、中くらいのつぶの赤玉土で実験すると、水がしみこむ時間はどれぐらいになると考えられますか。

【結果】をもとにして、【考えられる時間】を下の1から3までの中から1つ、【考えられる時間を選んだ理由】を下の4から6までの中から1つ、それぞれ選んで、その番号を書きましょう。

【考えられる時間】

- 1 3秒より短い
2 5秒から9秒までの間
3 11秒より長い

約93%の児童が2を選ぶことはできている。

【考えられる時間を選んだ理由】

- 4 中くらいのつぶの赤玉土は、大きいつぶの赤玉土より、しみこむのに時間がかからないから。
5 中くらいのつぶの赤玉土は、小さいつぶの赤玉土より、しみこむのに時間がかかるから。
6 中くらいのつぶの赤玉土は、大きいつぶの赤玉土より、しみこむのに時間がかかり、小さいつぶの赤玉土より、しみこむのに時間がかからないから。

解答の分析

無解答率0.9%

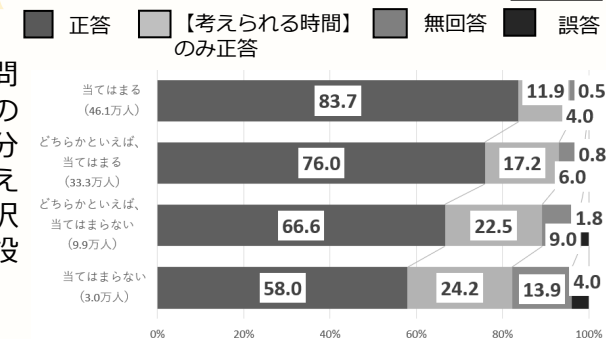
解答類型		反応率
1	【考えられる時間】1【考えられる時間を選んだ理由】4	1.1%
2	【考えられる時間】1【考えられる時間を選んだ理由】5	0.6%
3	【考えられる時間】1【考えられる時間を選んだ理由】6	0.6%
4	【考えられる時間】2【考えられる時間を選んだ理由】4	6.3%
5	【考えられる時間】2【考えられる時間を選んだ理由】5	9.1%
6	【考えられる時間】2【考えられる時間を選んだ理由】6	78.0%
7	【考えられる時間】3【考えられる時間を選んだ理由】4	0.3%
8	【考えられる時間】3【考えられる時間を選んだ理由】5	1.3%
9	【考えられる時間】3【考えられる時間を選んだ理由】6	0.8%

クロス集計

児童質問調査 × 本設問の正答率

0.164

児童質問調査〔68〕
「理科の授業では、問題に対して答えがどのようになるのか、自分で予想（仮説）を考えていますか」の各選択肢を選んだ児童の本設問における解答状況(%)



この質問に否定的に回答したグループの方が、大問1(3)の正答率が低く、無解答率も高い。

結果のポイント②

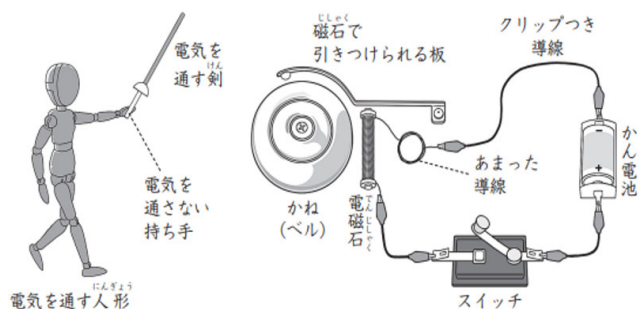
電気が通る回路のつくり方について理解し、表現することに課題がある。

具体的な設問例 大問 2 (2)

電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ問題

2

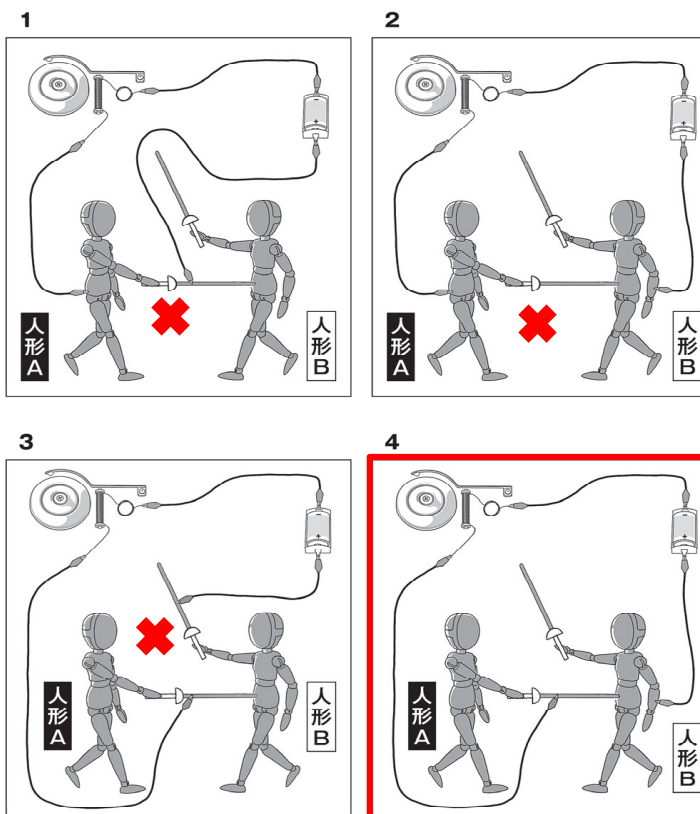
これらの物を使ってつくることはできないかな。



スイッチを人形に置きかえ、人形に剣を当てたときだけ、かね（ベル）が鳴るようにしたい。



(2) 「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね（ベル）が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。下の 1 から 4 までのの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



解答の分析

無解答率0.6%

解答類型	反応率
1	7.2 %
2	18.8 %
3	30.0 %
4	43.1 %
上記以外	0.3 %

解答類型 2 や 3 のように解答した児童は、人形 A と人形 B を含む回路を構想することはできている。しかし、「電気を通さない持ち手」が回路の一部に含まれることで、回路の一部が切れて電気が通らないということを理解し、表現することができていないと考えられる。

指導改善のポイント

解決したい問題を見いだすことや、学習を通して得た知識を活用して、理解を深めることが大切である。また、児童が明確な目的を設定し、設定した目的を達成できているかを振り返り、修正するといった活動の充実を図ることで、学んだことの意義を実感できるようにすることが重要である。

問題作成の
ポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「日常生活や社会の文脈における事象の中から問題を見いだして課題を設定し、探究の過程を通して課題を解決すること」についての問題を作成した。今年度は、

- 「知識・技能」では、自然の事物・現象に関する「事実的な知識」と「知識の概念的な理解」及び観察、実験の「技能」に関する問題を出題した。
- 「思考・判断・表現」では、科学的な探究の過程において自然の事物・現象に関する知識を活用することで、思考力、判断力、表現力等を把握する問題、科学的な探究の方法や理解に関する問題を出題した。

結果のポイント

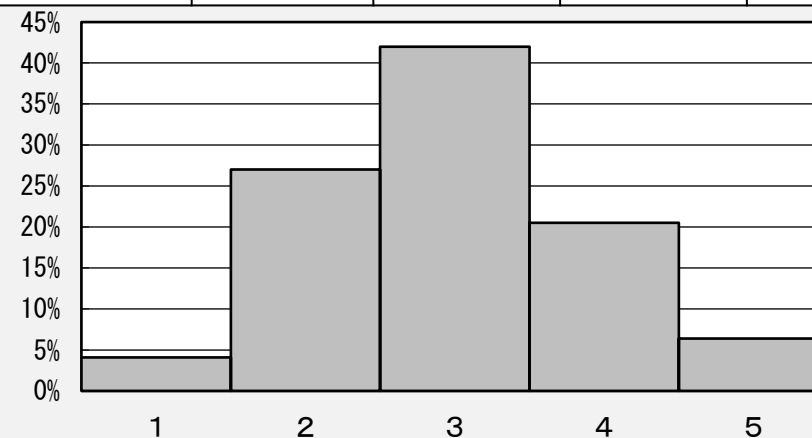
- 【pp.34-36】探究から生じた新たな疑問などに着目した振り返りを表現することはできているが、見いだした問題を解決するための適切な課題を設定することに課題がみられる。
- 【p.37】火災における避難行動について、気体の性質に関する知識が概念として身に付いていると考えられる。
- 【pp.38-39】回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識を身に付けることに課題がある。
- 【pp.40-41】観察した水の中の生物が呼吸を行うか否かについて、これまで理科で学習したことを活用して、生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付けることに課題がある。

〈分類・区分別集計結果〉※非公開問題を除く

分類	区分	対象 問題数 (問)
学習指導要領の 分野・内容	「エネルギー」を柱とする領域	5
	「粒子」を柱とする領域	8
	「生命」を柱とする領域	5
	「地球」を柱とする領域	5
評価の観点	知識・技能	10
	思考・判断・表現	12
問題形式	選択式	15
	短答式	1
	記述式	6

〈中学校理科の生徒分布グラフ〉

平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値		
		25%	50%	75%
505	124.6	423	496	574

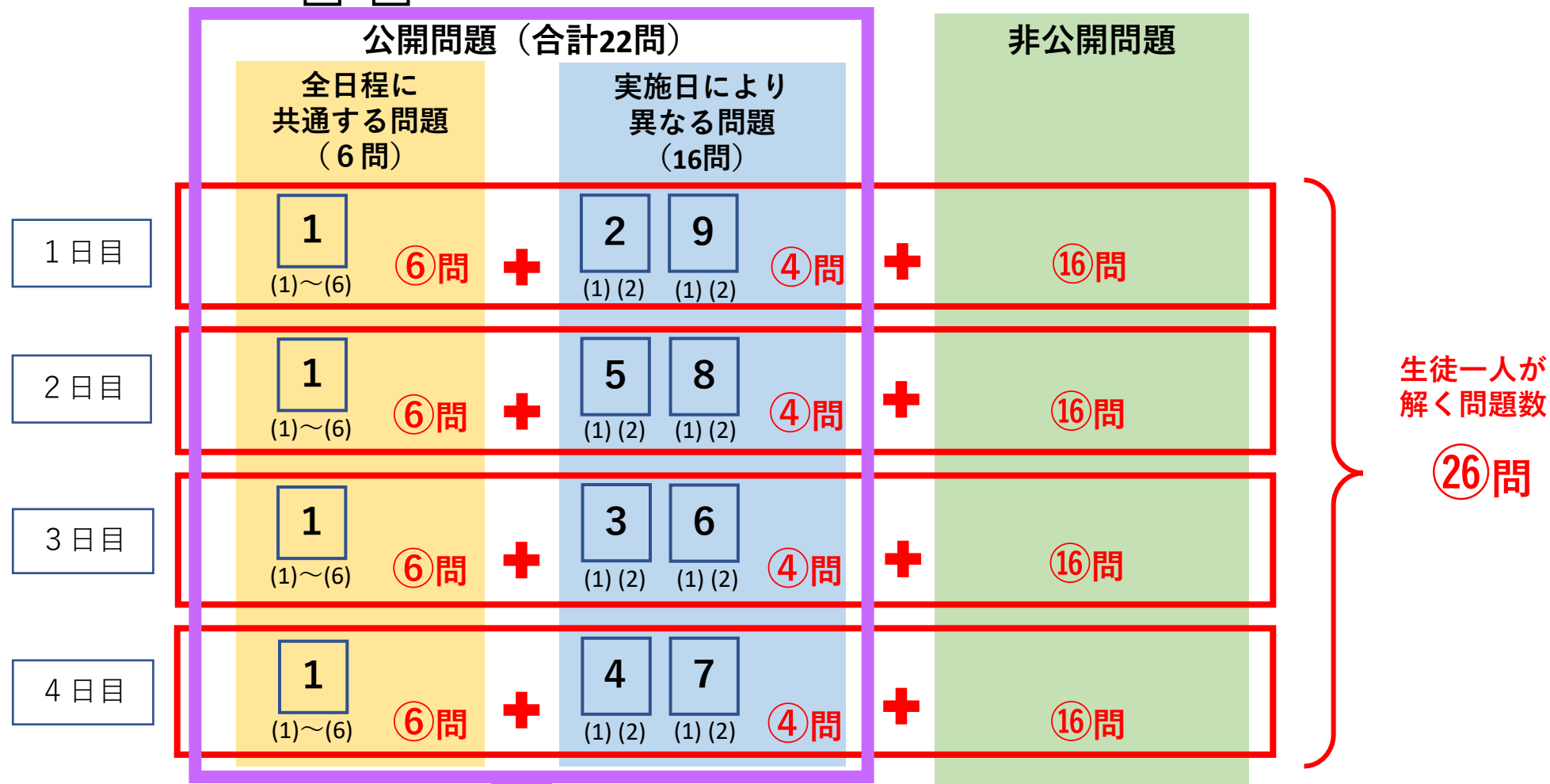


(横軸：IRTバンド、縦軸：生徒の割合)

問題の構成

- 公開問題と非公開問題を組み合わせて出題。生徒1人あたり公開問題10問と非公開問題16問を解く構成とした。
- 公開問題には全日程に共通する問題と実施日別の問題があり、いずれも学習指導の改善に向けたメッセージの発信を目的としている。
- 非公開問題は幅広い内容・難易度等から出題しており、生徒ごとに異なる問題を解く。国や自治体等の状況を把握することを主目的としており、個々の問題の内容や結果は示さない。

下の□1～□9は大問、(1)～(6)は各設問に相当

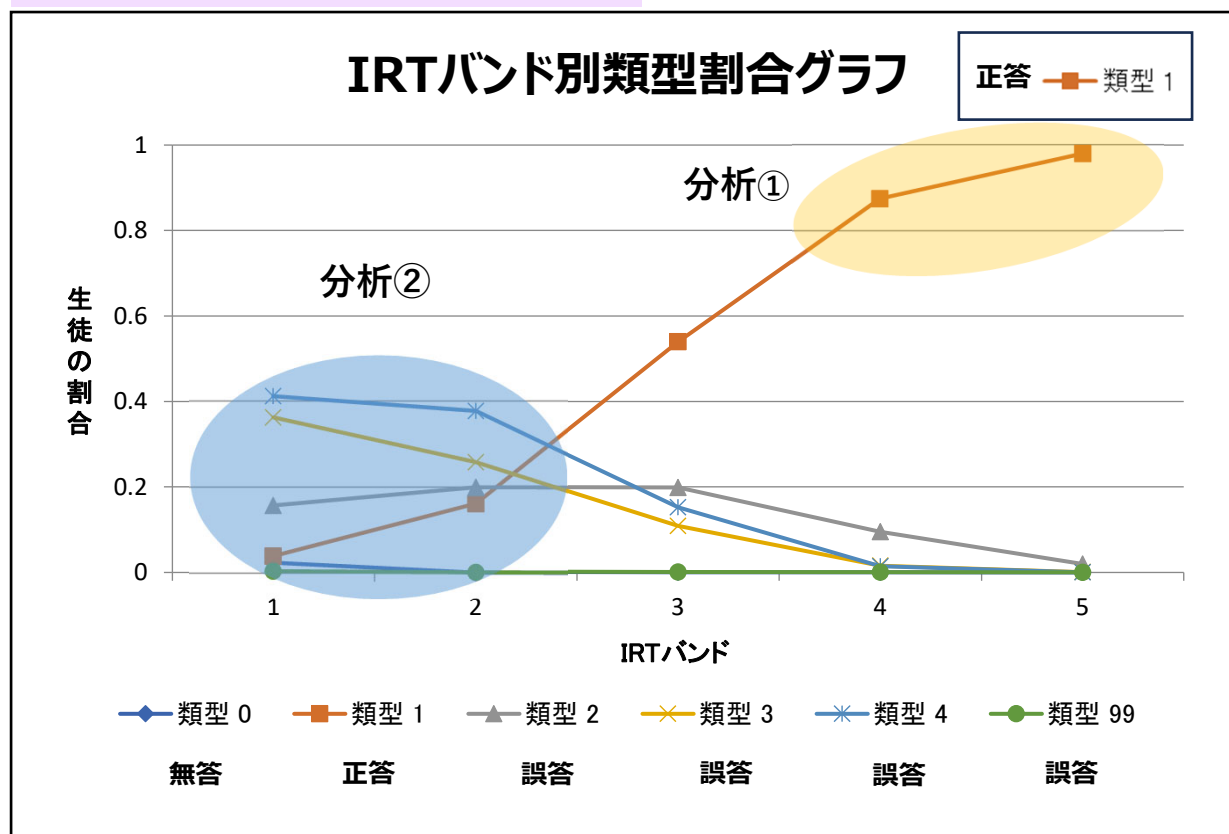


IRTに基づく
分析の結果

- 中学校理科ではIRT（Item Response Theory：項目反応理論）を活用して分析。
- IRTバンドごとに解答状況に特徴が見られた問題については、「G-P分析図」を用いて、IRTバンド別類型割合グラフから、IRTバンドごとに見られた特徴や、その特徴を踏まえた指導改善のポイントを示している。
- 教育委員会や学校におけるIRTバンドの分布と、IRTバンド別類型割合グラフから読み取れるバンドの特徴や傾向を照らし合わせながら、学習指導の更なる充実に向けて活用されることを期待。

※「G-P分析図」とは、調査を実施した生徒の学力のレベルを分類して（横軸）、それぞれの集団がどの解答パターンに分類されるのか（縦軸）をグラフに表したものの。

IRTバンドに基づいたG-P分析図の例



分析①

IRTバンド4に属する生徒の約9割、IRTバンド5に属する生徒は約10割が正答している。

IRTバンドが高い生徒ほど正答が高くなり、IRTバンド4以上に属する生徒はおおよそ、この問題で問うている資質能力を身につけていると判断することができる。

分析②

IRTバンド1、2に属する生徒は正答率が2割に満たず、一定の生徒が類型3や4と誤答している。

誤答の類型3、4の内容を分析することで、IRTバンド1、2に属する生徒の課題を把握し、特に留意して指導すべき事柄がわかる。

結果のポイント

① - 1

探究から生じた新たな疑問などに着目した振り返りを表現することができている。

具体的な設問例 大問 1 (6)

科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる。

1

探究を振り返る

水道水、精製水について探究したことを発表しています。



探究を通じて、さらに疑問に感じたことに着目して振り返ります。

Bさん

探究を通じて、はじめの考えから考えが変化したことに着目して振り返ります。

Cさん

探究を通じて、身近な生活とのつながりを感じたことに着目して振り返ります。

Dさん

(6)

上の発表を見て、水道水や精製水に対し、Bさん、Cさん、Dさんを参考にして、あなたの振り返りを書きなさい。

振り返り

解答の分析

無解答率9.7%

(正答の条件)

次の(a)と(b)～(e)のいずれかを満たしているもの

(a) 水道水や精製水に対して振り返る表現となっている。

(b) Bさんの視点を参考に、疑問に感じたことや、調べてみたいことを記述している。

(c) Cさんの視点を参考に、はじめの考えから考えが変化したことを記述している。

(d) Dさんの視点を参考に、身近な生活とのつながりについて感じたことを記述している。

(e) Bさん、Cさん、Dさん以外の視点で記述している。

探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現することができている。

正答例

〔 正答率：79.6% 〕

・精製水は水道水を蒸留したりろ過したりして、つくられることが分かり、ミネラルウォーターはどのようにしてつくられているのかについてさらに疑問を感じたので、調べてみたいと思いました。

・最初は、水道水と精製水の性質に大きな違いがないと思っていましたが、それぞれのつくり方など大きな違いが実際にあるという考えに変わりました。

・コンタクトレンズの保存液に精製水と書いてあったので、身近な生活とのつながりがあることが分かりました。

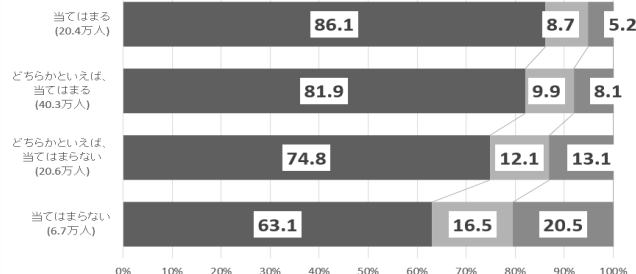
無解答の反応率は9.7%である。無解答の中には、探究の過程を通して何を振り返ればよいのかが分からない生徒がいると考えられる。これまでの調査の記述式の反応率と比べたとき、本設問の無解答の反応率は低い。このことは、振り返りを記述する活動が継続的に実践されている成果が表れたものであると考えられる。

クロス分析

生徒質問調査 × 本設問の正答率

■ 正答 ■ 誤答 ■ 無解答

0.159



この質問に肯定的に回答したグループの方が、大問 1 (6) の正答率が高く、無解答率も低い。

生徒質問調査〔70〕「理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか」の各選択肢を選んだ生徒の本設問における解答状況 (%)

(正答の条件)

次の (a) と (b) ～ (e) のいずれかを満たしているもの

(a) 水道水や精製水に対して振り返る表現となっている。

(b) Bさんの視点を参考に、疑問に感じたことや、調べてみたいことを記述している。

(c) Cさんの視点を参考に、はじめの考えから考えが変化したことを記述している。

(d) Dさんの視点を参考に、身近な生活とのつながりについて感じたことを記述している。

(e) Bさん、Cさん、Dさん以外の視点で記述している。

解答類型	反応率	解答例
1	17.2 %	(a) と (b) を満たしているもの
2	43.0 %	(a) と (c) を満たしているもの
3	10.0 %	(a) と (d) を満たしているもの
4	4.4 %	(a) と (e) を満たしているもの
5	5.0 %	(a) を満たし、更に (b) ～ (e) のうち2つ以上を満たしているもの
6	8.1 %	(a) を満たしていないもの
7	0.6 %	探究した事実の繰り返しを記述しているもの
無解答	9.7 %	

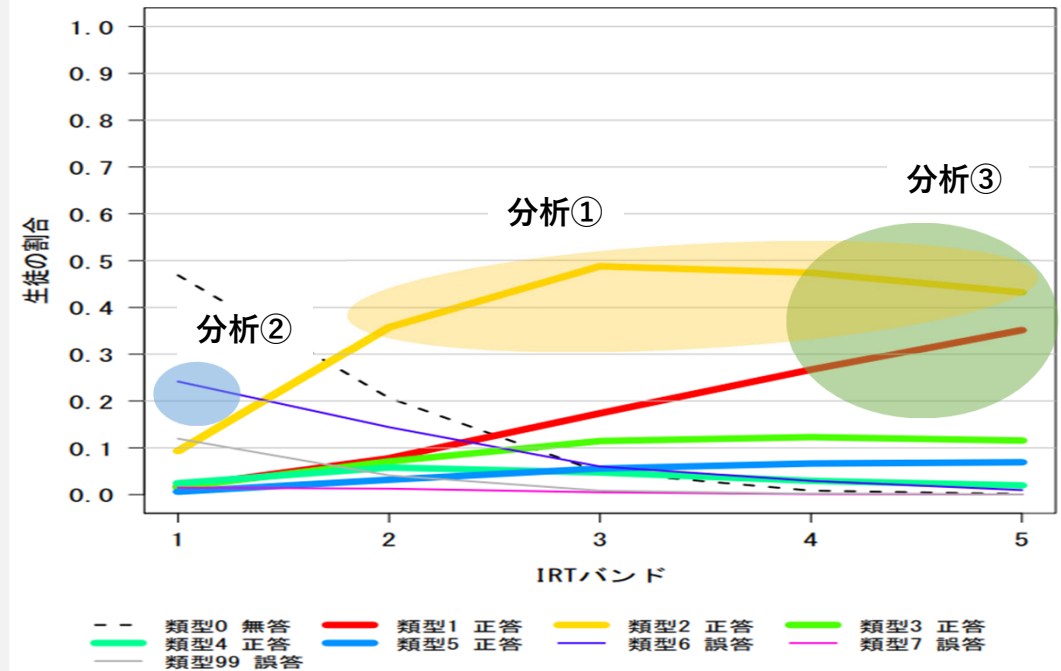
正答率
79.6%

分析①

・ IRTバンド 2 ～ 5 に属する 4 割程度の生徒が、自己の変容に関する振り返りとする解答類型 2 の視点で振り返りを記述している。

・ 生徒にとって、振り返りがしやすい視点の 1 つであると考えられる。振り返りの記述を書きにくい生徒については、この視点で文例を示した上で自らの振り返りを記述させるような授業の改善が考えられる。

G-P 分析図



分析②

・ 水道水や蒸留水について振り返りをしていない解答類型 6 では、IRTバンド1に属する生徒が 3割程度の割合を示している。

・ 探究の内容と関係のない水道水や蒸留水以外のことについて記述している生徒がいると考えられる。

分析③

・ 新たな疑問等について振り返りを記述する解答類型 1 については、IRTバンド4、5で解答類型 2 の次に高い生徒の割合を示している。

・ 新たな疑問などを記述する振り返りについては、探究の過程を踏まえて新たな知識を得た生徒が、記述する傾向があると考えられる。



結果のポイント

①－2

見いだした問題を解決するための適切な課題を設定することに課題がみられる。

具体的な設問例
大問1（2）

身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる。

1

課題を設定する

Aさん

【Aさんの疑問】
理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？

【Aさんの疑問】を調べたり、実験を行ったりして解決するためには、どのような課題にすればよいですか？

Aさん

課題は、
() にしようと思います。

正答率
46.4%

(2)

【Aさんの疑問】を解決するために、() に適切な課題を書きなさい。

課題

解答の分析

無解答率7.9%

(正答の条件)

次の(a)と(b)を満たしているもの

- (a) 【Aさんの疑問】を解決しようとする内容になっているか。
(b) 水道水と精製水の両方の性質に着目している。

解答類型	反応率	解答例
1	33.1 %	水道水と精製水の違いを調べよう。
2	8.8 %	精製水が蒸留でつくられる理由を考えよう。
3	4.5 %	水道水の特徴をみつけよう。
4	16.5 %	水道水と精製水の成分。
5	7.5 %	精製水について。
6	13.5 %	なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？

指導改善のポイント

指導に当たっては、身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題が解決できるかどうかに着目し、解決可能で科学的な探究の課題を自分の言葉で表現する学習場面を設定することが大切である。

「令和7年度【中学校理科】報告書」
大問1（2）授業アイデア例

https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25msci_idea_01.pdf#page=11



結果のポイント②

火災における避難行動について、気体の性質に関する知識が概念として身に付いていると考えられる。

具体的な設問例
大問4(2)

火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる。

4



火災の避難訓練のとき、どのような行動をするか、覚えていますか。



ハンカチを口と鼻にあて、有毒な気体を吸わないように行動します。



有毒な一酸化炭素は空気より軽いので、() ように行動します。



火災の避難訓練の行動も理科の学習で説明できますね。

気体の性質に関する知識と、日常生活で学んだ避難行動が適切である理由とを関連付けているため、気体の性質に関する知識が概念として身に付いていると考えられる。

(2)

() に当てはまる最も適切な図を1つ選びなさい。



解答の分析

無解答率0.1%

解答類型	反応率	解答例
①	92.9 %	低い姿勢で避難する と解答しているもの
2	1.8 %	走って避難する と解答しているもの
3	0.5 %	机の下に隠れ、そのまま座っている と解答しているもの
4	4.7 %	窓を開ける と解答しているもの

結果のポイント③

回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識を身に付けることに課題がある。

具体的な設問例

大問1 (1)

電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる。

1

理科の実験で使用する水について考える

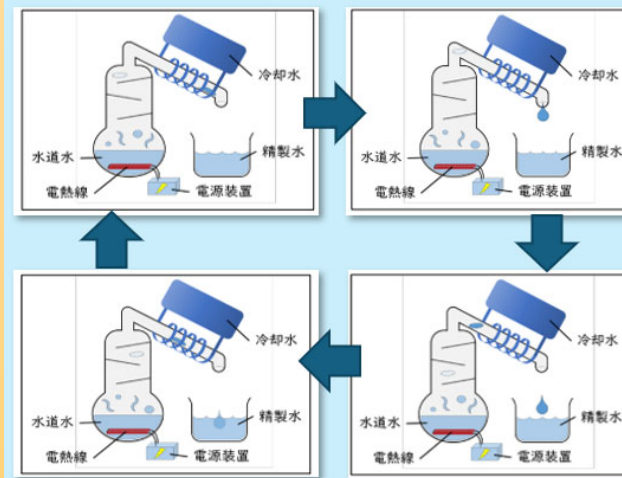


理科の実験で使用する水は精製水です。精製水について、調べたことを発表しましょう。

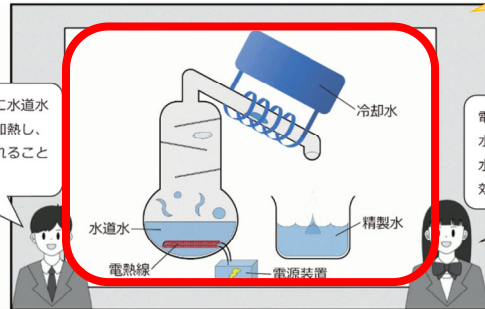
精製水は、水道水を蒸留したり、ろ過したりすることによってつくった水です。

自動でアニメーションが再生

水道水を電熱線で加熱して蒸留している動画



精製水は、右図のように水道水に電熱線を入れて水を加熱し、蒸留する方法でつくられることが多いです。



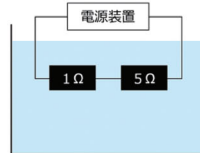
電気エネルギーを利用して水を加熱しているんですね。水は温まりにくいから、効率よく温める工夫が必要ですね。



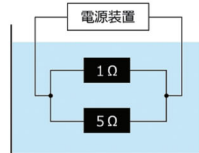
より速く水を温めるには、電熱線をどのようにつなげたらよいでしょうか。右の装置で考えてみましょう。



同じ電圧を加えたとき、回路全体の抵抗がどうなるかを考えれば分かりそうです。



装置1



装置2

1Ω 1Ωの電熱線
5Ω 5Ωの電熱線

直列回路と並列回路における回路全体の抵抗と熱量に関する知識を身に付けることに課題があり、指導の充実が求められる。

解答の分析

無解答率0.2%

正答

(正答率
51.8%)

回路全体の抵抗が大きい・・・装置1
速く水が温まる装置 ……装置2

と解答しているもの

誤答例

回路全体の抵抗が大きい・・・装置2
速く水が温まる装置 ……装置1

と解答しているもの

(1)

回路全体の抵抗が大きいのは装置1、装置2のどちらか、1つ選びなさい。また、下線部について、同じ電圧を加えて、より速く水を温めることができるのは装置1、装置2のどちらか、1つ選びなさい。

回路全体の抵抗が大きい

速く水が温まる装置

解答類型	反応率	回路全体の抵抗が大きい	速く水が温まる装置
1	10.5 %	装置 1	装置 1
②	51.8 %	装置 1	装置 2
3	31.9 %	装置 2	装置 1
4	4.8 %	装置 2	装置 2
無解答	0.2 %		

分析①

・ IRTバンド1に属する生徒の約5割、IRTバンド2に属する生徒の約5割が、回路全体の抵抗の値が大きいのは、並列回路であると解答している。

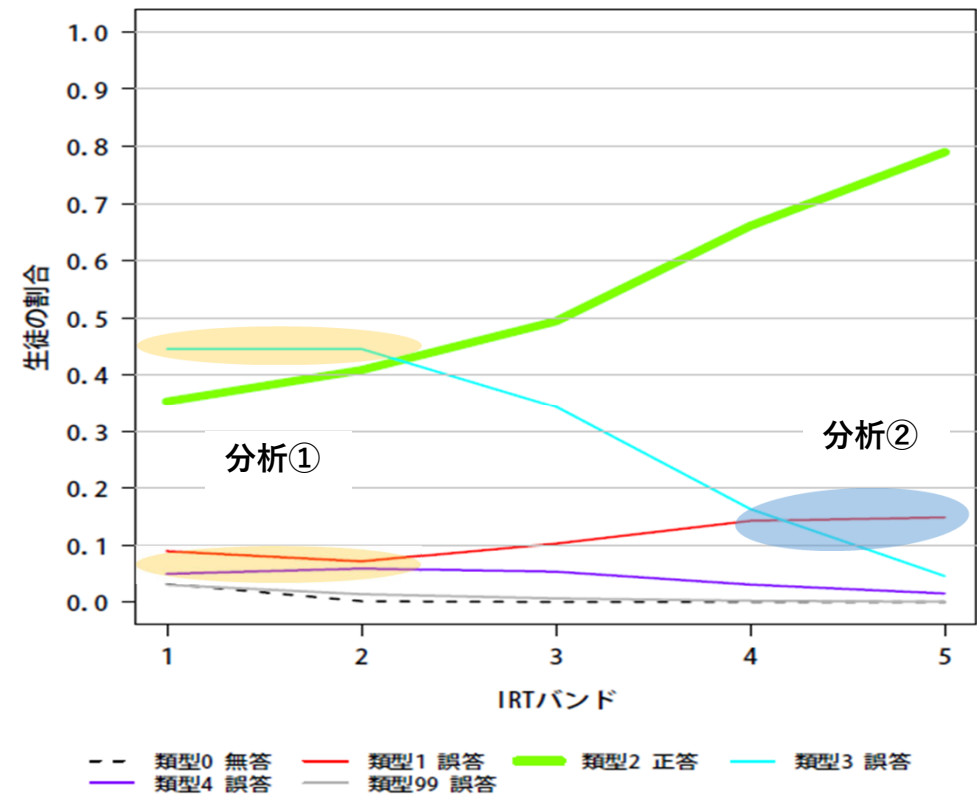
・ 直列回路と並列回路における回路全体の抵抗に関する知識を身に付けることに課題があると考えられる。

分析②

・ IRTバンド4、5に属する生徒において、誤答の類型の中で解答類型1と解答している生徒が一定の割合でいる。

・ 回路全体の抵抗の大小の比較はできているが、同じ電圧を加えたときの直列回路と並列回路での発熱量の大小の比較については誤って理解している生徒が一定の割合でいることがわかる。そのため、直列回路と並列回路での発熱量の大小を比較する場面において、生徒がつまりずく可能性があることに留意をして指導を改善する必要がある。

G-P分析図



指導改善のポイント

指導に当たっては、これまで学習した知識を活用して、発生する熱量と直列回路・並列回路の合成抵抗とを関連づけて知識の概念的な理解を深める学習場面を設定することが考えられる。その際、身近な生活と関連をもたせながら、生徒の興味・関心を向上させることも大切である。

結果のポイント④

生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付けることに課題がある。

具体的な設問例

大問 1 (4)

水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる。

1

地層からしみ出した水について調べる



図のように地層からしみ出した水がたまっていたので、この水を適切な実験器具で観察しましょう。

図 地層からしみ出した水を採取している様子

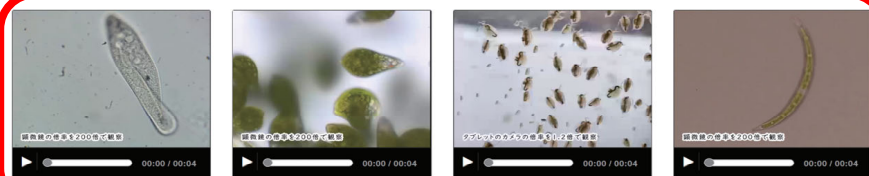


下のように4種類の生物が観察できました。



観察した様子を見ましょう。

クリックして
動画を再生



生物 1

生物 2

生物 3

生物 4

生物 2、生物 4 の動画 出典 茨城県霞ヶ浦環境科学センター

生物 1～生物 4 の動画



生物 1



生物 2



生物 3



生物 4

ゾウリムシ

ミドリムシ

ミジンコ

ミカヅキモ

解答の分析

無解答率0.2%

正答 (正答率 29.8%)	生物 1 ・ 生物 2 ・ 生物 3 ・ 生物 4 と解答しているもの
誤答例	生物 4 を選んでいない もの

観察した水の中の生物が呼吸を行う生物か否かについて、これまで理科で学習したことを活用して、生命を維持する働きと関連付けて説明することに課題があり、指導の充実が求められる。



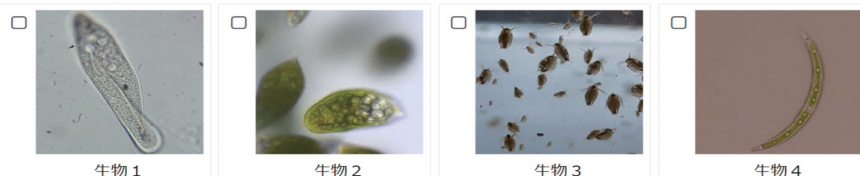
これまでの学習内容を活用して呼吸を行う生物はどれか、考えてみましょう。



呼吸を行う生物は.....。

(4)

呼吸を行う生物をすべて選びなさい。なお、生物 1 から 4 のすべてを選んでもかまいません。



生物 1

生物 2

生物 3

生物 4

解答類型	反応率	解答例
1	58.9 %	生物 1、 生物 2、生物 3、 生物 1・生物 2、 生物 1・生物 3、 生物 2・生物 3、 生物 1・生物 2・生物 3 と解答しているもの
2	0.6 %	生物 4 と解答しているもの
3	2.3 %	生物 2・生物 4 と解答しているもの
4	29.8 %	生物 1・生物 2・生物 3・生物 4 と解答しているもの
無解答	0.2 %	

分析①

・IRTバンド1、2、3に属する生徒の6割以上が解答類型1と解答している。

・動かない生物は呼吸を行わないと誤って捉えていると考えられる。授業では、生物が生命を維持するための活動エネルギーを得るために呼吸を行っていることに留意することが大切である。

分析②

・IRTバンド4に属する生徒の約5割が、解答類型1と解答している。

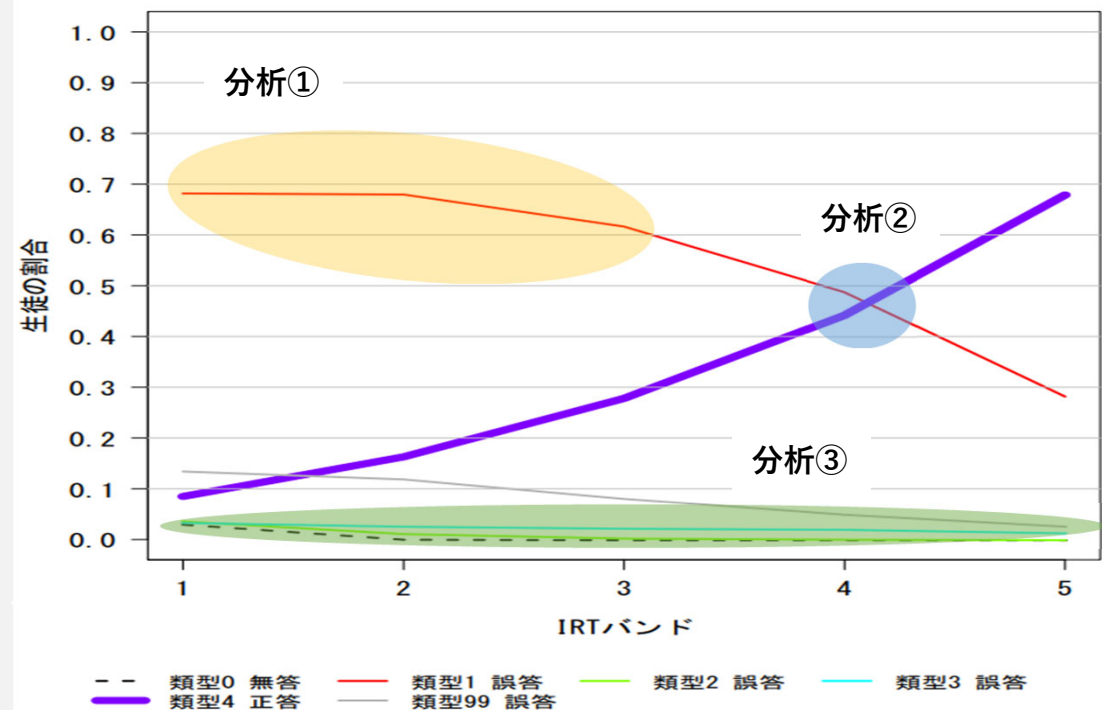
・IRTバンド4に属する生徒においても誤答の類型を解答している生徒が相当数いる。

分析③

・ほとんどの生徒が、動かない生物のみが呼吸を行っているとする解答類型2、緑色の生物のみが呼吸を行っているとする解答類型3と解答していない。

・呼吸と光合成については混同していないものと考えられる。

G-P分析図



指導改善のポイント

指導に当たっては、生物の共通点や相違点を挙げ、生命を維持する働きに関する知識を基に、それらの特徴から様々な生物について考察する学習場面を設定することが考えられる。その際、直接観察することが難しい生物については、博物館等が公開している動画等を1人1台端末で視聴することも考えられる。

結果のポイント⑤

実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことに課題がみられる。

具体的な設問例
大問5(2)

化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる。

5

ドライアイス（二酸化炭素）の中で、マグネシウムは燃焼するでしょうか。動画を見て、図を参考にしてその結果を考察しましょう。

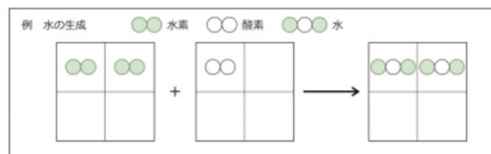
クリックして動画を再生

炭素 酸化マグネシウム

動画

二酸化炭素の中では、火は消えると思いましたが、燃焼しました。何が起きているか、化学変化をモデルで表しました。

(2) マグネシウム原子●、二酸化炭素○●●、酸化マグネシウム●○●、炭素●●と表したとき、下線の化学変化はどのように表すことができますか。「例 水の生成」を参考にして、□にモデルを移動して、化学変化をモデルで表しなさい。なお、使用しないモデルもあります。



②目的の位置をクリック

①動かしたい図をクリック

ドライアイスを使用して二酸化炭素中でマグネシウムを燃焼させる実験動画



解答の分析

無解答率4.6%

正答例 (正答率 35.8 %)	
誤答例	

「令和7年度【中学校理科】報告書」大問5(2) 授業アイデア例

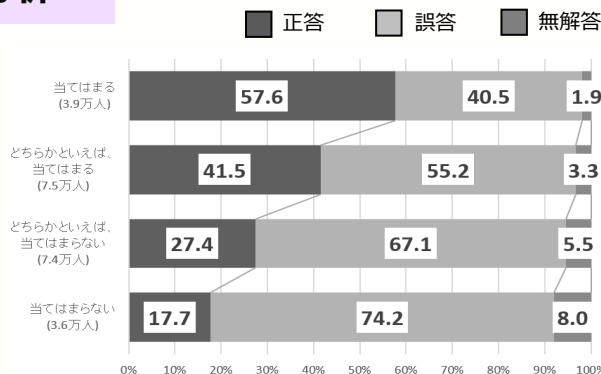
https://www.nier.go.jp/25chousak/ekkahoukoku/report/data/25msci/idea_05.pdf#page=13



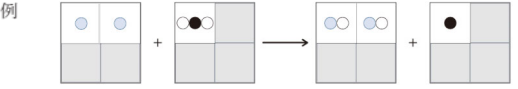
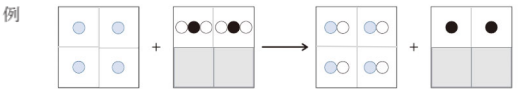
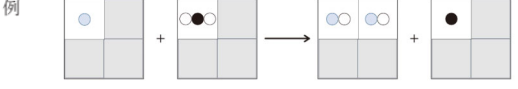
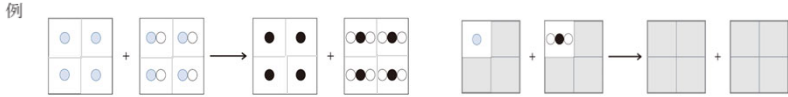
クロス分析

生徒質問調査 × 本設問の正答率

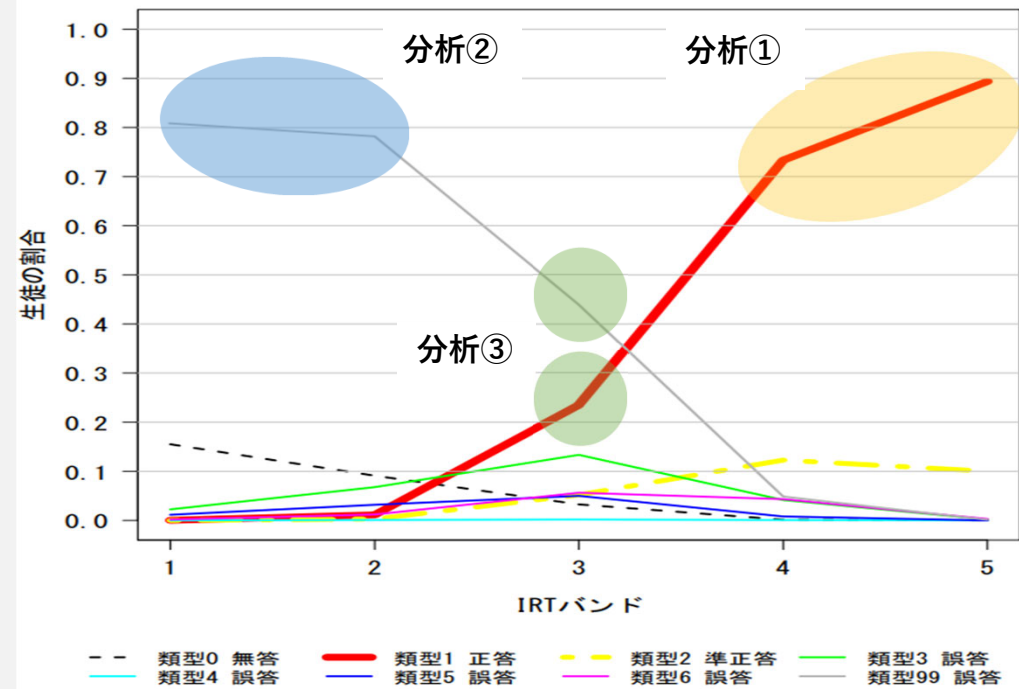
0.269



この質問に否定的に回答したグループの方が、大問5(2)の正答率が低く、無解答率も高い。

解答類型	反応率	解答例
1	30.4 %	物質を正しく原子や分子のモデルで表し、化学変化の前後で原子の種類と数が変化していない。かつ、モデルの数は、最も簡単な整数比で表されている。 例 
2	5.4 %	物質を正しく原子や分子のモデルで表し、化学変化の前後で原子の種類と数が変化していない。しかし、モデルの数は、最も簡単な整数比で表されていない。 例 
3	8.4 %	物質を正しく原子や分子のモデルで表しているが、化学変化の前後で原子の種類や数が変化している。 例 
99	44.3 %	上記以外の解答 例 
無解答	4.6 %	

G-P 分析図



分析③

・ IRTバンド3に属する生徒の約4割が解答類型99の「上記以外の解答」であり、約2割が正答の類型である解答類型1を解答している。

・ IRTバンド3に属する生徒には、まず「何が反応して、何が生成したのか」が整理できるような指導の改善が必要であると考えられる。

分析①

・ IRTバンド4、5に属する7割強の生徒は、正答の類型である解答類型1を解答している。

・ 物質を正しく原子や分子のモデルで表すこと、化学変化の前後で原子の種類と数が変化しないこと、モデルの数は最も簡単な整数比で表すことを適切に理解している。

分析②

・ IRTバンド1、2に属する8割以上の生徒が、解答類型99の「上記以外の解答」である。

・ 実験の様子の動画等から「反応する物質」と「生成してできた物質」については整理できていないと考えられる。

指導改善のポイント

指導に当たっては、「反応する物質」と「生成してできた物質」を整理した上で、化学変化を原子や分子のモデルを用いて考察させるなど、微視的に事象を捉えることが大切である。その際、1人1台端末を使用して、原子や分子のモデルを動かし、生徒が試行錯誤できるようにすることが考えられる。

結果のポイント⑥

予想が反映された振り返りを行うために、探究の過程の見通しについて分析して解釈することに課題がある。

具体的な設問例 大問9(1)

気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる。

9 理科の授業で学習した空気について、科学的に探究しました。
(1)、(2)の各問いに答えなさい。



動画を見て、缶がつぶれた理由を予想しましょう。
予想を記述したら先生に送信しましょう。
タブレット上に、みなさんの【予想】(図)を共有します。



動画

学習した内容をもとに、振り返っています。



学習を終えて、自分の考えがどのように変化したか、Aさんに【振り返り】を発表してもらいましょう。



Aさんの【振り返り】
わたしは煙のようなものが上がったので、最初は燃焼が起こって缶がつぶれたと思いましたが、状態変化によって缶の内側と外側とで圧力の差ができたからと分かりました。...

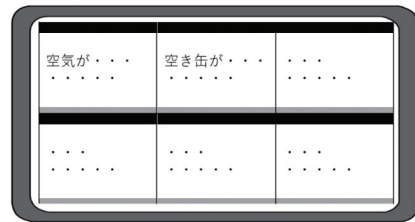
(1)

Aさんの【振り返り】は、Aさんの【予想】から学習した内容が反映されたものになっています。

Aさんの【予想】として最も適切なものを1つ選びなさい。

Aさんの【予想】

- ☒ 煙のようなものが上がる化学変化が起こったのではないかと解答しているもの
- ☐ 缶の中の水蒸気が水に戻って、体積の変化が起きたと予想する。
- ☐ 温めると缶の中の空気の体積が大きくなるように、冷えると空気の体積が小さくなると考えた。
- ☐ 缶を水につけたとき、水に押されたからだろうと解答しているもの

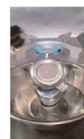


図【予想】を共有した画面

クリックして
動画を再生

大気圧を利用して空
き缶を潰す実験動画

○動画(9秒)



シーン1

シーン2

シーン3

解答の分析

無解答率0.3%

解答類型	反応率	解答例
1	32.1 %	煙のようなものがあがる化学変化が起こったのではないかと解答しているもの
2	14.8 %	缶の中の水蒸気が水に戻って、体積の変化が起きたと予想する。と解答しているもの
3	50.0 %	温めると缶の中の体積が大きくなるように、冷えると空気の体積が小さくなると考えた。と解答しているもの
4	2.8 %	缶を水につけたとき、水に押されたからだろう。と解答しているもの

分析結果と課題

- ・ 解答類型2の反応率は14.8%である。予想が反映された振り返りについて考える場面で、Aさんの予想に着目せず、学習後のAさんの考えについて説明をしている生徒がいると考えられる。
- ・ 解答類型3の反応率は50.0%である。予想が反映された振り返りについて考える場面で、温めた空き缶を冷たい水に入れて様子を観察する動画の事象のみに着目している生徒がいると考えられる。

指導改善のポイント

指導に当たっては、見通しをもって科学的に探究を進めていくために、自己の考えがどのように変容したか等に着目し、振り返りをする学習場面を設定することが考えられる。その際、探究の各過程で自己の考えを表現し、必要に応じて多様な視点でその考えについて振り返るようにすることが重要である。

結果のポイント⑦

実験の様子と、密度に関する知識を関連付けて、気体の密度の大小関係を分析して解釈することに課題がある。

具体的な設問例
大問4 (1)

ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える場面において、実験の様子と、密度に関する知識及び技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる。

4

オンラインによる授業で、ガス警報器の設置場所が話題になりました。
(1)、(2)の各問いに答えなさい。

みなさんの家庭のガス警報器は、どこに設置されていますか。

私の家では低い位置に設置されています。

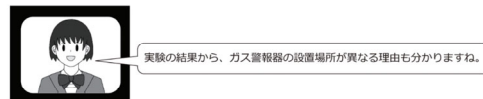
私の家では高い位置に設置されています。

設置場所が違うのはなぜだろう？
ガスの種類が違うのかな？私の家ではプロパンガスを使っています。

私の家では都市ガスを使っています。

ガス警報器の設置場所が異なるのは、ガスの種類によって、ガスのたまり方に違いがあるからかな？

シャボン玉を使って、次のような実験を理科室で行えば分かるね。



(1)
動画1、2を見て、プロパンガス、都市ガス、空気を、密度の小さい順に左から並べなさい。

プロパンガス 都市ガス 空気

< < <

解答の分析

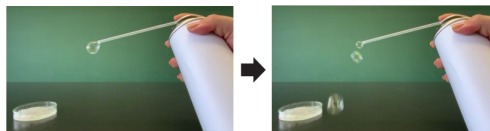
無解答率0.1%

解答類型	反応率	解答例
1	51.0 %	都市ガス < 空気 < プロパンガス と解答しているもの
2	16.5 %	プロパンガス < 空気 < 都市ガス と解答しているもの
3	13.4 %	都市ガス < プロパンガス < 空気 空気 < 都市ガス < プロパンガス と解答しているもの
4	18.8 %	空気 < プロパンガス < 都市ガス プロパンガス < 都市ガス < 空気 と解答しているもの

クリックして
動画を再生

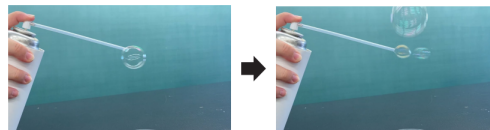
密度の知識を基に、シャボン玉の浮き沈みから密度の大小を比較する実験動画

○動画1 (2秒)



・プロパンが充填されたガスボンベでつくったシャボン玉が、地面に落ちていく様子の動画である。動画はmp4の形式で保存した。

○動画2 (2秒)



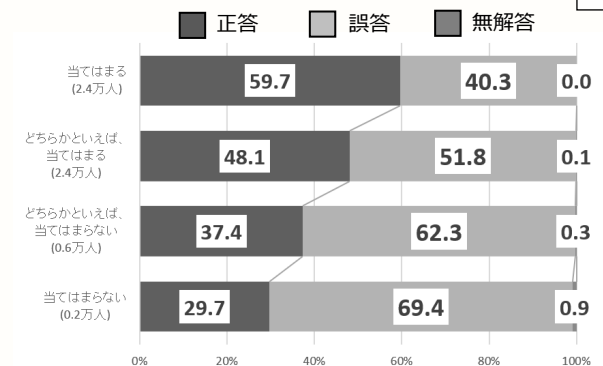
・都市ガス（本動画ではメタンを使用）が充填されたガスボンベでつくったシャボン玉が、天井に向かって浮かぶ様子の動画である。動画はmp4の形式で保存した。

クロス分析

生徒質問調査〔71-3〕「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか」の各選択肢を選んだ生徒の本設問における解答状況 (%)

生徒質問調査 × 本設問の正答率

0.171



この質問に否定的に回答したグループの方が、大問4 (1) の正答率が低く、無解答率も高い。

解答類型	反応率	解答例
①	51.0 %	都市ガス < 空気 < プロパンガス と解答しているもの
2	16.5 %	プロパンガス < 空気 < 都市ガス と解答しているもの
3	13.4 %	都市ガス < プロパンガス < 空気 空気 < 都市ガス < プロパンガス と解答しているもの
4	18.8 %	空気 < プロパンガス < 都市ガス プロパンガス < 都市ガス < 空気 と解答しているもの
無解答	0.1%	

分析①

・ IRTバンド 1 に属する生徒の解答類型 3、4 の割合がそれぞれ 4 割である。

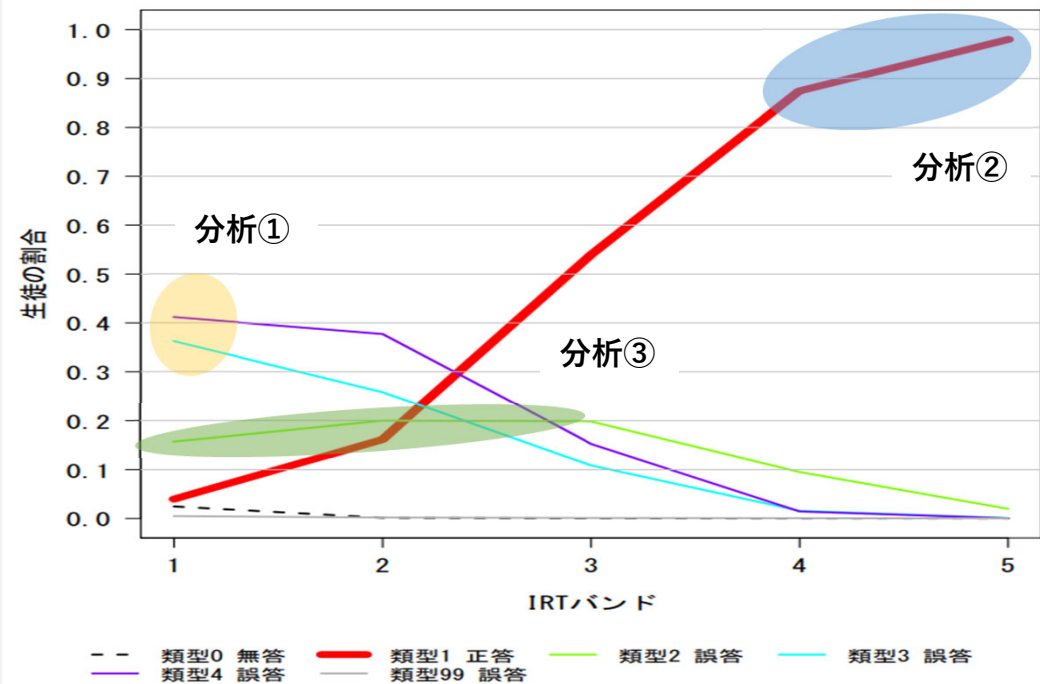
・ 空気の密度が 3 つの気体の中で一番大きいもしくは小さいと誤って捉えている。気体の浮き沈みは、その気体の密度が空気の密度と比較して大きいのか、小さいかに関係していることを理解させるような授業改善が有効であると考えられる。

分析②

・ IRTバンド 4、5 に属する生徒の 9 割以上が正答である解答類型 1 を解答している。

・ IRTスコアが高い生徒については、観察、実験を基にプロパンガスの密度が空気の密度より大きく、都市ガスの密度が空気の密度より小さいことを思考して判断することができている。

G-P 分析図



分析③

・ 解答類型 2 では、IRTバンド 1～3 に属する生徒は 2 割である。

・ 気体が沈む場合には空気の密度より大きく、気体が浮く場合には空気の密度より小さいことを観察、実験から見いだして理解させるような指導の改善が求められる。

指導改善のポイント

指導に当たっては、観察、実験を行い、得られた結果が気体の性質と関連していることに気付くようにすることが考えられる。その際、気体を可視化する工夫も大切である。また、観察、実験を通して身近な気体の性質を考えるきっかけとなるようにすることも重要である。



令和7年度調査から教科調査にCBT(Computer-based Testing)を導入し、中学校理科をオンライン方式で実施した。CBTの利点を生かすことにより、現行の中学校学習指導要領「理科」の「第1 目標」で示された「自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなど」という理科の学習過程を、PBTでの出題以上に再現しながらの出題が可能になったのではないかと考えている。具体的には、CBTの利点を生かすことで、中学校理科では以下のような出題が可能となり、従来以上に理科の学習過程を調査問題中で表現することができた。

○動画を使用することで、観察、実験の過程を示すことができるようになった。

- ・大問1(4)のように水の中の生物が動く様子の動画を使用することで、実際の観察に近い場面を画面上で表すことができた。
- ・大問4(1)、大問5(2)のように、化学変化などの事象を動画で見ることにより、その動画の情報を基に思考できるようになった。
- ・大問6のようにカラーの静止画を使用することで、実際の植物の観察やスケッチに近い場面を画面上で表すことができた。

○解答に当たって画面上で試行錯誤できるようになった。

- ・大問5(2)のように、動画で見た化学変化を原子や分子のモデルを動かして、試行錯誤しながら解答できるようになった。

さらに、中学校理科では、水をテーマに科学的に探究する問題を出題した。大問1(1)、(4)、(5)ではそれぞれ「エネルギー」、「生命」、「粒子」の領域について、知識が(概念として)身に付いているかを問う問題、大問1(3)では「地球」の領域と関連付けて思考、判断する問題を出題した。このような出題を行ったのは、自然の事物・現象をその単元の中で収束させるのではなく、広い視野で多面的、総合的に自然を見ることが大切であることを問題を通じて伝えるためであった。

OECD(経済協力開発機構)が実施するPISAもCBTで実施されている。PISA2025の中心分野は「科学的コンピテンシー」であり、サンプル問題として、「物事の見方を学び、科学的に証明された事実がどれだけ信頼できるかを判断し、自分の意見をしっかりと組み立てる力を測ろうとする問題」などがOECDのHPで公開されている(<https://pisa-framework.oecd.org/science-2025/#section8>)。CBTの良さを生かしてこれからの時代に求められる理科の資質・能力をどのように測るか、今回の調査結果や国際調査の動向も踏まえながら、引き続き検討を重ねたい。

OECD HP上の科学的
コンピテンシーで
公開されている
サンプル問題



3. 質問調査結果（児童生徒、学校）

(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

① 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

ポイント

- 【p.48】昨年度までと同様、約8割の児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考えている。また、主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。
- 【p.49】主体的・対話的で深い学びに関する回答とウェルビーイングに関する回答との間には相関が見られる。

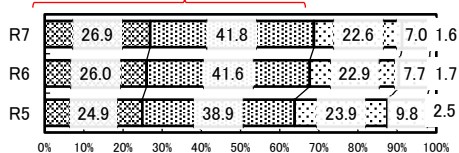
授業で工夫して発表していた

児童〔31〕生徒〔31〕 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

☒ 発表していた
 ☒ どちらかといえば、発表していた
 ☒ どちらかといえば、発表していなかった
 ☐ 発表していなかった
 ☐ 考えを発表する機会はなかった

小学校

68.7

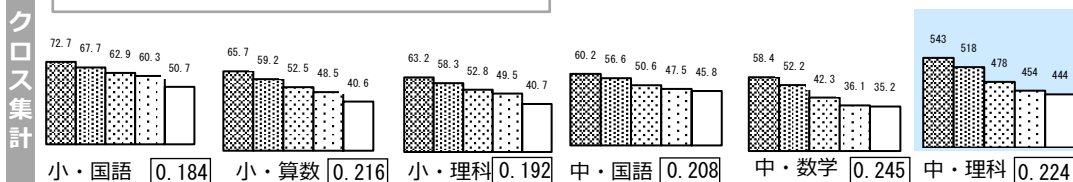


中学校

63.1



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



クロス集計

※掲載している割合を示すグラフはその他、無回答を除いているため、合計しても100%に満たない場合があります。

※ ☐ 内の数字は相関係数

R7

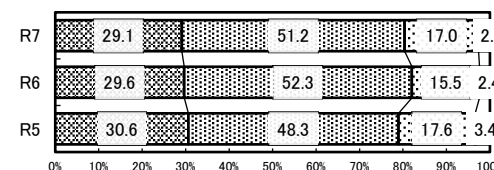
課題の解決に向けて自分から取り組んだ

児童〔32〕生徒〔32〕 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

☒ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまらない
 ☐ 当てはまらない

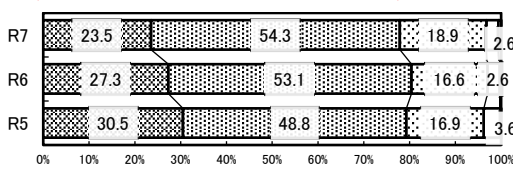
小学校

80.3

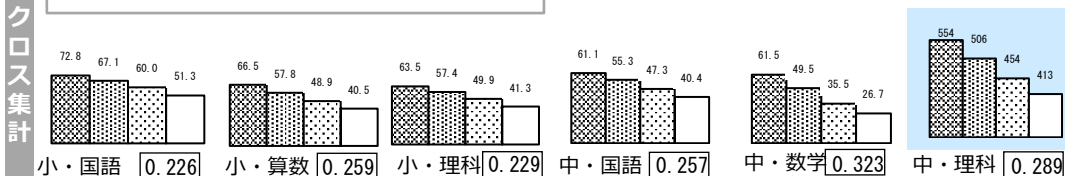


中学校

77.8



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



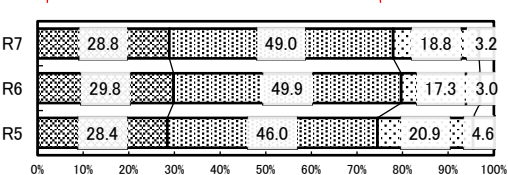
学んだことを生かしながら考えをまとめていた

児童〔33〕生徒〔33〕 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

☒ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまらない
 ☐ 当てはまらない

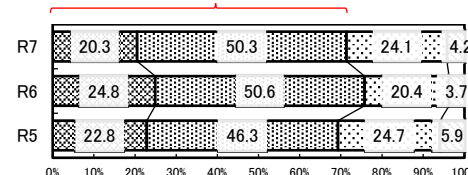
小学校

77.8

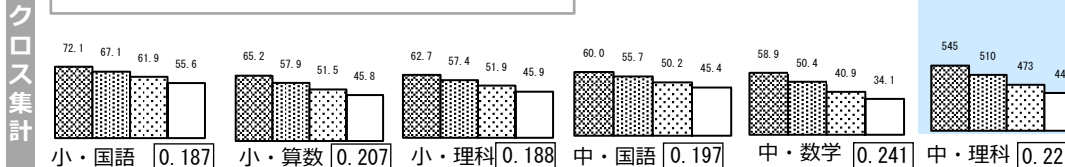


中学校

70.6



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



クロス集計

「主体的・対話的で深い学び」×児童生徒のウェルビーイング

- 児童生徒の主体的・対話的で深い学びに関する回答と児童生徒のウェルビーイングに関する回答との間には相関が見られる。主体的・対話的で深い学びが、児童生徒のウェルビーイングに影響を与えている可能性がある。

クロス集計

(児童生徒)

【課題の解決に向けて自分から取り組んだ】×【自分にはよいところがあると思う】

自分には、よいところがあると思いますか。〔5〕

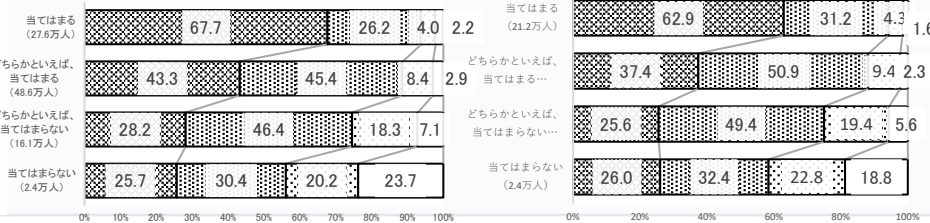
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校

0.305

中学校

0.289



クロス集計

(児童生徒)

【話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした】×【自分と違う意見について考えるのは楽しい】

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。〔13〕

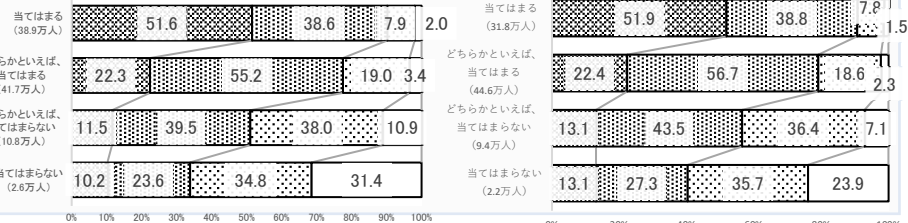
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校

0.403

中学校

0.366



クロス集計

(児童生徒)

【個別最適な学び】×【先生がよいところを認めてくれている】

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。〔6〕

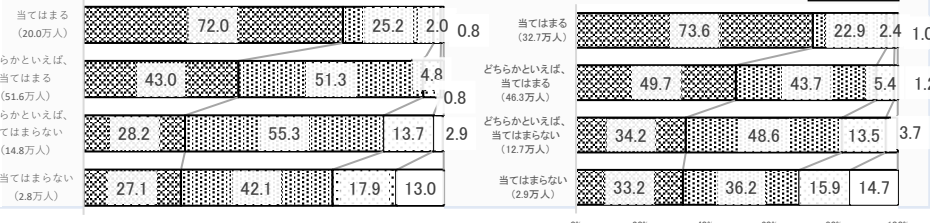
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校

0.304

中学校

0.315



クロス集計

(児童生徒)

【協働的な学び】×【学校に行くのは楽しい】

学校に行くのは楽しいと思いますか。〔12〕

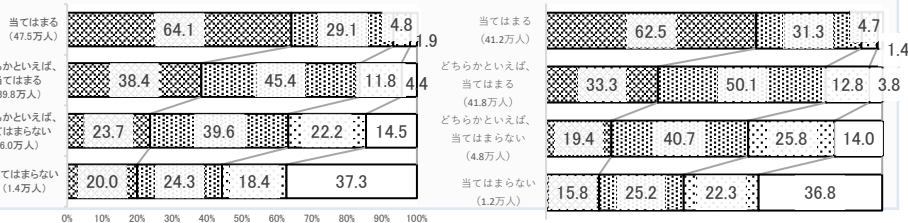
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校

0.337

中学校

0.359



(参考) 主体的・対話的で深い学びや特別の教科 道徳等の学校の取組と、児童生徒の自己有用感等との関係については、令和5年度文部科学省委託研究（受託者：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）、令和6年度文部科学省委託研究（受託者：リベルタスコンサルティング）においても詳細に分析を行っている。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1344286.htm



「社会経済的背景 (SES)」 × 「正答数・スコア」の関係

○今回の調査でも、家庭の社会経済的背景(SES: Socio-Economic Status)*が低いグループほど、各教科の正答率が低い傾向が見られる。SES別に各教科の平均正答数・スコア、中央値、最頻値、標準偏差を確認したところ、小学校算数と中学校数学についてはSESにより差が見られた。

*本調査では、児童生徒質問調査〔22〕「家にある本の冊数」をSESの代替指標として利用

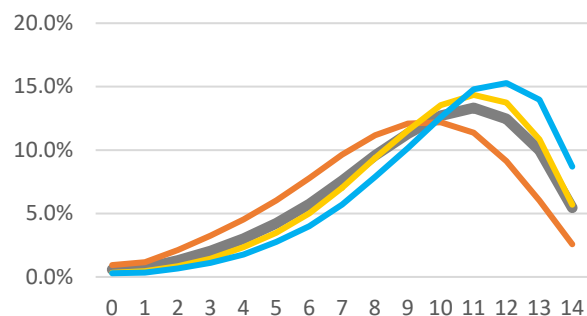
— 全体

— 0~25冊

— 26~100冊

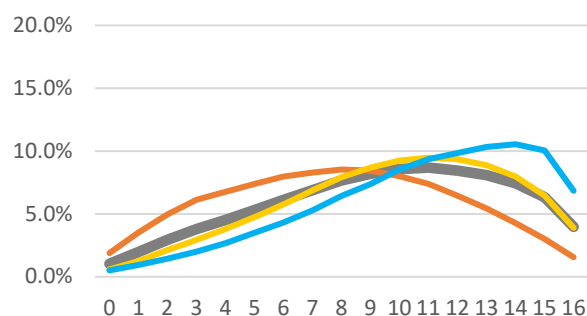
— 101冊以上

小学校国語



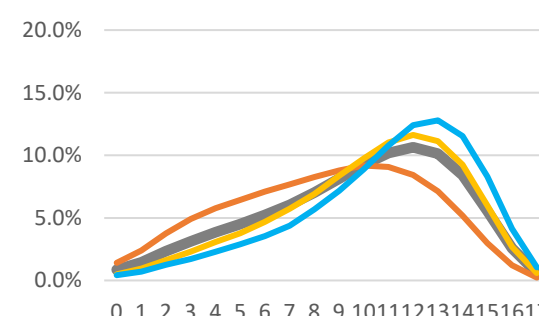
	平均正答数	中央値	最頻値	標準偏差
0~25冊(33.4万人)	8.5	9	10	3.1
26~100冊(29.8万人)	9.7	10	11	2.8
101冊以上(29.1万人)	10.2	11	12	2.8
全国(国公私)	9.4	10	11	3.0

小学校算数



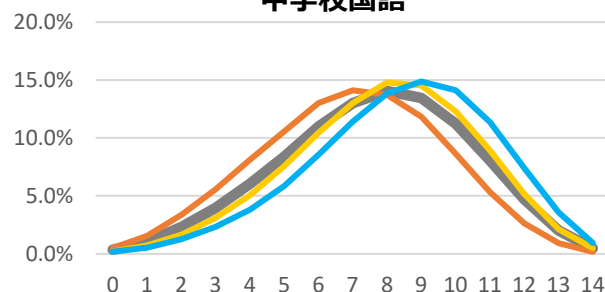
	平均正答数	中央値	最頻値	標準偏差
(33.4万人)	7.9	8	8	4.0
(29.8万人)	9.7	10	11	3.8
(29.1万人)	10.7	11	14	3.8
	9.3	10	11	4.0

小学校理科



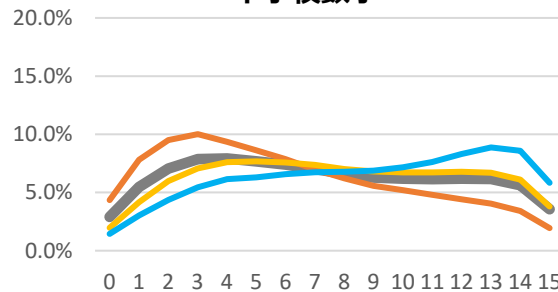
	平均正答数	中央値	最頻値	標準偏差
(33.4万人)	8.5	9	10	3.9
(29.8万人)	10.2	11	12	3.6
(29.1万人)	10.9	12	13	3.5
	9.7	10	12	3.8

中学校国語



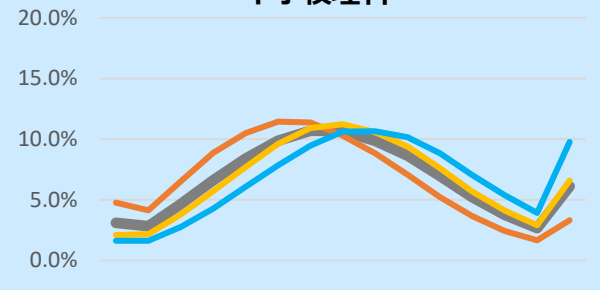
	平均正答数	中央値	最頻値	標準偏差
0~25冊(33.6万人)	6.9	7	7	2.7
26~100冊(27.1万人)	7.9	8	8	2.6
101冊以上(24.4万人)	8.4	9	9	2.6
全国(国公私)	7.7	8	8	2.7

中学校数学



	平均正答数	中央値	最頻値	標準偏差
(33.6万人)	6.2	6	3	4.0
(27.1万人)	7.7	8	5	4.1
(24.4万人)	8.6	9	13	4.2
	7.4	7	4	4.2

中学校理科



	平均スコア	中央値	最頻値	標準偏差
(34.1万人)	473	465	—	115
(27.3万人)	516	506	—	121
(24.5万人)	541	531	—	130
	505	496	—	124

「社会経済的背景（SES）」 × 「主体的・対話的で深い学び」 × 「正答率」の関係

三重クロス集計

家庭の社会経済的背景(SES: Socio-Economic Status)*が低いグループほど、各教科の正答率が低い傾向が見られる中でも、「主体的・対話的で深い学び」(*)に取り組んだ児童生徒は、SESが低い状況にあっても、各教科の正答率が高い傾向が見られる。

(※)「児童生徒〔32〕課題の解決に向けて自分から取り組んだか」以外の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答でも同様の傾向。

【家にある本の冊数】 × 【課題の解決に向けて自分から取り組んだ】 × 【各教科の正答率】

【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 児童生徒〔32〕】



- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない



【家にある本の冊数
児童生徒〔22〕】



- ・ 0～25冊
- ・ 26～100冊
- ・ 101冊以上

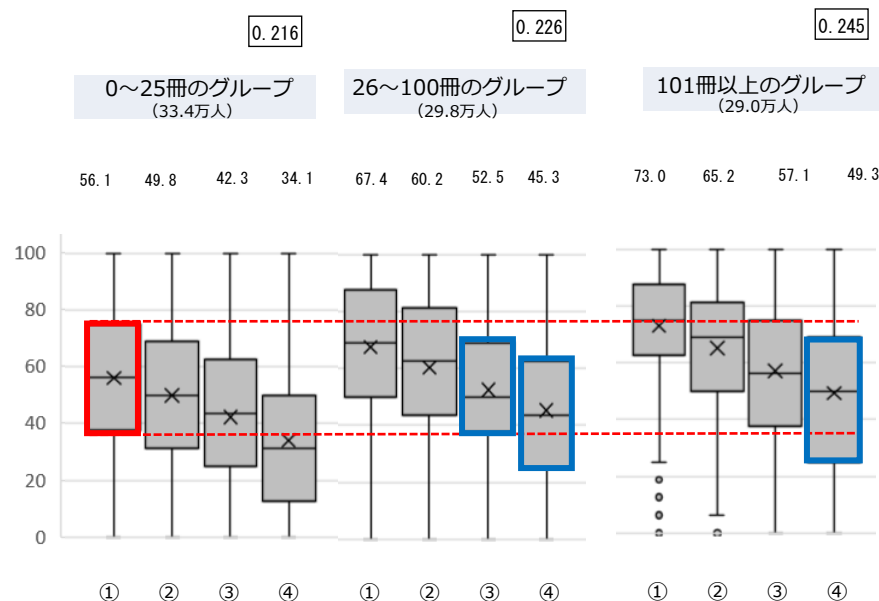
*SESの代替指標として利用

分析

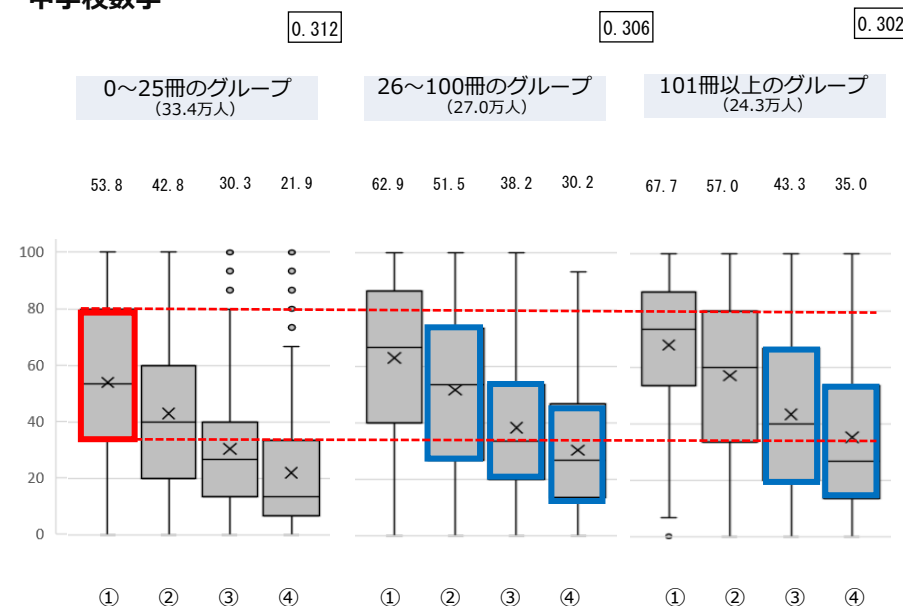
例えば、中学校数学では、低SESグループ（本が0～25冊）で主体的・対話的で深い学びの質問に「①」と回答した生徒の箱ひげ図の箱は、中SESグループ（本が26～100冊）で「②」「③」「④」と回答した生徒及び高SESグループ（本が101冊以上）で「③」「④」と回答した生徒の箱より上の位置（正答率が高い位置）にある。



小学校算数



中学校数学



「各教科の正答率」

(注) 中・高SESグループの箱ひげ図のうち、低SESグループで「①」と回答した児童生徒の箱ひげ図の箱（赤枠）の第1四分位又は第3四分位を下回っているものの箱に青枠を付している。

(参考) SESと正答率との関係等については、令和4年度文部科学省委託研究（受託者：福岡教育大学、お茶の水女子大学）においても詳細に分析を行っている。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1416304_00008.html



② 主体的な学習の調整

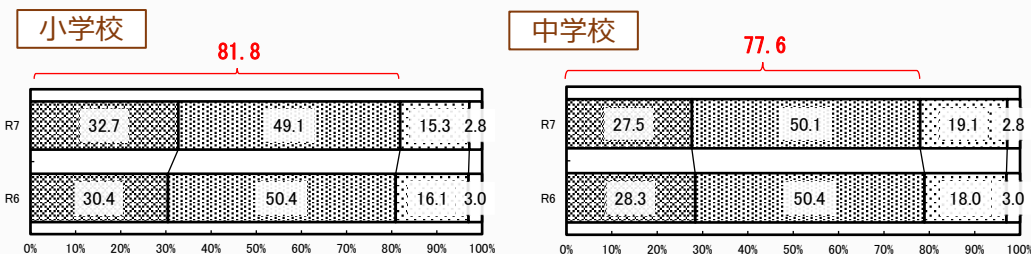
ポイント

- 【p.52】小・中学校ともに、約7～8割の児童生徒が主体的に学習を調整できている。
- 【p.52】主体的に学習を調整できていると考える児童生徒の方が、各教科の正答率・スコアが高い。

自分で学び方を考え、工夫

児童〔16〕 生徒〔16〕 分からないことやくわ〔詳〕しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

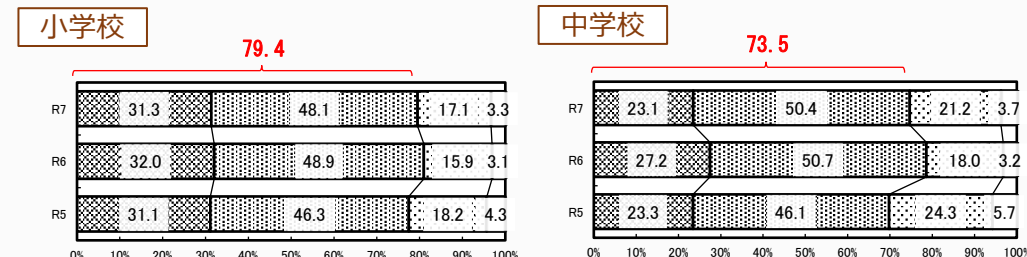
☒ できている ☒ どちらかといえば、できている
☒ どちらかといえば、できていない ☐ できていない



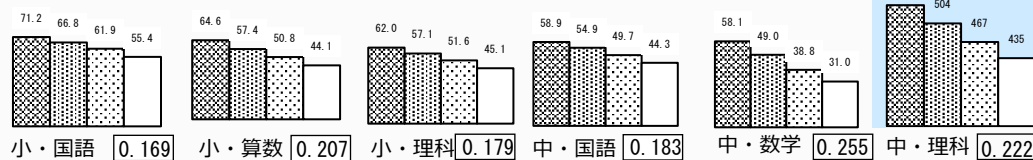
よく分からなかった点等を見直し次の学習につなげた

児童〔36〕 生徒〔36〕 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

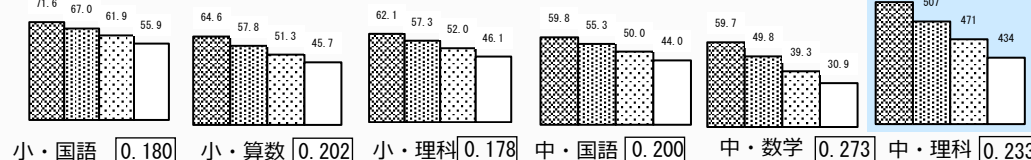
☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



(2) ICTを活用した学習状況

① ICTの活用状況等

ポイント

- 【p.53】 ICT機器を「ほぼ毎日」「週3回以上」活用する学校は、小学校97%（前年比3ポイント増）、中学校94%（前年比4ポイント増）。また、児童生徒のICT機器を使用する頻度と各教科の正答率・スコアとの間に、一定の関係が見られる。
- 【p.54】 ICT機器が、不登校児童生徒、特別な支援を要する児童生徒、外国人児童生徒等に対する学習活動等の支援や、児童生徒の心身の状況の把握等にも活用されている。

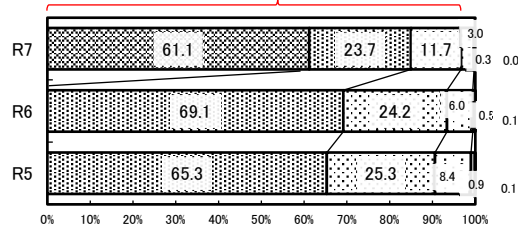
小学校〔58〕
中学校〔58〕

調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。

■ ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用） ■ ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業） ■ 週3回以上
■ 週1回以上 ■ 月1回以上 □ 月1回未満

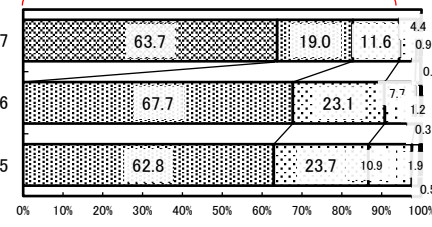
小学校

96.5



中学校

94.3



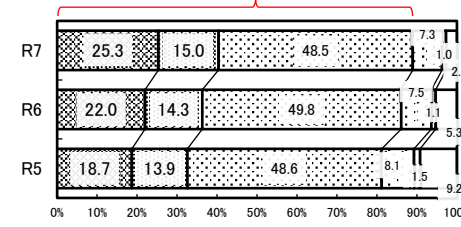
小学校〔66〕
中学校〔66〕

児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。

■ 毎日持ち帰って、毎日利用させている ■ 毎日持ち帰って、時々利用させている ■ 時々持ち帰って、時々利用させている
■ 持ち帰らせていない ■ 持ち帰ってはいけないこととしている □ 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている

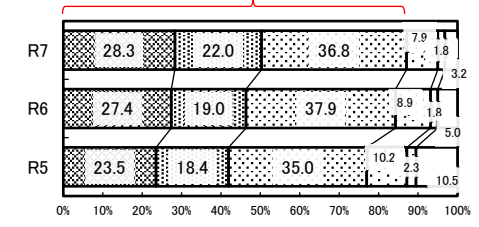
小学校

88.8



中学校

87.1



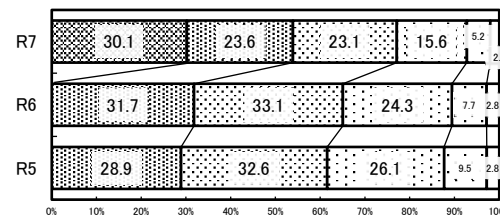
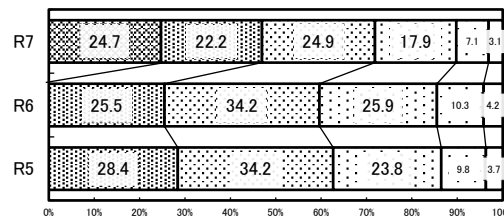
児童〔28〕
生徒〔28〕

5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

■ ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用） ■ ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業） ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 □ 月1回未満

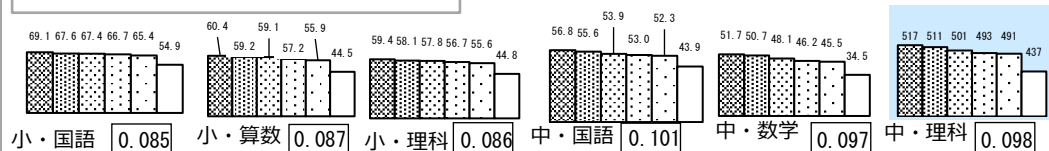
小学校

中学校



クロス集計

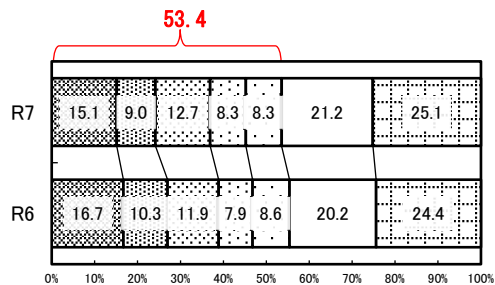
選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



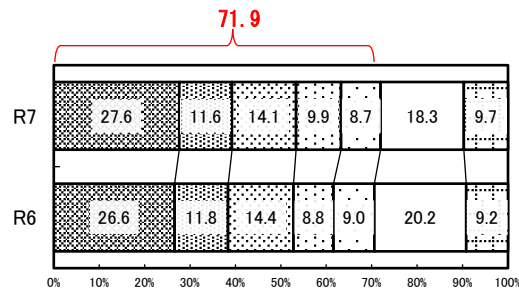
ほぼ毎日
 週3回以上
 週1回以上
 月1回以上
 月1回未満
 活用していない
 該当する児童〔生徒〕がない

(1) 不登校児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援（授業配信を含む）

小学校

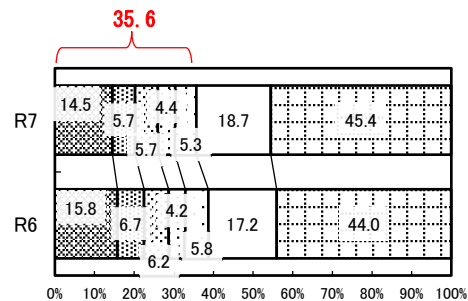


中学校

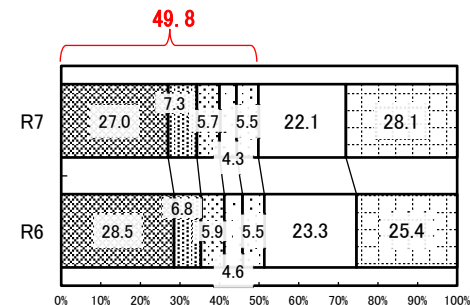


(2) 希望する不登校児童〔生徒〕に対する授業配信

小学校

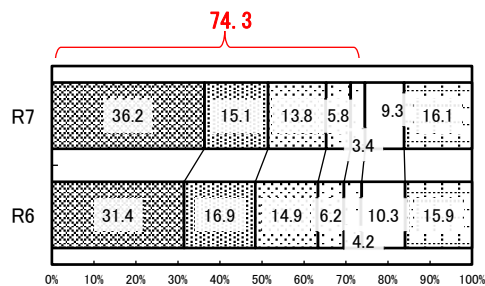


中学校

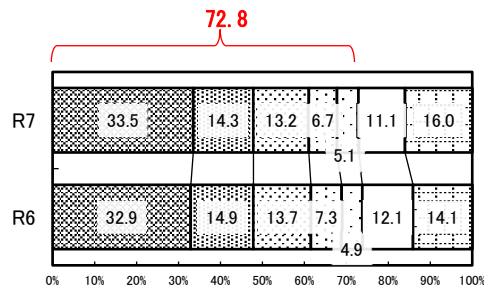


(3) 特別な支援を要する児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援

小学校

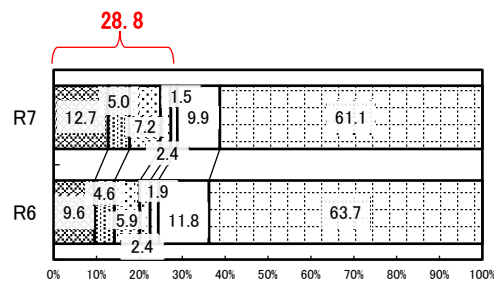


中学校

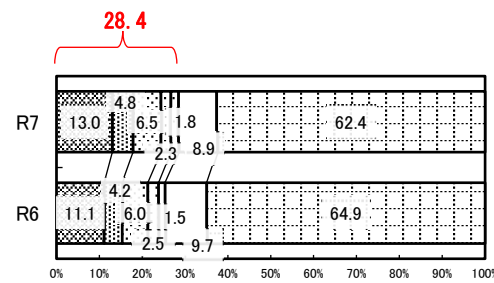


(4) 外国人児童〔生徒〕等に対する学習活動等の支援

小学校

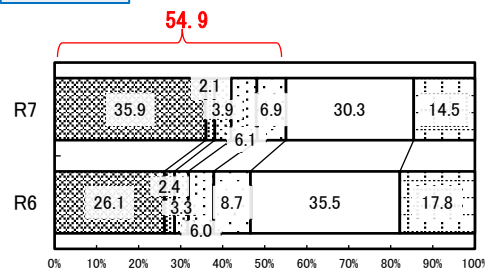


中学校

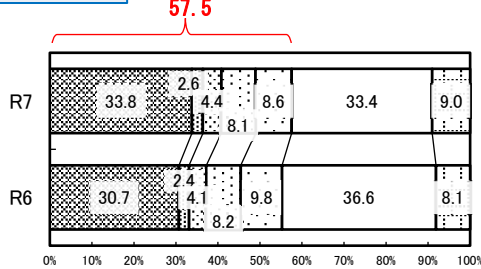


(5) 児童〔生徒〕の心身の状況の把握

小学校

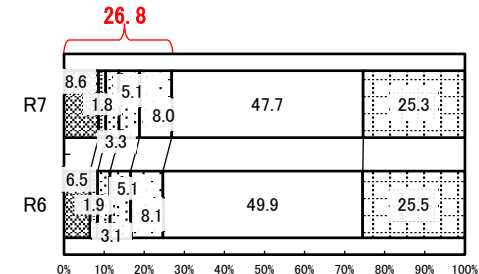


中学校

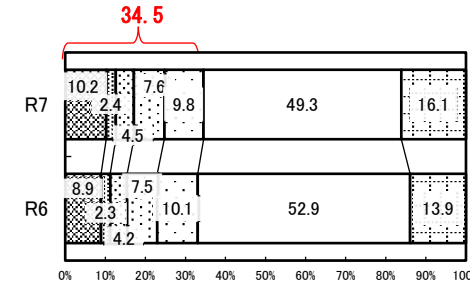


(6) 児童〔生徒〕に対するオンラインを活用した相談・支援

小学校



中学校



② ICTを活用する自信

ポイント

- 【p.55】 約8割の児童生徒がICT機器で「文章を作成する（文字、コメントを書くなど）」ことができる、約9割の児童生徒が「インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）」ことができると考えている。
- 【p.55】 ICT機器を活用ことができると考えている児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。CBTで実施した中学校理科とPBTで実施した教科との間で、この傾向に大きな違いは見られない。

※同じ傾向はTIMSS2023（CBTで算数・数学、理科を実施）においても確認されている。

【参考】TIMSS2023の結果（概要）<https://www.nier.go.jp/timss/2023/gaiyou.pdf>

児童〔29〕
生徒〔29〕

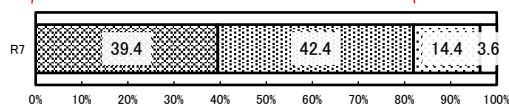
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って以下のことができますか。（新規）

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない □ そう思わない

(1) 文章を作成する（文字、コメントを書くなど）

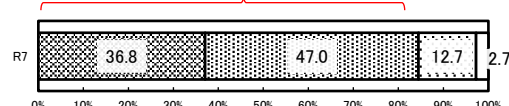
小学校

81.8



中学校

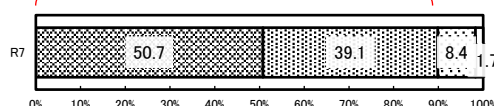
83.8



(2) インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）

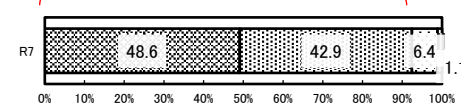
小学校

89.8

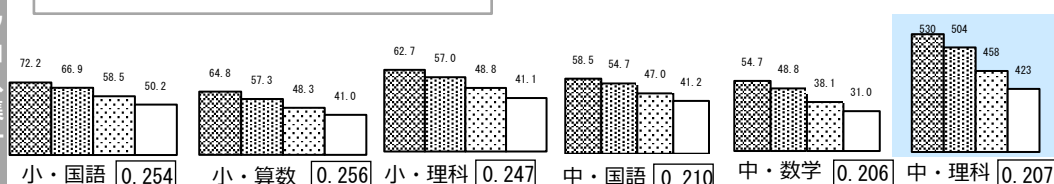


中学校

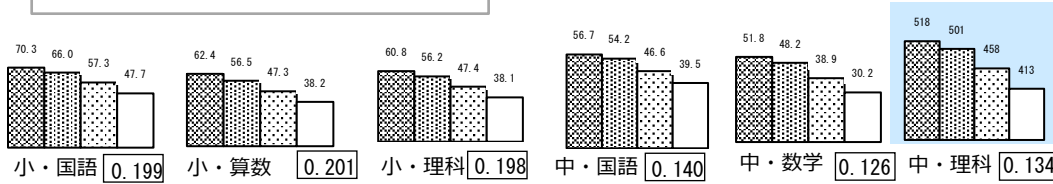
91.5



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



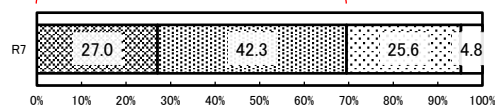
選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



(3) 情報を整理する（図、表、グラフ・思考ツールなどを使ってまとめる）

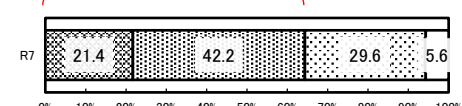
小学校

69.3

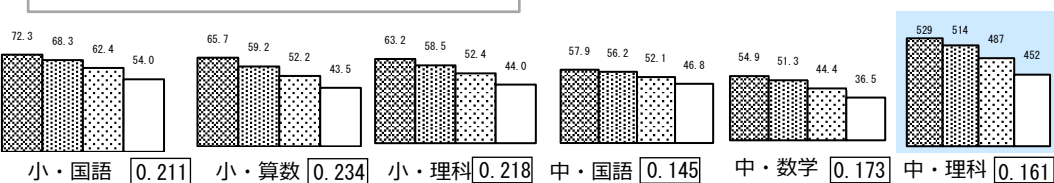


中学校

63.6



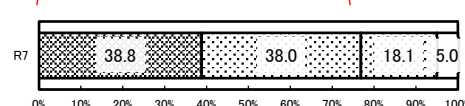
選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



(4) 学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する

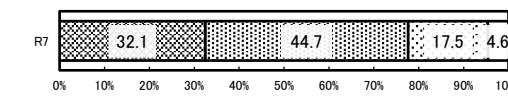
小学校

76.8

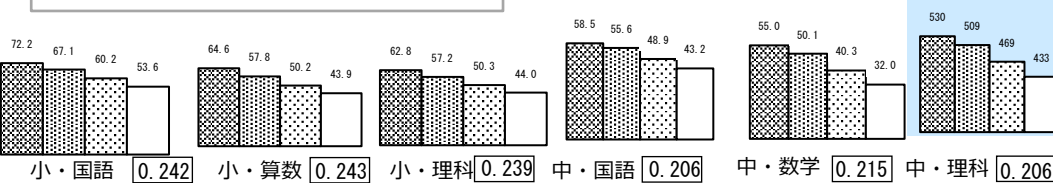


中学校

76.8



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



ICTを活用する自信×探究的な学び

- ICT機器を活用する自信がある児童生徒ほど、探究的な学びに取り組んだと回答している傾向が見られる。

クロス 集計 (児童生徒)

【インターネットを使って情報を収集できる】× 【総合的な学習の時間で探究的な学びに取り組んでいた】

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。〔40〕

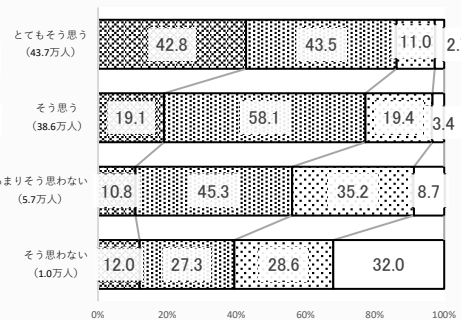
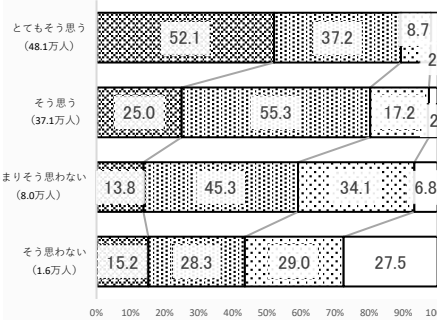
☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

小学校

0.331

中学校

0.287



クロス 集計 (児童生徒)

【ICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成できる】× 【授業で工夫して発表していた】

授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。〔31〕

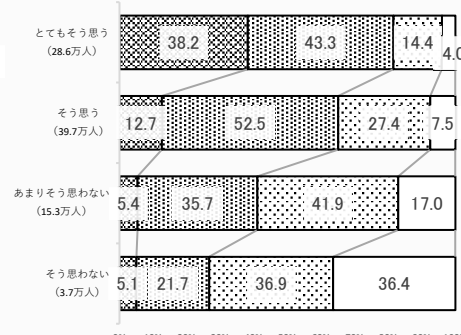
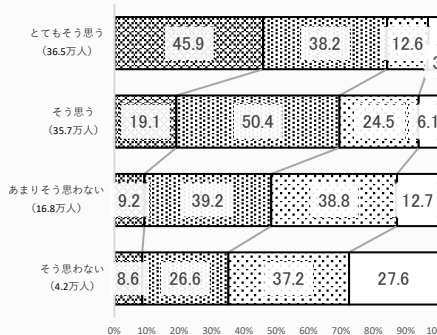
☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

小学校

0.386

中学校

0.394



クロス 集計 (児童生徒)

【ICT機器を使って情報を整理できる】× 【学んだことを生かしながら考えをまとめていた】

授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。〔33〕

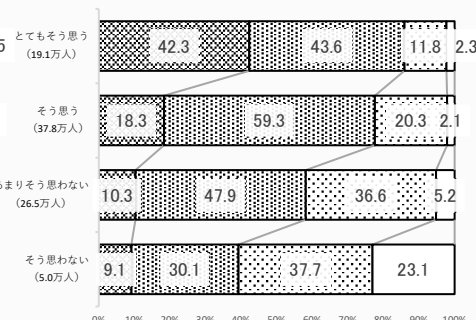
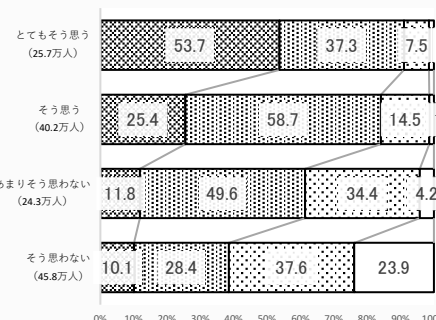
☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

小学校

0.415

中学校

0.348



参考

PISA2022では、情報を集める、集めた情報を記録する、分析する、報告するといった場面でデジタル・リソースを使う頻度は他国に比べて低く、「ICTを用いた探究型の教育の頻度」指標はOECD平均を下回っていた。

- 高校生自身が情報を集める、集めた情報を記録する、分析する、報告するといった場面でデジタル・リソースを使う頻度は他国に比べて低く、「ICTを用いた探究型の教育の頻度」指標はOECD平均を下回っている。

ICT活用調査「ICTを用いた探究型の教育の頻度」指標

OECD平均	0.01
29位 日本	-0.82

※ ICT活用調査に参加したOECD加盟国29か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、その値が大きいほど、ICTを用いた探究型の教育の頻度が高いことを意味している。

【参考】 OECD生徒の学習到達度調査2022年調査（PISA2022）のポイント
https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2022/01_point_2.pdf

ICTを活用する自信×各教科における学び

- ICT機器を活用する自信がある児童生徒ほど、各教科で自分の考えを工夫してまとめたり発表したりする活動に取り組んでいた傾向が見られる。

クロス集計

〔ICT機器を使って情報を整理することができると思う〕×〔国語の授業で文章を工夫して書いている、整えている〕

国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか。〔児童50〕

国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか。〔生徒51〕

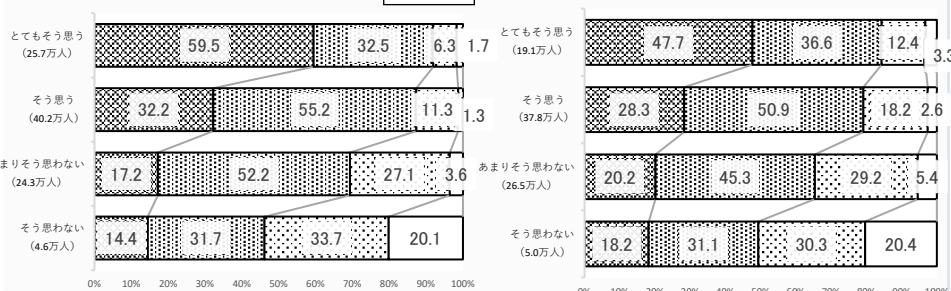
☒ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまらない
 ☐ 当てはまらない

小学校

0.380

中学校

0.259



クロス集計

〔ICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができる〕×〔算数・数学の授業でどのように考えたのかを説明している〕

算数〔数学〕の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。〔58〕

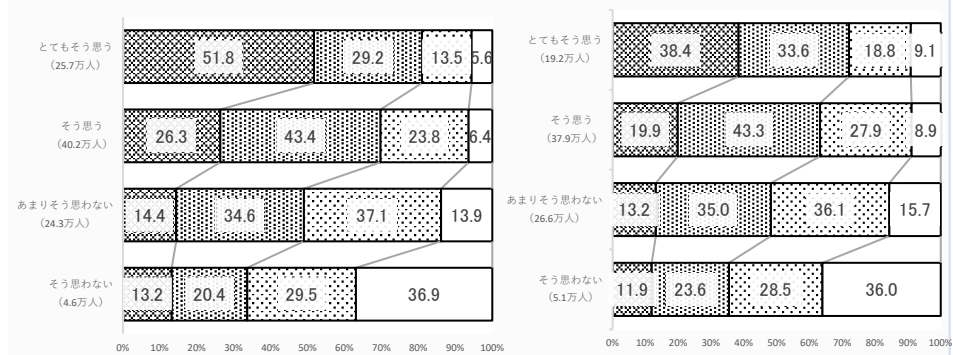
☒ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまらない
 ☐ 当てはまらない

小学校

0.346

中学校

0.256



クロス集計

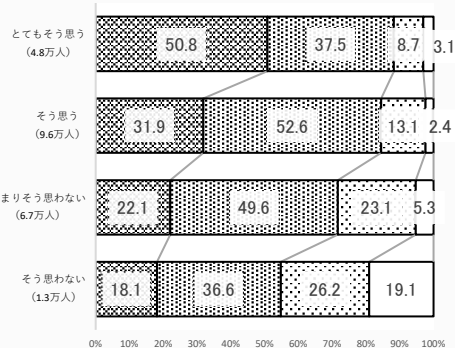
〔ICT機器を使って情報を整理することができると思う〕×〔理科の授業で観察や実験の結果を自分でまとめている*〕

理科の授業では、観察や実験の結果を自分でまとめていますか。〔生徒71-2〕*
*ランダム方式で出題

☒ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまらない
 ☐ 当てはまらない

中学校

0.266



クロス集計

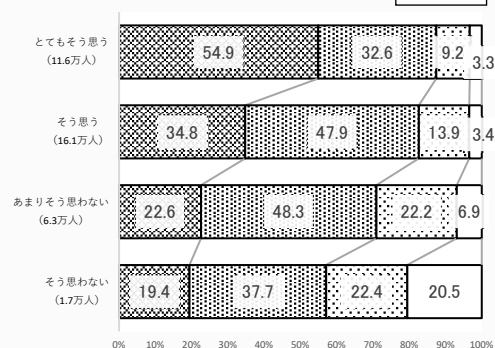
〔ICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができる〕×〔英語「話すこと（発表）」*〕

スピーチやプレゼンテーションなど、まとめた内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。〔生徒72-4〕*
*ランダム方式で出題

☒ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまらない
 ☐ 当てはまらない

中学校

0.265



ICTを活用する自信×「自分にはよいところがある」

- ICT機器を活用する自信がある児童生徒ほど、「自分にはよいところがあると思う」と回答している傾向が見られる

クロス集計 (児童生徒)

【ICT機器を使って文章を作成できる】× 【自分にはよいところがあると思う】

自分には、よいところがあると思いますか。〔5〕

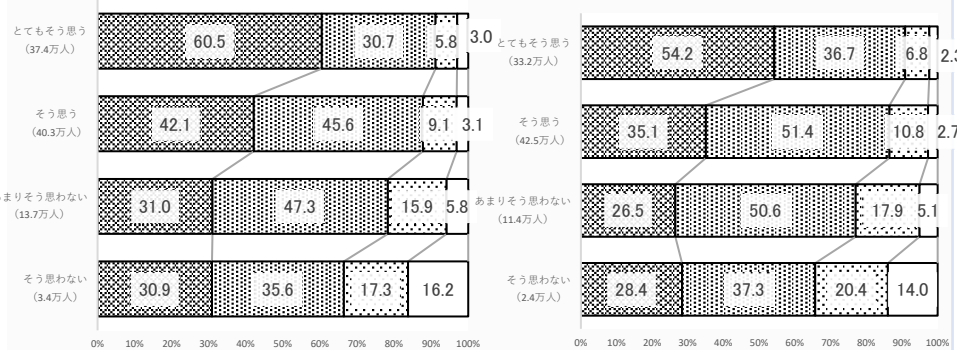
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校

0.229

中学校

0.218



クロス集計 (児童生徒)

【インターネットを使って情報を収集できる】× 【自分にはよいところがあると思う】

自分には、よいところがあると思いますか。〔5〕

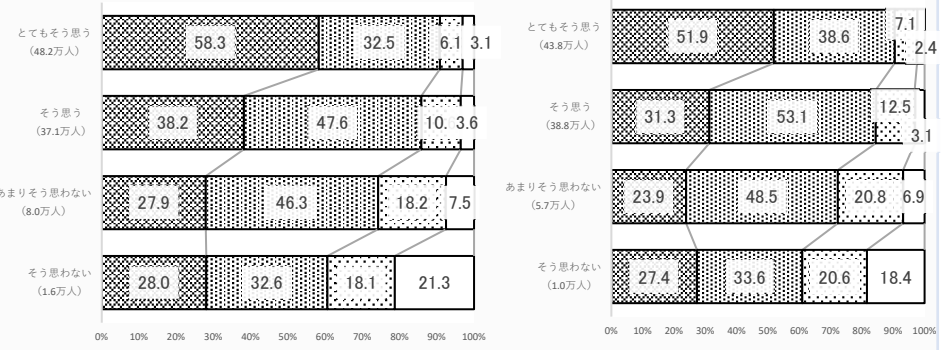
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校

0.231

中学校

0.223



クロス集計 (児童生徒)

【ICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成できる】× 【自分にはよいところがあると思う】

自分には、よいところがあると思いますか。〔5〕

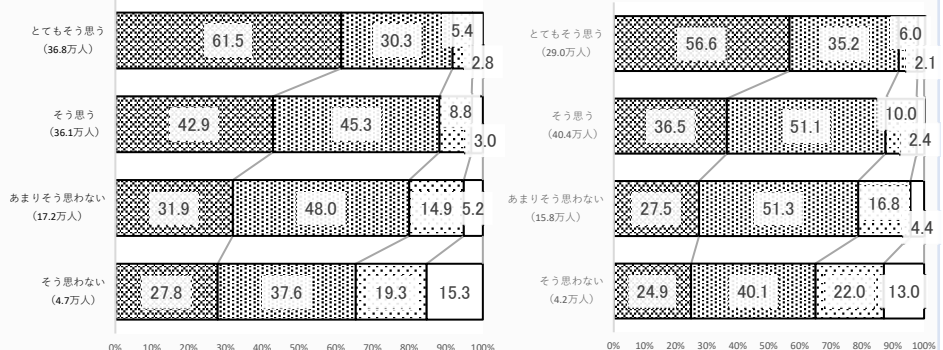
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校

0.250

中学校

0.246



クロス集計 (児童生徒)

【ICT機器を使って情報を整理できる】× 【自分にはよいところがあると思う】

自分には、よいところがあると思いますか。〔5〕

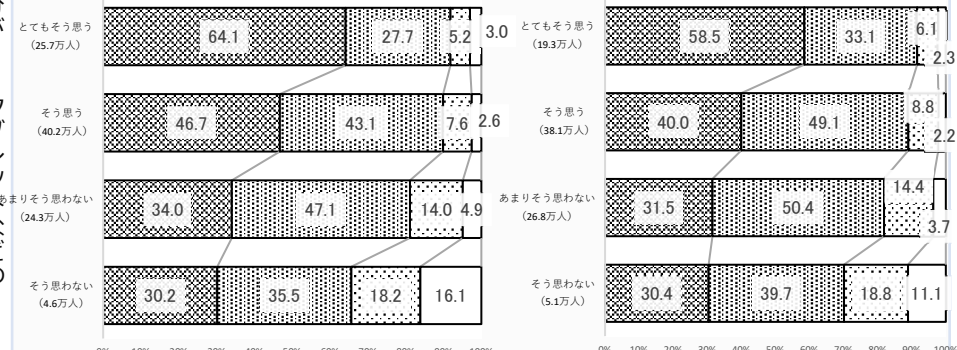
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校

0.241

中学校

0.209



クロス集計 (児童生徒)

あなたは自分がICT・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか。〔29-4〕

あなたは自分がICT・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思いますか。〔29-1〕

③ ICT機器活用の効力感

ポイント

- 【p.59】 約9割の児童生徒が、ICT機器は「分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」と考えている。
- 【p.60】 ICT機器活用の効力感に関して肯定的に回答した児童生徒ほど、自分と違う意見や新たな考えについて考えることに前向きな傾向が見られる。

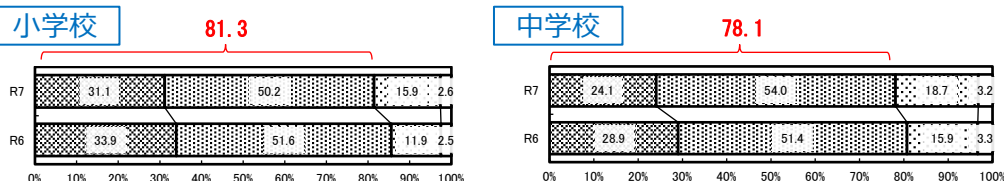
児童〔30〕
生徒〔30〕

5年生まで〔1、2年生のとき〕の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、以下のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

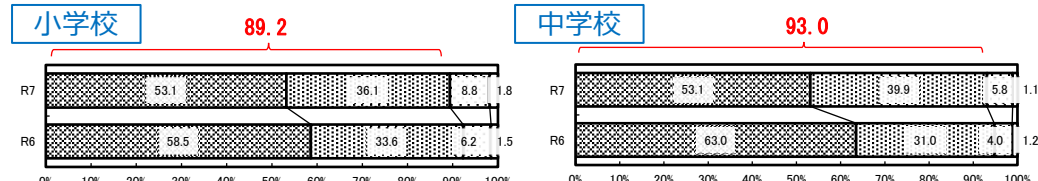
※中学校生徒質問調査では、7項目のうちランダムに選ばれた2項目に回答

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない □ そう思わない

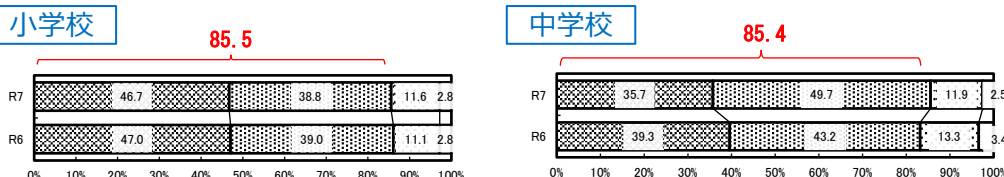
(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる



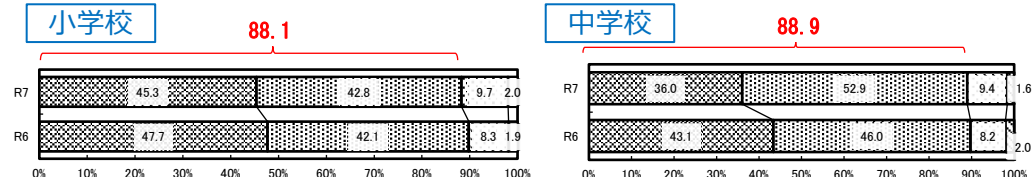
(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる



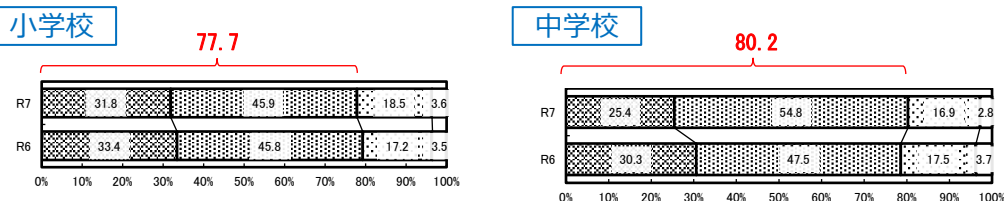
(3) 楽しみながら学習を進めることができる



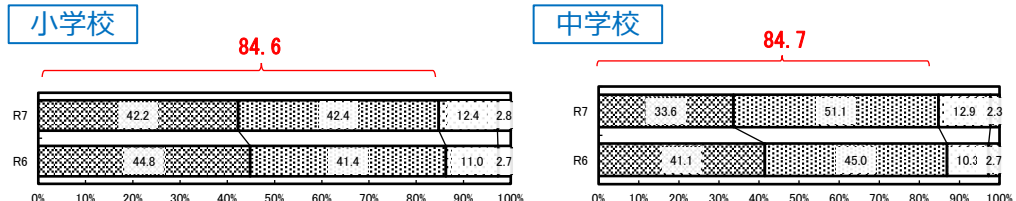
(4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる



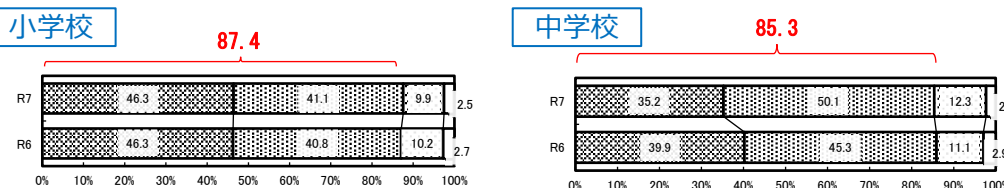
(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる



(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる



(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる



ICT機器活用の効力感×「自分と違う意見について考える」

- ICT機器活用の効力感に関して肯定的に回答した児童生徒ほど、自分と違う意見や新たな考えについて考えることに前向きな傾向が見られる。

児童〔30〕 生徒〔30〕 5年生まで〔1、2年生のとき〕の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、以下のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

クロス集計

(児童生徒)

友達の考えを共有したり比べたりしやすくなる。〔30・6〕

〔ICTを活用すると友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる〕×〔自分と違う意見について考えるのは楽しい〕

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。〔13〕

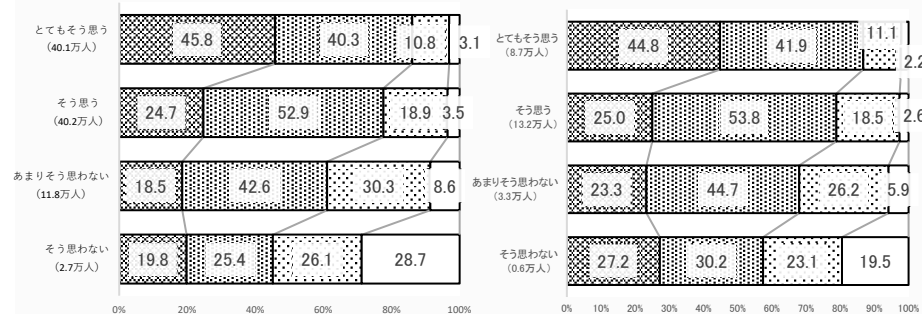
- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

小学校

0.280

中学校

0.212



クロス集計

(児童生徒)

友達の考えを共有したり比べたりしやすくなる。〔30・7〕

〔ICTを活用すると友達と協力しながら学習を進められる〕×〔自分と違う意見について考えるのは楽しい〕

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。〔13〕

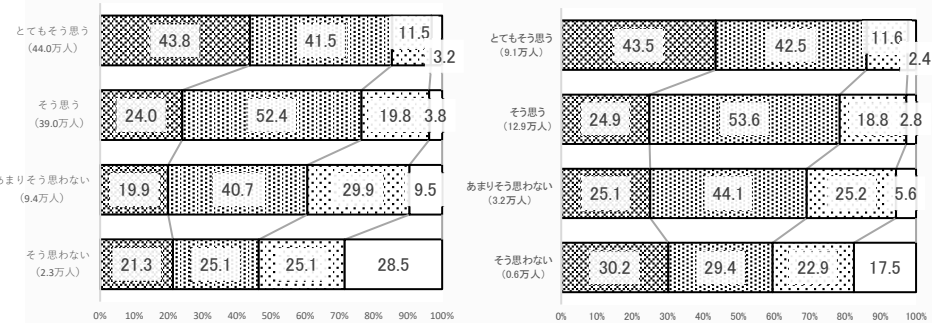
- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

小学校

0.258

中学校

0.189



クロス集計

(児童生徒)

自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。〔30・5〕

〔ICTを活用すると自分の考えや意見を分かりやすく伝えられる〕×〔話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした〕

学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。〔35〕

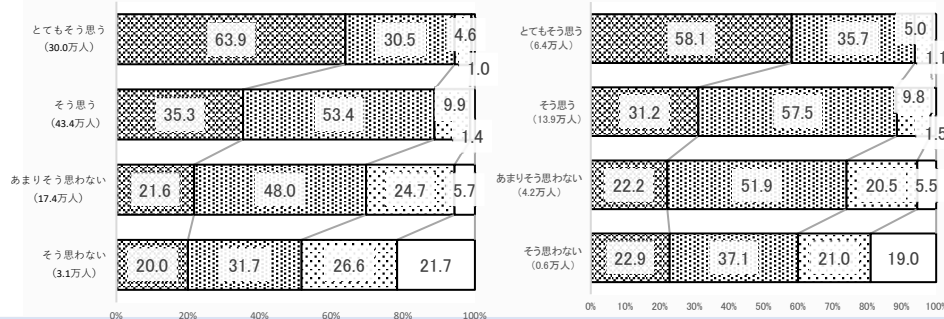
- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

小学校

0.374

中学校

0.297



クロス集計

(児童生徒)

友達の考えを共有したり比べたりしやすくなる。〔30・6〕

〔ICTを活用すると友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる〕×〔話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした〕

学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。〔35〕

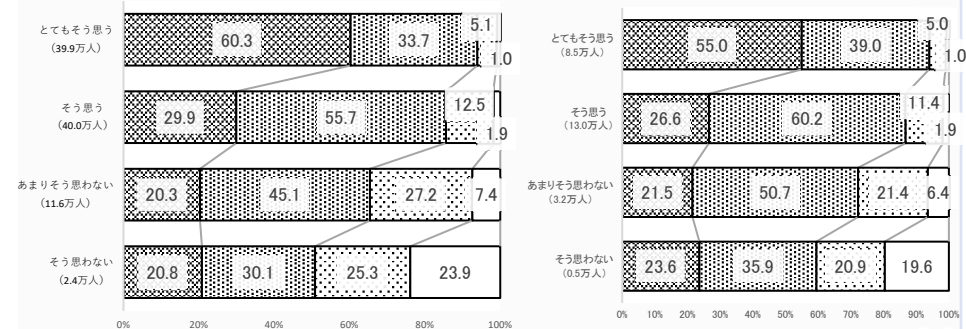
- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

小学校

0.375

中学校

0.307



- PISA の生徒質問調査では、「構成内マトリックスサンプリング法」（ある大問について全小問ではなく一部の小問のみランダムに生徒に回答させる手法）が採用されている。例えば、PISA2022 では、コロナによる休校期間中の学習について問う大問中、デジタル機器の使用、学習環境などに関する 8 つの小問があり、個々の生徒にはその中から 5 つの小問がランダムに質問された。
- 令和 7 年度の生徒質問においては、一人一人の指導に生かすための項目を引き続き悉皆調査としつつ、全体の傾向を把握するための項目の一部について、MEXCBTの機能を活用して「ランダム方式」が試行された。具体的には、16 項目に「ランダム方式」を採用し、ランダムに選ばれた 5 問のみを生徒が回答する形がとられ、例えば、p.59に結果を掲載した生徒質問(30-1)～(30-7)の 7 問中 2 問に回答してもらった。
- 「全国学力・学習状況調査の調査結果の取扱いの改善の方向性」（令和 7 年 6 月 6 日全国的な学力調査に関する専門家会議・調査結果の取扱い検討ワーキンググループ）において、「令和 8 年度以降の調査においても、このようなランダム方式を活用して効率的・効果的に質問調査を実施することについて、更なる検討を進めるべきである」とされている。
- 今回、調査及び分析は滞りなく実施できたが、ランダム方式の更なる活用に向けた検討を進めるに当たって、以下の 2 点に留意する必要がある。
 - 1 点目は教育委員会や学校への結果提供の方法についてである。今回ランダム方式を採用した項目については、全体の傾向を把握することを主目的としていることも踏まえ、学校、教育委員会ごとの集計・返却は行わず、報告書に国全体の傾向を掲載する取扱いとしている。ランダム方式を採用した質問項目の回答結果について、学校や教育委員会における活用可能性をさらに検討する必要があるだろう。
 - 2 点目はランダム方式で実施することによる影響の有無の検証である。今回、ランダム方式で実施した質問について、国全体傾向が分かるデータを取得できたと考えられる一方、(30-1)～(30-7)では全体的に「とてもそう思う」と回答した割合が昨年度の同じ質問よりも減少した。従来通りの悉皆調査で実施した小学校の結果との比較などを通じて、ランダム方式の影響を見極める必要がある。

（参考）ランダム方式で実施した生徒質問調査の結果については、「令和 7 年度全国学力・学習状況調査報告書（質問調査）」に掲載している。

🔗 <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

(3) 教科に関する意識や学習活動

① 各教科への興味・関心、理解度

ポイント

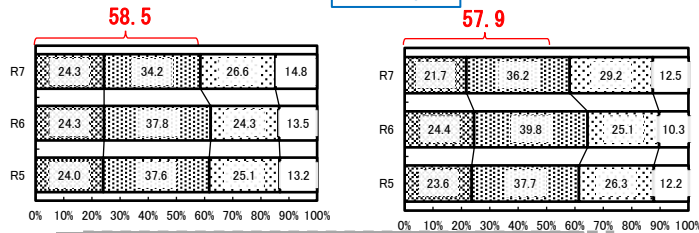
- 【p.63】授業がよく分かる児童生徒ほど各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られるが、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が全教科で前回調査から減少。
- 【p.63】国語、数学、理科をそれぞれ得意でないと考えている中学校生徒は約5割。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

児童〔45〕
生徒〔45〕 国語の勉強は好きですか。

小学校

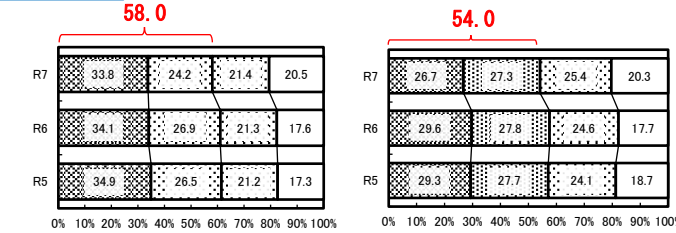
中学校



児童〔53〕
生徒〔53〕 算数〔数学〕の勉強は好きですか。

小学校

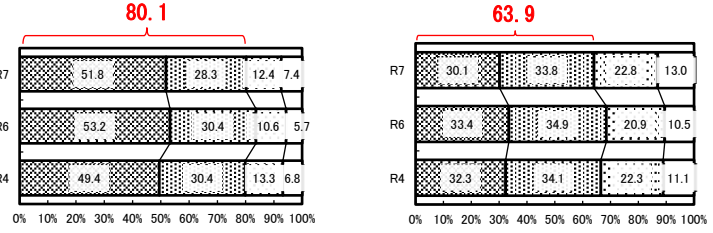
中学校



児童〔61〕
生徒〔61〕 理科の勉強は好きですか。

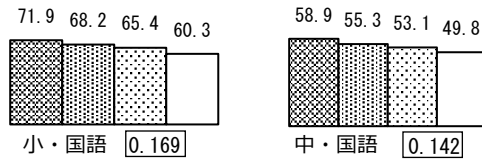
小学校

中学校



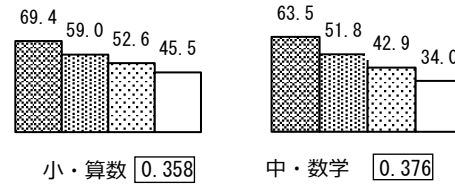
選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

クロス集計



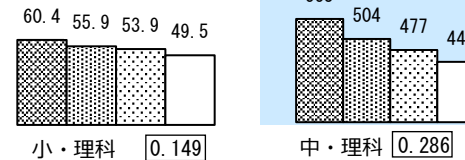
選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

クロス集計



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

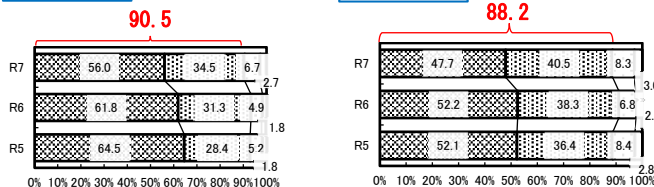
クロス集計



児童〔47〕
生徒〔47〕 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

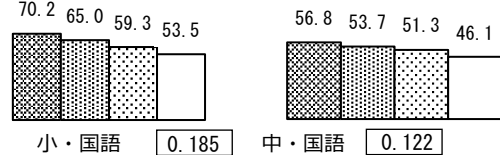
小学校

中学校



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

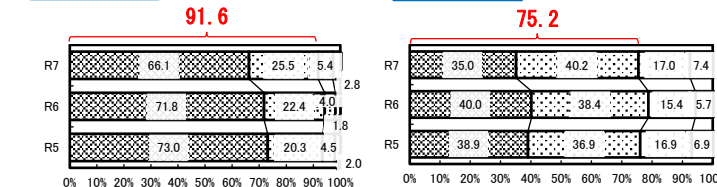
クロス集計



児童〔55〕
生徒〔55〕 算数〔数学〕の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

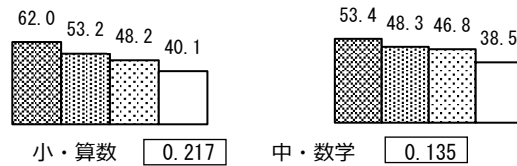
小学校

中学校



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

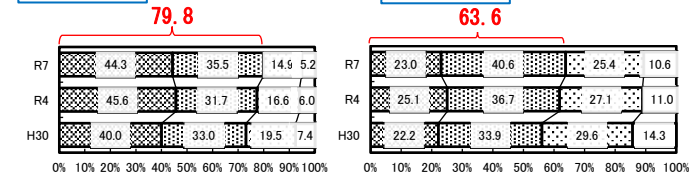
クロス集計



児童〔63〕
生徒〔63〕 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

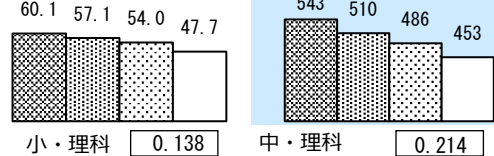
小学校

中学校



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

クロス集計

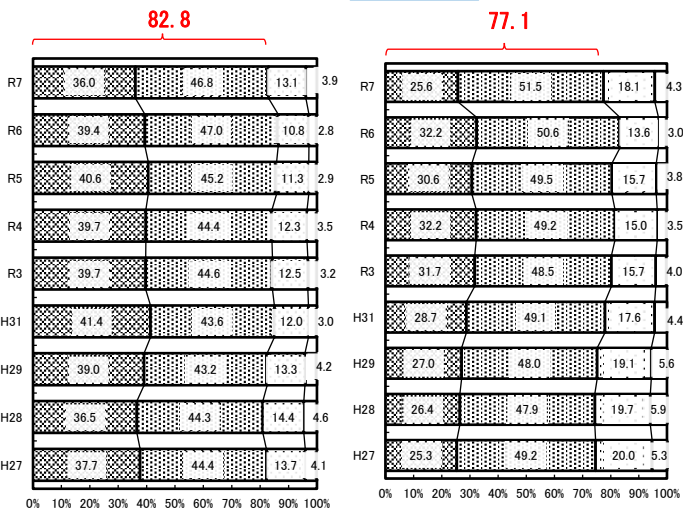


☒ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまらない
 ☐ 当てはまらない

児童〔46〕
生徒〔46〕 国語の授業の内容はよく分かりますか。

小学校

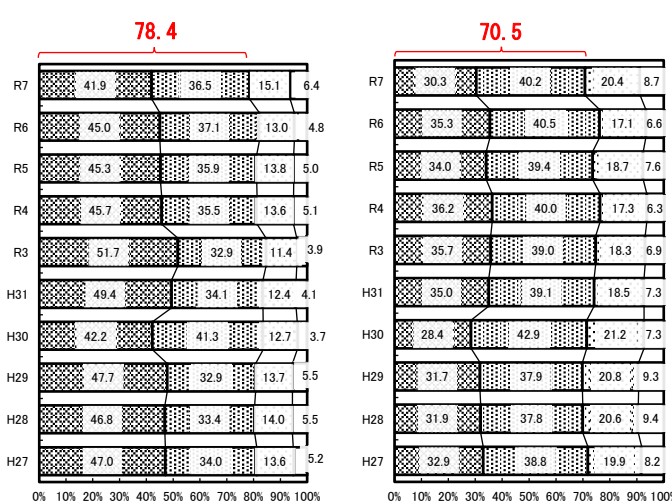
中学校



児童〔54〕
生徒〔54〕 算数〔数学〕の授業の内容はよく分かりますか。

小学校

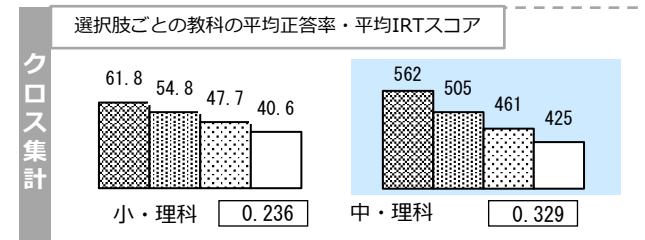
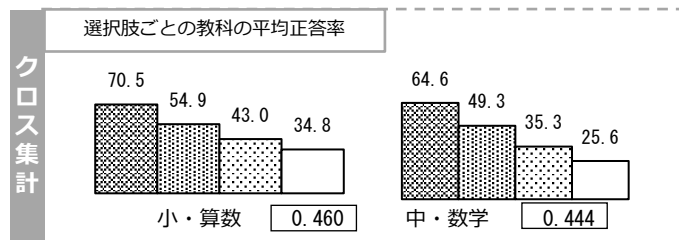
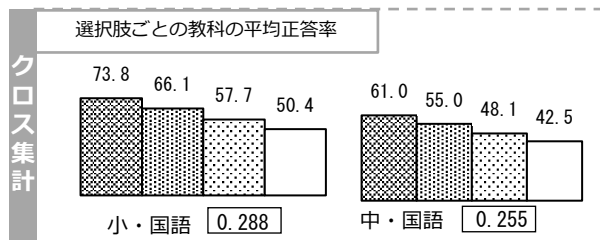
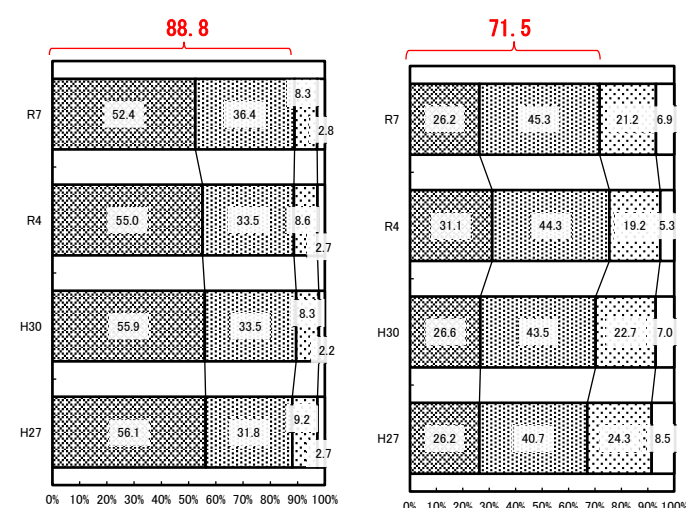
中学校



児童〔62〕
生徒〔62〕 理科の授業の内容はよく分かりますか。

小学校

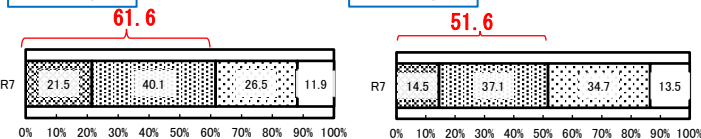
中学校



児童〔44〕
生徒〔44〕 国語の勉強は得意ですか。（新規）

小学校

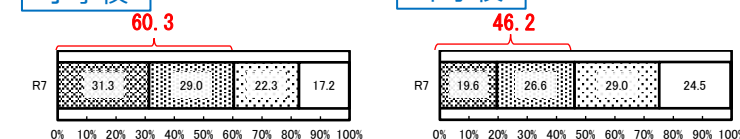
中学校



児童〔52〕
生徒〔52〕 算数〔数学〕の勉強は得意ですか。（新規）

小学校

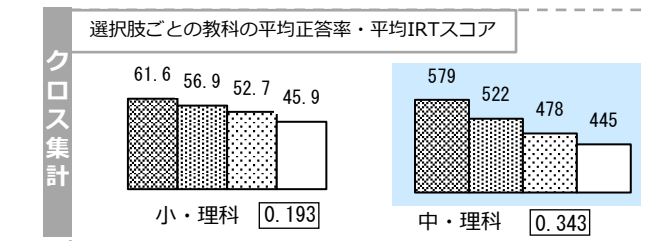
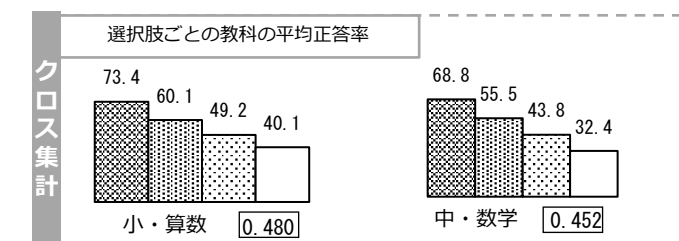
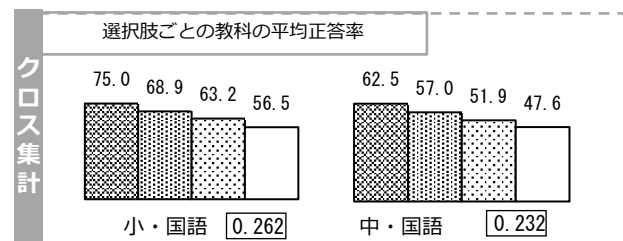
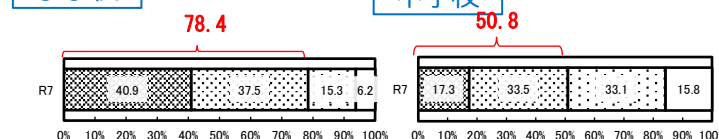
中学校



児童〔60〕
生徒〔60〕 理科の勉強は得意ですか。（新規）

小学校

中学校



② 男女差

ポイント

- 【p.64】男女別に平均正答率・スコアを比較すると、国語、理科は小・中学校とも女子が男子を上回った。算数・数学は小・中学校とも男子が女子を上回った。ただし、算数・数学、理科については、大きな男女差は見られない。
- 【pp.64-65】各教科の授業で学習したことが「将来、社会に出たときに役に立つ」という意識は、いずれの教科においても大きな男女差は見られない。一方、算数・数学、理科については、平均正答率・スコアの男女差が見られないにも関わらず、「好き」「授業の内容がよく分かる」「得意」と回答する割合は、女子が男子を下回った。平均正答率・スコアが女子の方が高い国語については、「好き」「授業の内容がよく分かる」「得意」と回答する割合は、女子が男子を上回った。

平均正答率・スコア（男女別）

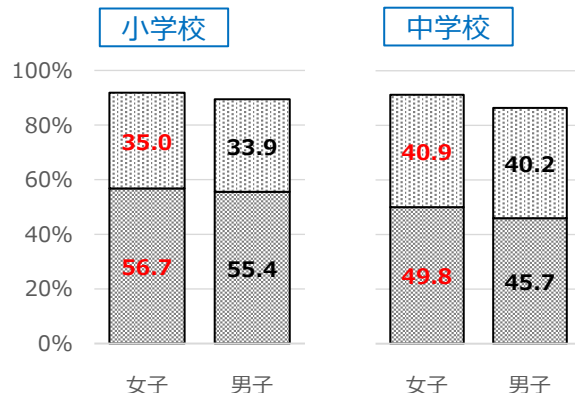
	小・国語	中・国語	小・算数	中・数学	小・理科	中・理科
男子 (a)	63.1%	52.0%	59.0%	49.1%	55.8%	503
女子 (b)	70.9%	57.4%	57.3%	48.6%	58.8%	508
女子 (b) - 男子 (a)	7.8	5.4	-1.7	-0.4*	3.0	5

*差を算出した後に、小数第2位を四捨五入

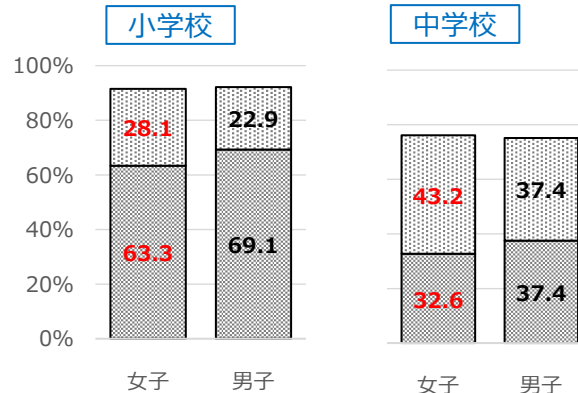
各教科の興味・関心、理解度（男女別）

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

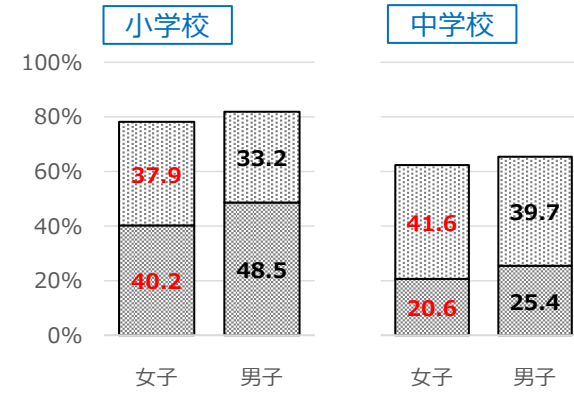
児童〔47〕
生徒〔47〕 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。



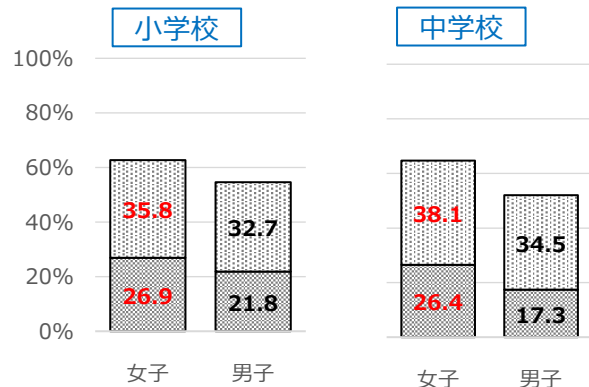
児童〔55〕
生徒〔55〕 算数〔数学〕の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。



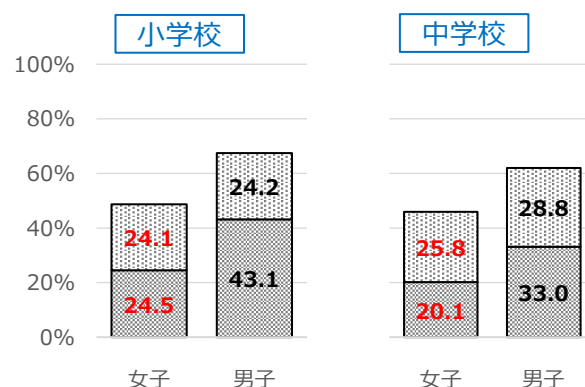
児童〔63〕
生徒〔63〕 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。



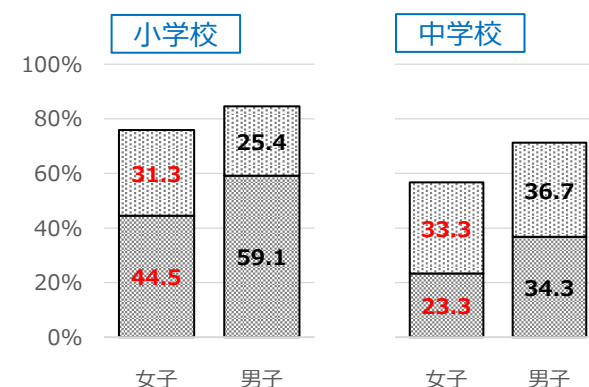
児童〔45〕
生徒〔45〕 国語の勉強は好きだ。



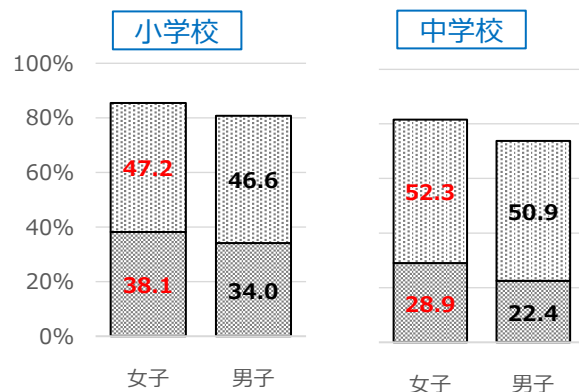
児童〔53〕
生徒〔53〕 算数〔数学〕の勉強は好きだ。



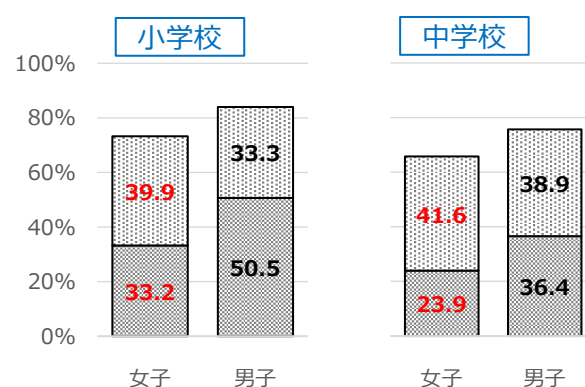
児童〔61〕
生徒〔61〕 理科の勉強は好きだ。



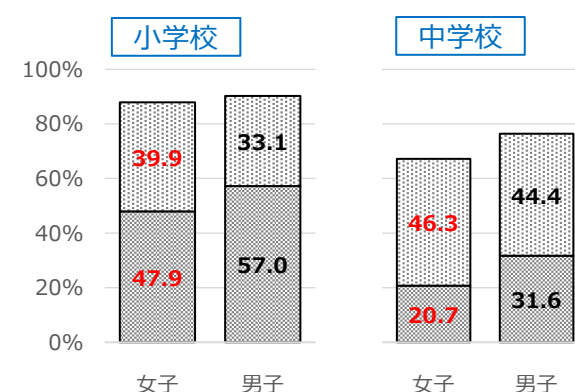
児童〔46〕
生徒〔46〕 国語の授業の内容はよく分かる。



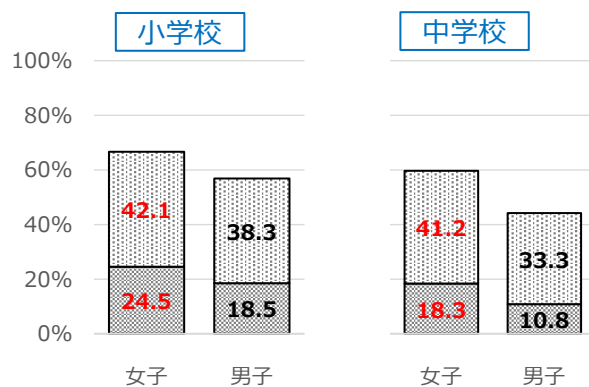
児童〔54〕
生徒〔54〕 算数〔数学〕の授業の内容はよく分かる。



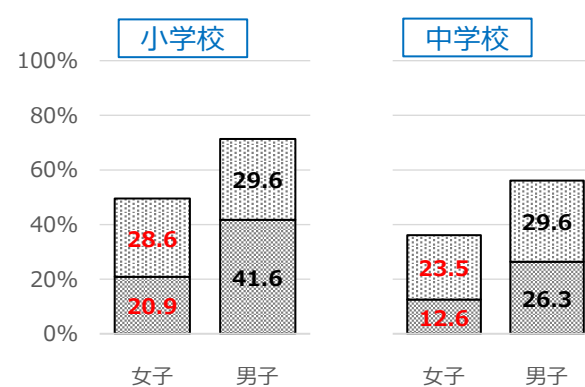
児童〔62〕
生徒〔62〕 理科の授業の内容はよく分かる。



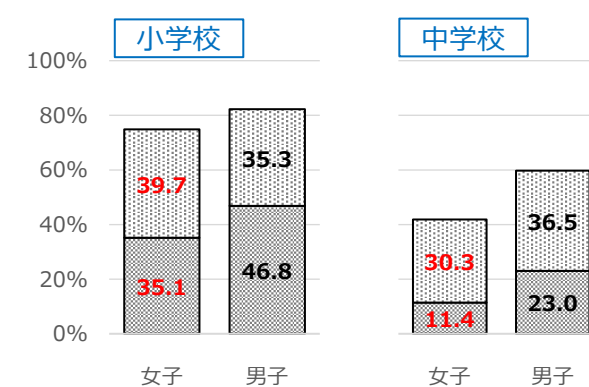
児童〔44〕
生徒〔44〕 国語の勉強は得意だ。(新規)



児童〔52〕
生徒〔52〕 算数〔数学〕の勉強は得意だ。(新規)



児童〔60〕
生徒〔60〕 理科の勉強は得意だ。(新規)



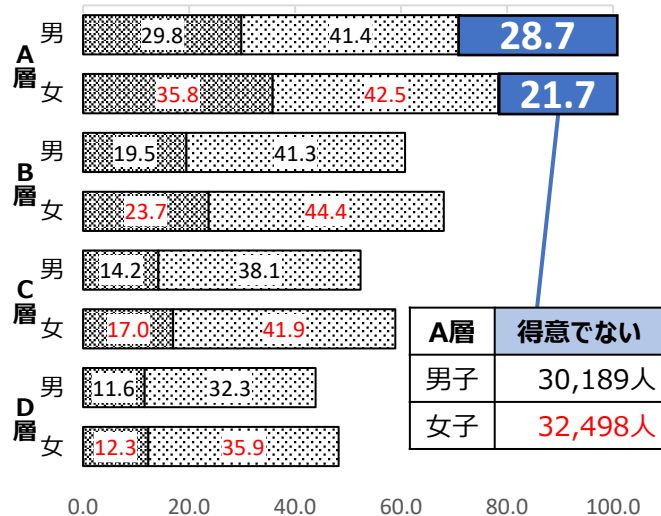
「学力層（上位）」 × 「得意でない」

○ 各教科に関する「○○の勉強は得意だ」の質問項目の回答状況を学力層別に集計したところ、各教科の上位層*でも、その教科が「得意でない」と考える児童生徒が一定数いることが明らかになった。特に、算数・数学、理科において上位層であるにも関わらず「得意でない」と考える児童生徒について深掘りすることとした（→次ページ）。 *中学校理科はIRTバンド4・5、他教科はA層

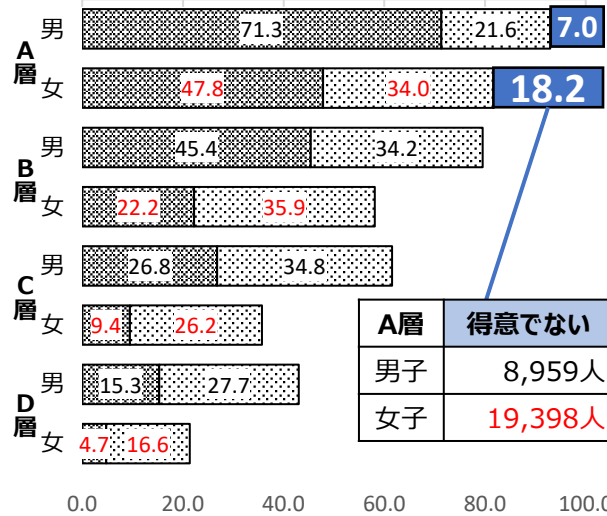
※ なお、上位層であるにも関わらず「得意でない」と考える児童生徒の割合は、算数・数学、理科については女子の方が大きく、国語については男子の方が大きい、このような男女差が生じる理由については本調査以外のデータも含めた更なる分析が必要。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

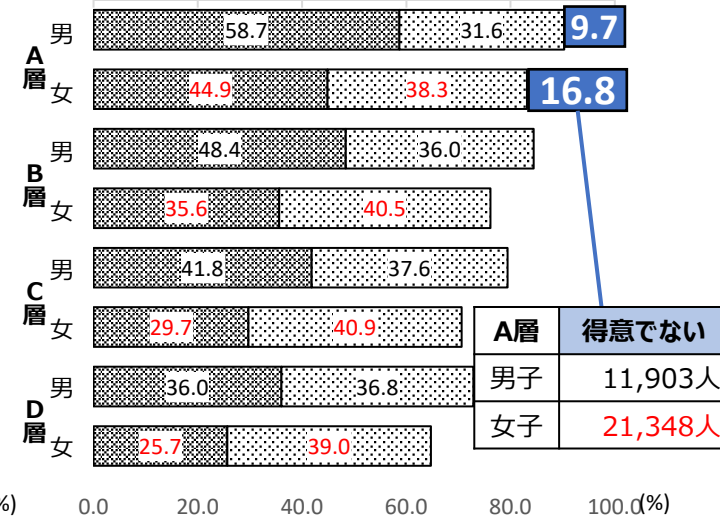
小学校「国語の勉強は得意だ。」



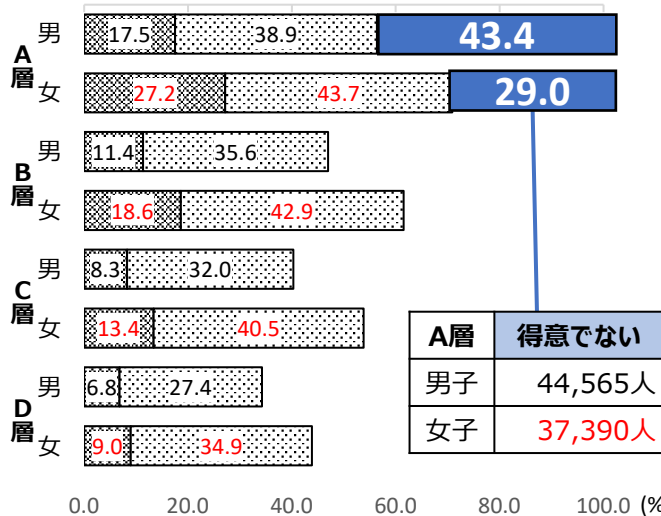
小学校「算数の勉強は得意だ。」



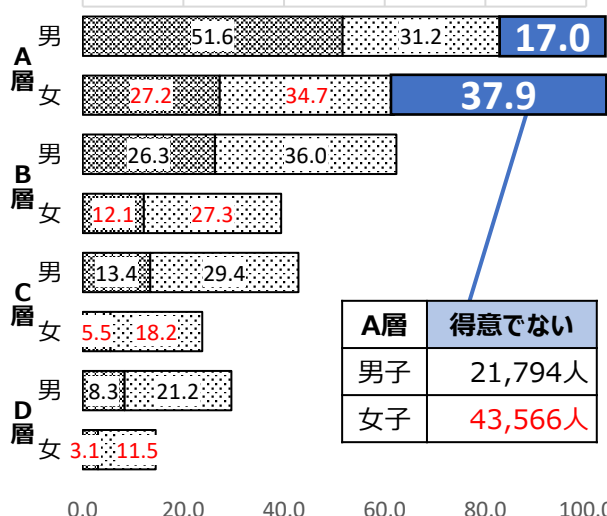
小学校「理科の勉強は得意だ。」



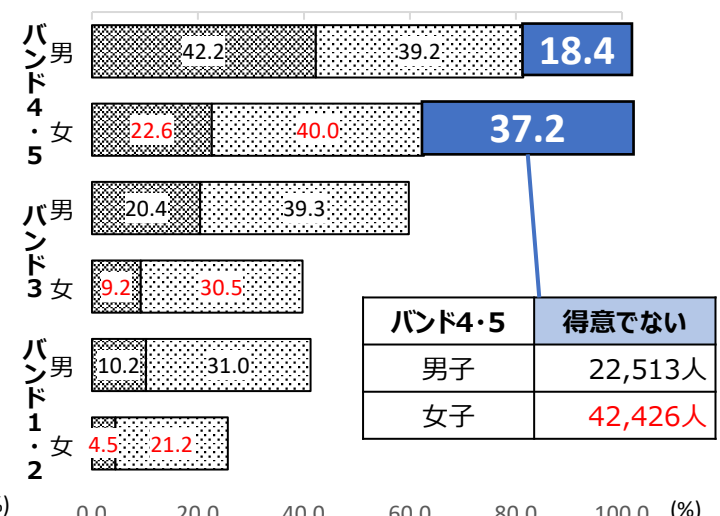
中学校「国語の勉強は得意だ。」



中学校「数学の勉強は得意だ。」

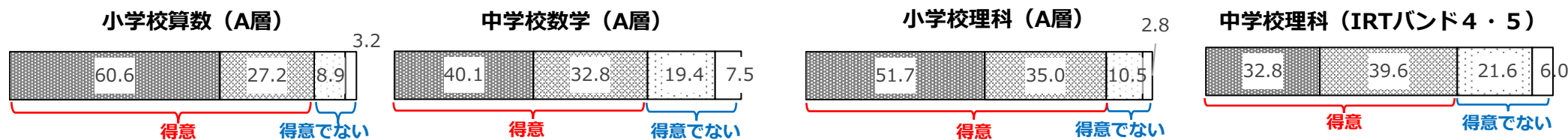


中学校「理科の勉強は得意だ。」



「理数・学力層（上位）」 × 「理数・得意ではない」 × 「学習活動」の関係

- 算数・数学、理科の上位層のうち「得意」と考える児童生徒と「得意ではない」と考える児童生徒の特徴を比較した結果、「得意ではない」と考える児童生徒について以下の特徴が見られた。
 - ・ 「授業がよくわからない」と回答している割合が高い。
 - ・ 授業等で以下のような学習活動を行っていない割合が高い。
 - 【算数・数学】授業で、どのように考えたのかについて説明する
 - 【理科】理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりする
 - ・ 算数・数学、理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていない。
- ここからすると、例えば、子供たちが学習内容に疑問を持ち、考えの理由を説明させるような授業や、習得した知識を普段の生活や現実の事象と関連づけられるような授業を行うことは、授業を「わかる」と感じさせ、さらに教科を「得意」と感じさせる上でも重要と考えられる。



	小学校		中学校			小学校		中学校	
	得意	得意でない	得意	得意でない		得意	得意でない	得意	得意でない
算数〔数学〕の授業はよくわかりますか。	98.7%	74.6%	97.6%	73.6%	理科の授業はよくわかりますか。	98.3%	73.2%	96.1%	64.9%
算数〔数学〕の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。	84.2%	56.7%	77.9%	60.1%	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか。	80.5%	49.2%	76.4%	52.7%
算数〔数学〕の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか。	93.6%	76.1%	74.2%	49.5%	理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか。	75.5%	40.9%	75.9%	50.8%

（参考）全国学力・学習状況調査の算数・数学、理科の結果を活用した専門的な分析については、令和5年度文部科学省委託研究（受託者：株式会社エーフォース）、令和6年度文部科学省委託研究（受託者：宮城教育大学）においても詳細に分析を行っている。

🔗 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1344286.htm



③ 各教科等における言語能力の育成

ポイント

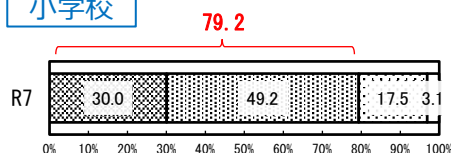
- 【p.68】各教科において、読んで理解する学習活動を実施している児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる（特に、「文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができる」の回答状況と中学校数学の正答率との相関係数は0.511）。
- 【p.69】読書が好きな児童生徒ほど各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られるが、そのような児童生徒の割合が減少傾向。

児童〔51〕

国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか。（新規）

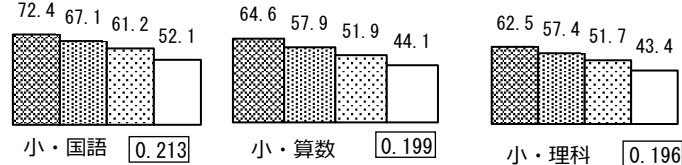
よくしている どちらかといえば、している あまりしていない 全くしていない

小学校



選択肢ごとの教科の平均正答率

クロス集計

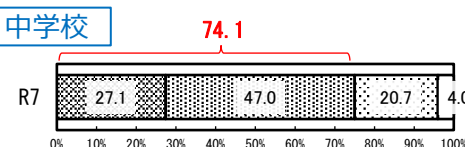


生徒〔50〕

国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか。（新規）

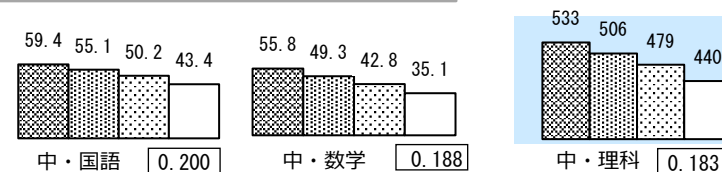
よくしている どちらかといえば、している あまりしていない 全くしていない

中学校



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

クロス集計

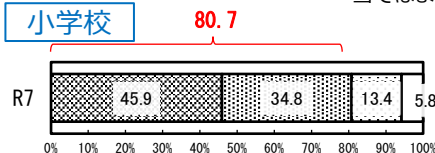


児童〔59〕

小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか。（新規）

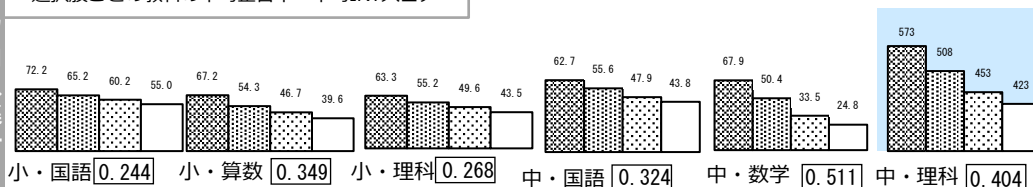
当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

小学校



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

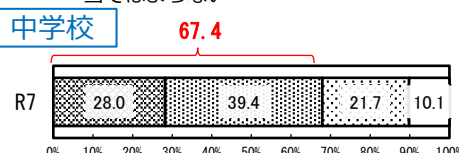
クロス集計



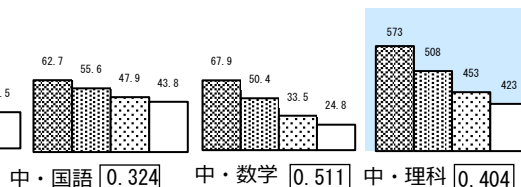
生徒〔59〕

文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか。（新規）

中学校



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

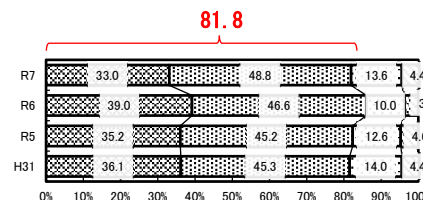


生徒〔72-2〕

英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。

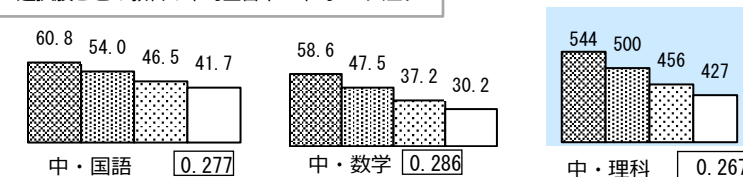
当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

中学校



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

クロス集計

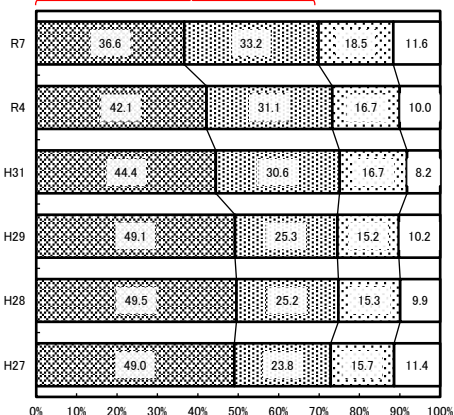


児童〔24〕
生徒〔24〕 読書は好きですか。

☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

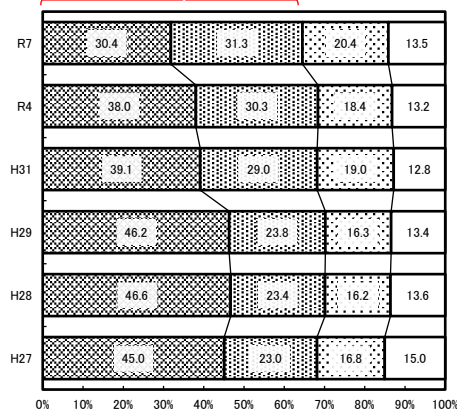
小学校

69.8



中学校

61.7

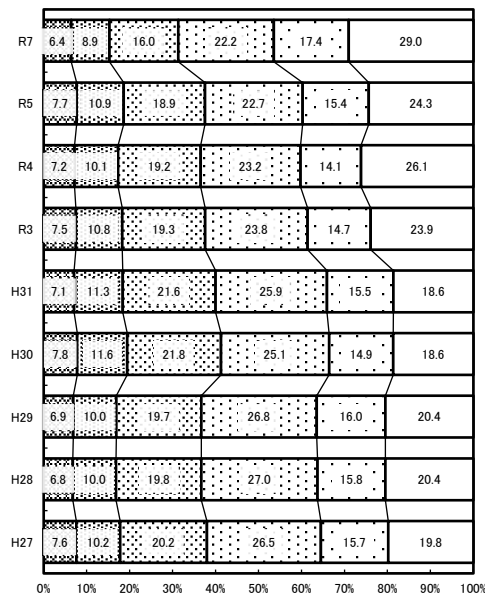


児童〔21〕
生徒〔21〕 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)。

☒ 2時間以上 ☒ 1時間以上、2時間より少ない ☒ 30分以上、1時間より少ない ☒ 10分以上、30分より少ない
☐ 10分より少ない ☐ 全くしない

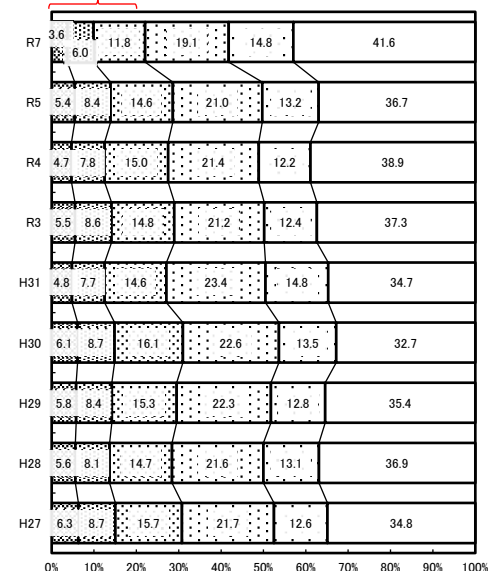
小学校

31.3

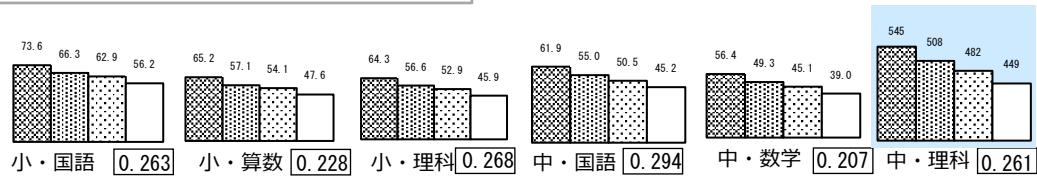


中学校

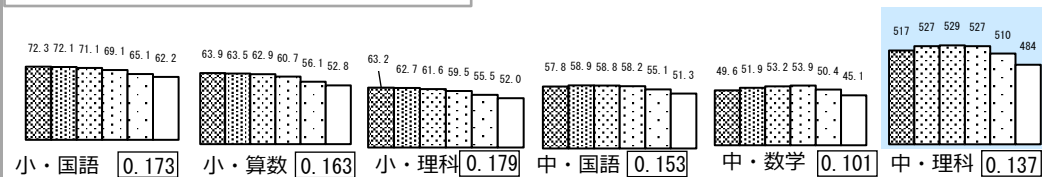
21.4



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



(参考) 令和6年度全国学力・学習状況調査の国語の結果を活用した専門的な分析については、令和6年度文部科学省委託研究(受託者: 安田女子大学)においても詳細に分析を行っている。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1416304_00011.html



「文字式・証明を読んで理解できること」×「数学で説明する活動」×「中学校数学正答率」の関係

三重クロス集計

- 今年度の調査においては、「文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができるか」という生徒質問項目と、数学の正答率の間にも高い相関があることが確認された（P.68）。また、現行の学習指導要領においては、算数・数学の授業で「どのように考えたのかについて説明する活動」が重視されており、このような活動を行っている児童生徒ほど算数・数学の正答率が高い傾向が見られる。
- 文字式・証明を読んで理解できること、数学で説明する活動の実施状況について分析したところ、両方に肯定的に回答したグループ（理解○説明○）の中学校数学の正答率は、他のグループより高かった。

【文字式・証明を読んで理解できること】×【数学で説明する活動】×【中学校数学正答率】

【文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか。生徒〔59〕（新規）】

- 当てはまる（又は）どちらかといえば、当てはまる
- × どちらかといえば、当てはまらない（又は）当てはまらない

【数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。生徒〔58〕】

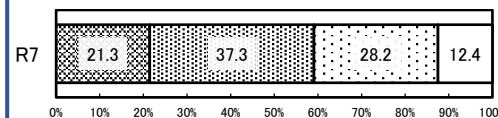
- 当てはまる（又は）どちらかといえば、当てはまる
- × どちらかといえば、当てはまらない（又は）当てはまらない

生徒〔58〕

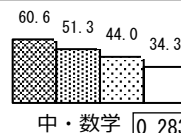
数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。

- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

中学校



選択肢ごとの教科の平均正答率



中・数学 0.283

分析

中学校数学では、

- ・ 読んで理解できること
- ・ 数学で説明する活動を行っていること

の両方に肯定的に回答したグループ（理解○説明○）の正答率を表す箱ひげ図の箱が最も上の位置（正答率が高い位置）にあり、いずれにも否定的に回答したグループ（理解×説明×）の箱が最も下の位置にある。

分析

読んで理解できること、数学で説明する活動を行っていることの両方に肯定的に回答したグループ（理解○説明○）の正答率が他のグループより高いという傾向は、家庭の社会的経済的背景(SES: Socio-Economic Status)*別に見ても確認できる。

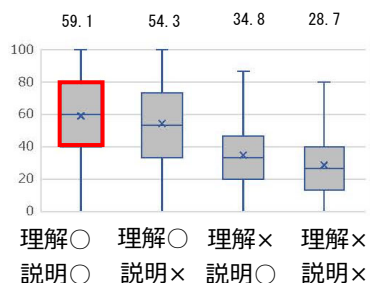
*全国学力・学習状況調査では、児童生徒質問調査での「家にある本の冊数」（生徒〔22〕）をSESの代替指標として利用している。

【中学校数学の正答率】

グループ	人数 (万人)
	中学校
理解○説明○	43.2
理解○説明×	17.5
理解×説明○	9.6
理解×説明×	19.0

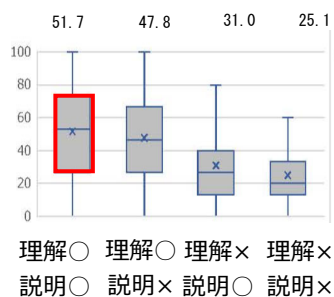
中学校数学

0.441



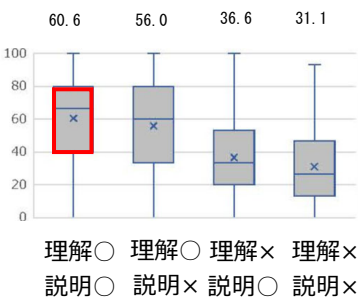
0.422

0～25冊のグループ
(33.2万人)



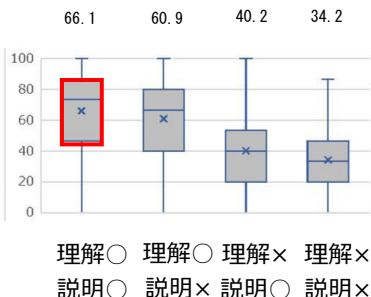
0.429

26～100冊のグループ
(26.8万人)



0.437

101冊以上のグループ
(24.1万人)



「読書が好き」×「授業で工夫して発表していた」×「正答率・スコア」の関係

三重クロス集計

- p.70において、文字式・証明を読んで理解できること、数学で説明する活動の実施状況について分析したところ、両方に肯定的に回答したグループ（読書○説明○）の中学校数学の正答率は、他のグループより高かった。
- 中学校数学以外の教科についても、「読んで理解すること」、「説明・発表すること」、正答率・スコアの関係を確認するため、「読書が好き」、「授業で工夫して発表していた」に関する回答状況を分析したところ、両方に肯定的に回答したグループ（読書○発表○）の正答率が、他のグループより高かった。

【読書が好き】×【授業で工夫して発表していた】×【正答率・スコア】

【読書は好きですか。 児童生徒〔24〕】

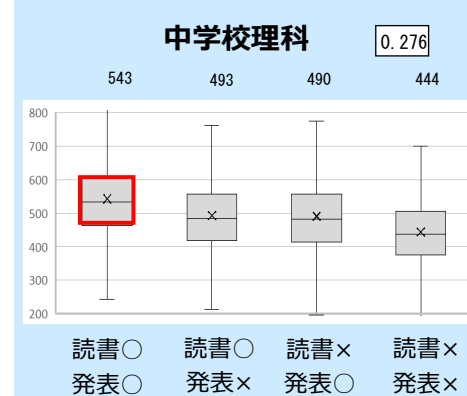
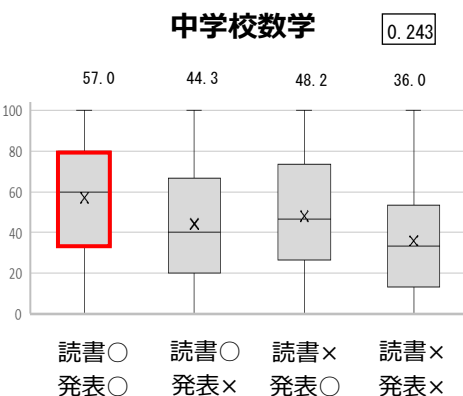
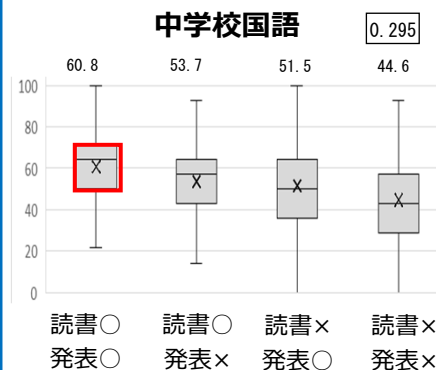
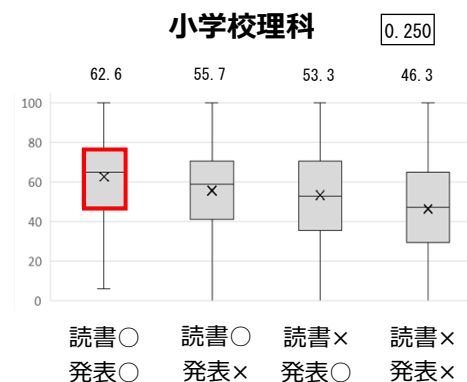
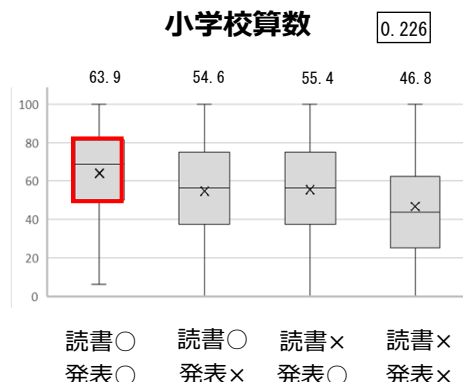
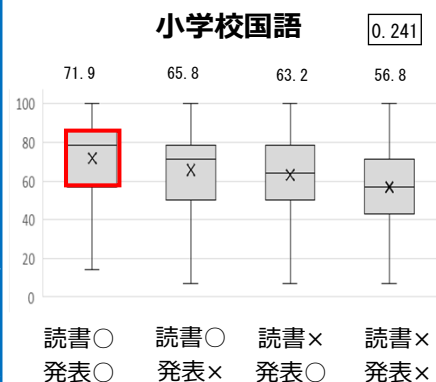
- 当てはまる（又は）どちらかといえば、当てはまる
- × どちらかといえば、当てはまらない（又は）当てはまらない

【5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。 児童生徒〔31〕】

- 当てはまる（又は）どちらかといえば、当てはまる
- × どちらかといえば、当てはまらない（又は）当てはまらない

グループ	人数（万人）	
	小学校	中学校
読書○発表○	48.3	37.3
読書○発表×	17.2	17.3
読書×発表○	16.9	17.2
読書×発表×	10.9	12.6

【正答率・スコア】



分析

いずれの教科においても、

- ・読書が好き
- ・授業で工夫して発表していた

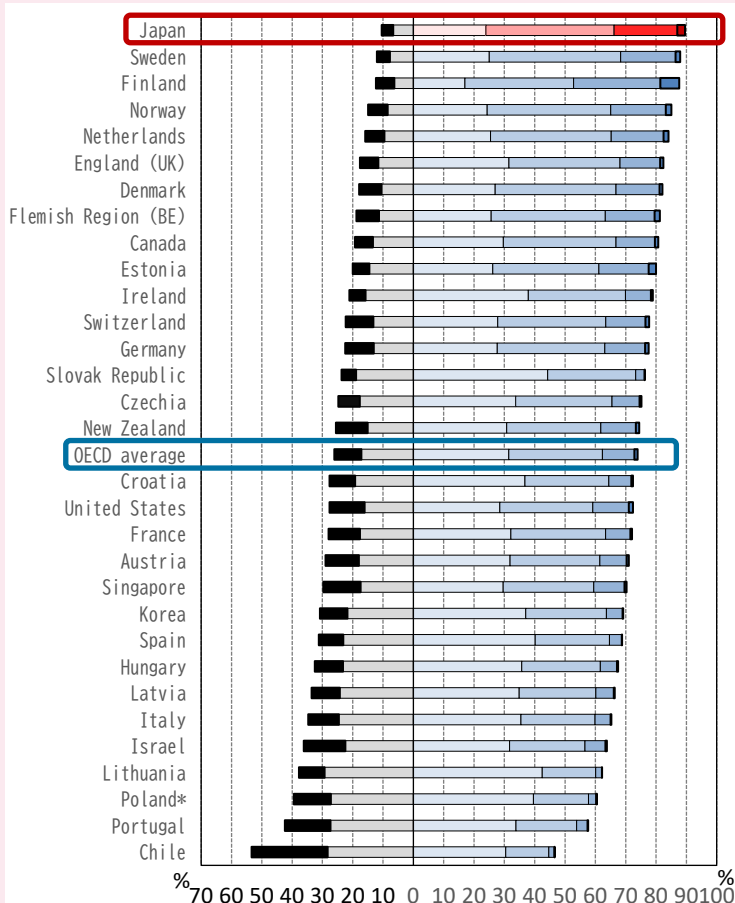
の両方に肯定的に回答したグループ（読書○発表○（赤枠））の正答率・スコアを表す箱ひげ図の箱が最も上の位置（正答率・スコアが高い位置）にあり、いずれにも否定的に回答したグループ（読書×発表×）の箱が最も下の位置にある。

PIAAC（OECD国際成人学力調査）における「読解力」について

- 第2回調査（2022）の結果の特徴の一つとして、第1回調査（2011）と比べて、「読解力」において平均得点が有意に低下した国が多かったことが挙げられる。「読解力」については、こうした国際調査に係る今後の分析動向も踏まえて捉えていくことが必要。
- 日本の「読解力」の平均得点は参加国中第2位で、低い習熟度レベル1以下の割合は参加国中で最も少なかった。細かく見ると、「読解力」の平均得点の若干の低下については、統計的に有意な変化はなかった一方、低い習熟度（レベル1以下）の割合の増加については、統計的に有意な変化があった。

成人の読解力の習熟度レベル別分布（16歳～65歳）

※レベル1以下の成人の割合が少ない順に上から国を並べたもの



レベル5	376点以上
レベル4	326以上～376点未満
レベル3	276以上～326点未満
レベル2	226以上～276点未満
レベル1	176以上～226点未満
レベル1未満	176点未満

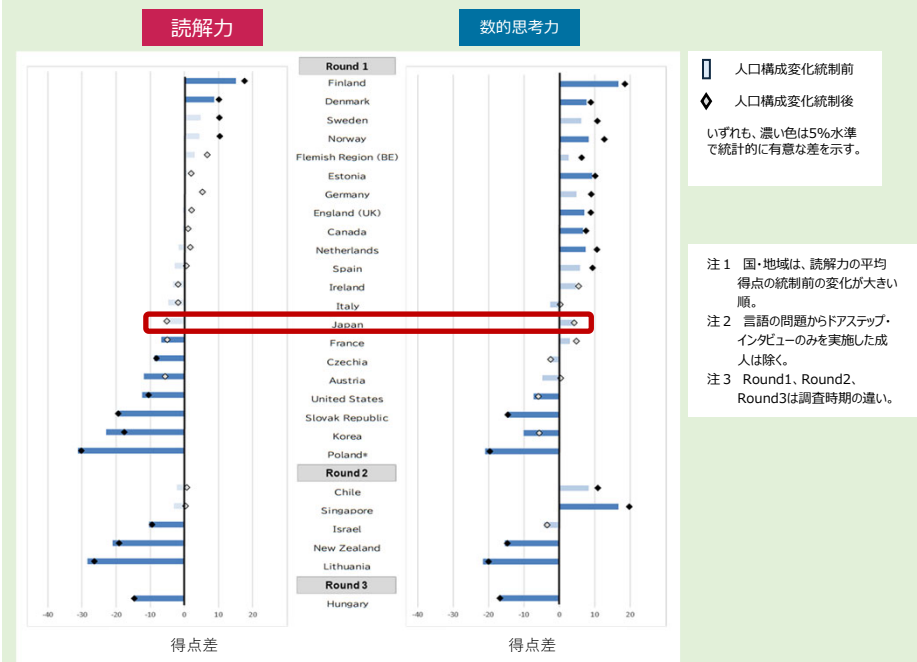
	読解力					
	レベル1未満	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
日本	3.8	6.7	23.9	42.3	20.9	2.5
OECD平均	8.9	17.1	31.4	30.9	10.6	1.1

レベル1以下の成人 ← → レベル2以上の成人

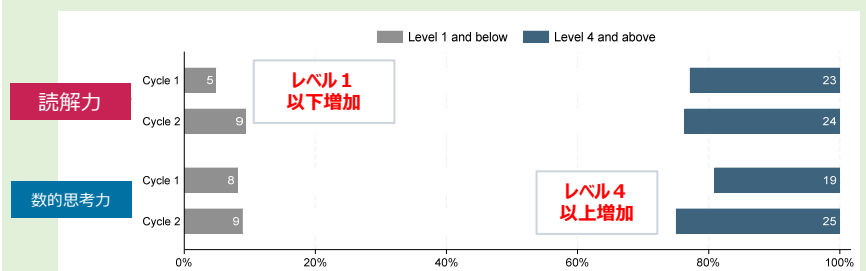
注1 言語の問題からドアステップ・インタビューのみを実施した成人も含む。

注2 *は一部のデータが欠損している国。

読解力と数的思考力の第1回と第2回の平均得点の差（16歳～65歳）



日本の習熟度レベル1以下またはレベル4以上の割合と変化（16歳～65歳）



注 言語の問題からドアステップ・インタビューのみを実施した成人は除く。

3. 質問調査結果（児童生徒、学校）

※ 内の数字は相関係数

R7

(4) 児童生徒のウェルビーイングに関する状況

ポイント

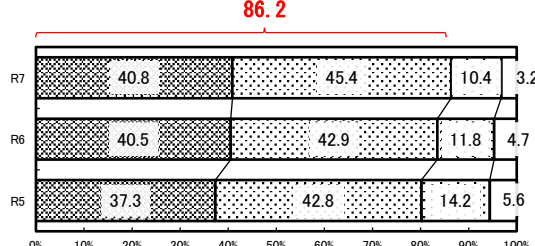
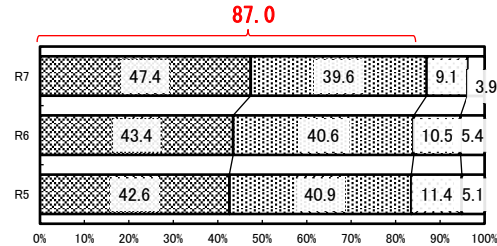
- 【p.73】「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童生徒、先生が「よいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒はいずれも約9割（微増）。
- 【p.73】「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」の質問に肯定的に回答した児童生徒は約9割（微増）。

児童〔5〕
生徒〔5〕 自分には、よいところがあると思いますか。

☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

小学校

中学校

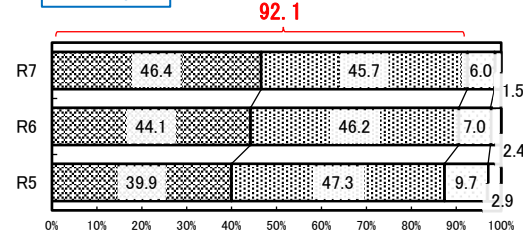
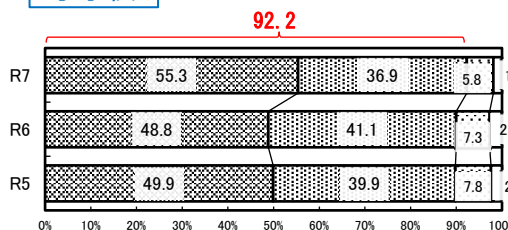


児童〔6〕
生徒〔6〕 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

小学校

中学校

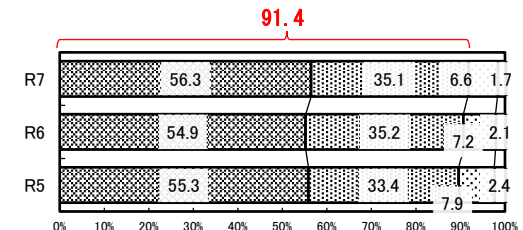
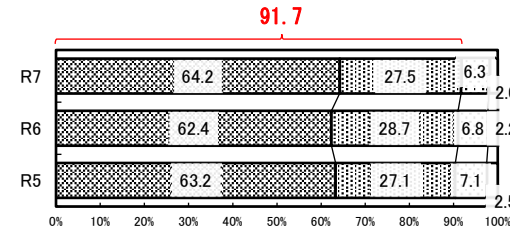


児童〔14〕
生徒〔14〕 友達関係に満足していますか。

☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

小学校

中学校

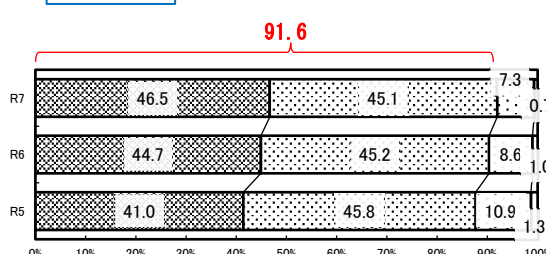
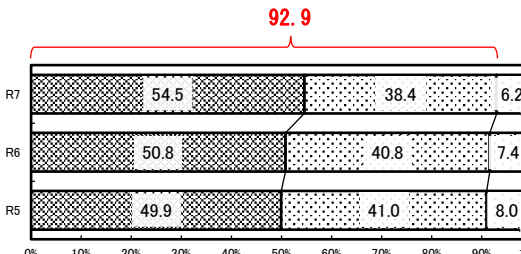


児童〔15〕
生徒〔15〕 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

☒ よくある ☒ ときどきある ☒ あまりない ☐ 全くない

小学校

中学校

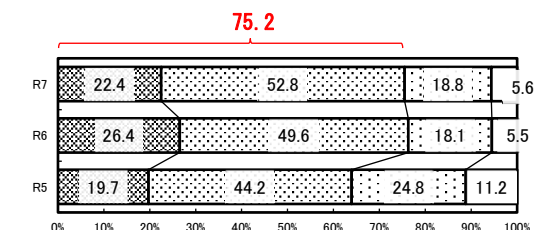
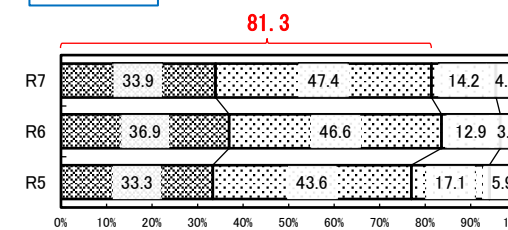


児童〔27〕
生徒〔27〕 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

小学校

中学校



(5) 学校外での学習状況

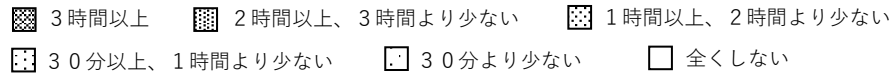
ポイント

- 【p.74】学校の授業時間以外における児童生徒の勉強時間は、小学校、中学校とも令和3年度以降、平日、休日いずれも減少傾向。
- 【p.75】学習塾や家庭教師による学習状況は横ばい。

平日の勉強時間

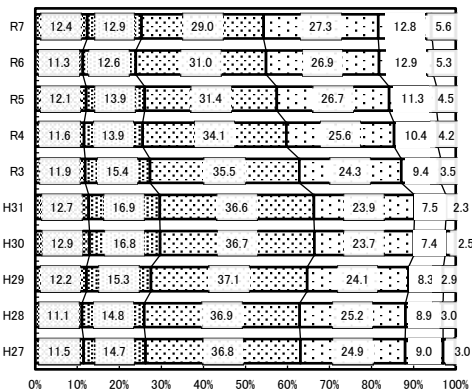
児童〔17〕
生徒〔17〕

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)。



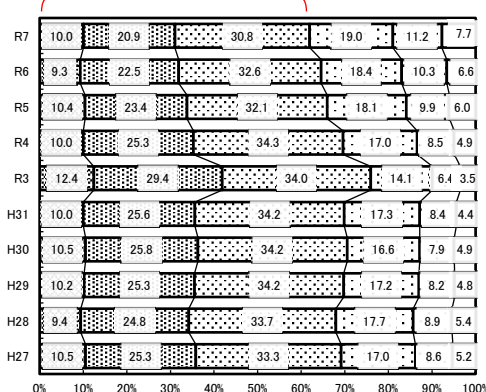
小学校

54.3



中学校

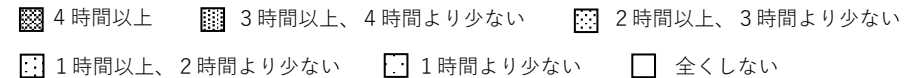
61.7



休日の勉強時間

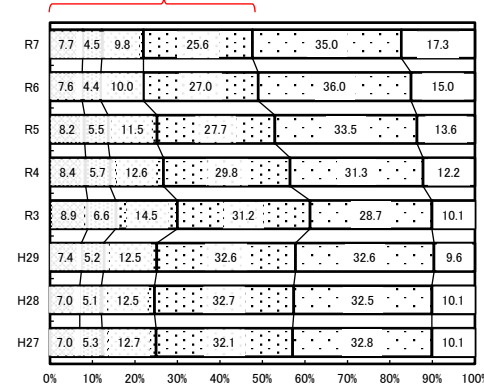
児童〔19〕
生徒〔19〕

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)。



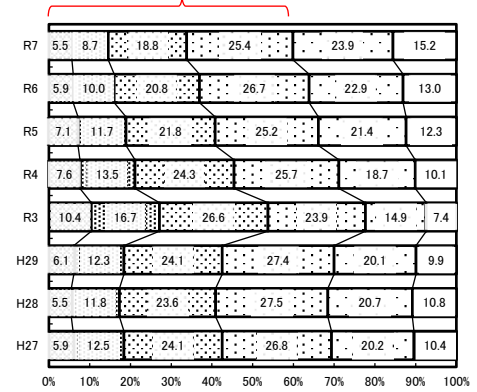
小学校

47.6



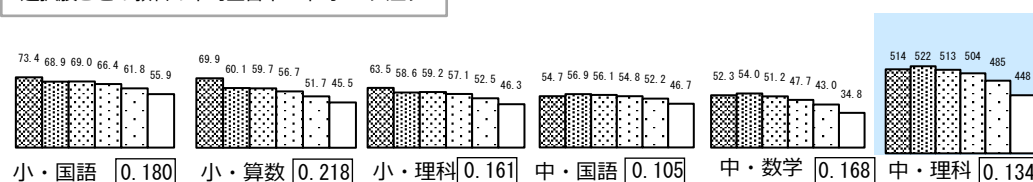
中学校

58.4



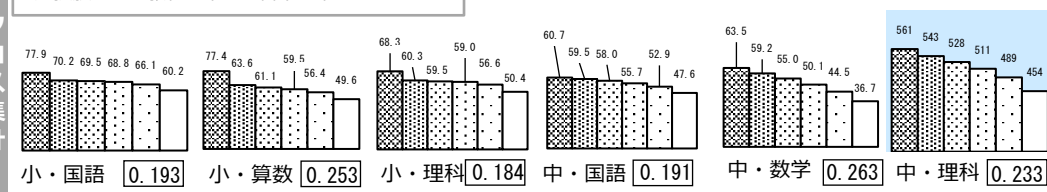
選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

クロス集計



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

クロス集計

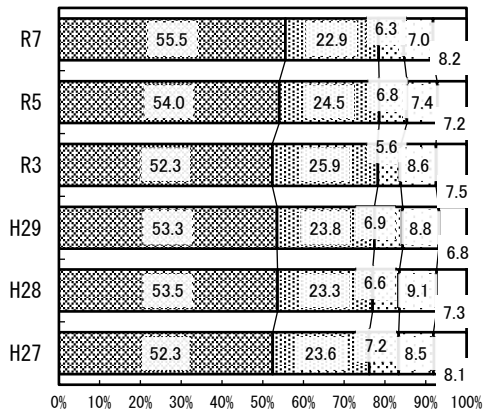


学習塾、家庭教師

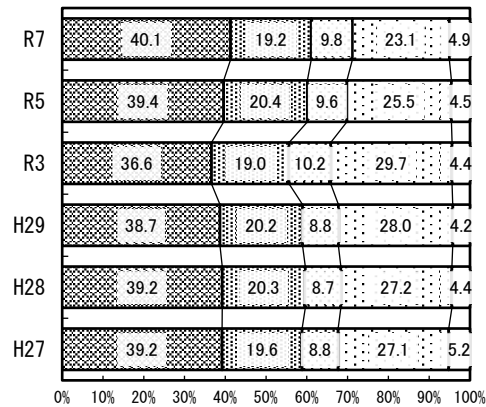
児童〔20〕 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（オンライン授業の場合も含む）
生徒〔20〕

- ☒ 1.教わっていない
 ☒ 2. 学校の勉強より進んだ内容や難しい内容を教わっている
 ☒ 3.学校の勉強でよく分からなかった内容を教わっている
☒ 4.上記2、3の両方の内容を教わっている
 ☐ 5.上記2、3の内容のどちらともいえない

小学校



中学校



1 学習指導要領の着実な実施・改訂に向けた検討

○ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

- 学習指導要領の趣旨・内容の周知・徹底のため、全国の都道府県等教育委員会の指導主事を対象とした協議会を実施。
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた全国の授業づくりの好事例の収集・分析を行い、サポートマガジン「みるみる」として公表。引き続き、事例の普及に取り組む。

○ 指導改善に資する情報提供等（国立教育政策研究所）

- 報告書（授業アイデア例を含む）を作成し、国立教育政策研究所のWebサイトに掲載（教育委員会や学校等で学習指導の改善・充実を図る際に活用）。
- IRTに基づく結果の活用方法について発信。児童生徒の理解の状況に応じた指導について、報告書で解説。
- 全国説明会（各教育委員会、教員養成大学等対象）を開催し、学習指導の改善・充実のポイントを解説（令和7年8月20日・21日オンライン開催）。
- オンラインなども活用しながら、学力調査官等による教育委員会や学校への指導・助言を実施。

○ 学習指導の充実

- 今回明らかになった課題の解決に資するデジタル技術の活用方法について発信を実施。
- 算数・数学について、調査結果で明らかとなった課題を踏まえ、効果的な指導法の開発・普及を行うとともに、全国の教職員向けにオンラインセミナーを開催。
- 小学生等に学校外での自身の興味・関心に沿った楽しく利用できる学習コンテンツについて周知（「たのしくまなび隊」など）

○ 次期学習指導要領に向けた中央教育審議会における検討

- 経済的に困難な背景のある子供たちを含め、子供たち一人一人が必要な資質・能力を育成できるよう、各教科等の改善や柔軟な教育課程編成の在り方について、次期学習指導要領に向けた検討を行う。

2 GIGAスクール構想の更なる取組の推進

○ 学校のICT環境整備の推進

- 更なる活用に向け、共同調達スキームの下での端末の着実な更新や、学校におけるネットワーク環境の改善等を推進。

○ 学校のICT環境を活用した取組

- リーディングDXスクール事業における効果的な実践例の創出・モデル化。
- 学校種別の授業動画など、切れ目のない研修コンテンツの提供。
- GIGA StuDX推進チームによる研修の実施、自治体の課題に応じた支援の提案。
- 学校DX戦略アドバイザーによる相談体制の構築、支援。

3 児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組の推進

- 道徳教育や特別活動、体験活動、生徒指導など学校教育活動全体を通じて児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組を推進。
- 読書の推進について、発達段階に応じた読書活動の先導的なモデル事業や、学校等における子供の読書活動を推進するための優れた取組の表彰を実施。

4 支援を必要とする児童生徒の支援策の充実

- 実施後アンケートの回答結果を基に、不登校児童生徒、障害のある児童生徒、外国人児童生徒等の解答(回答)を全国レベルで集計し、支援の充実につなげる形で活用。
- 1人1台端末を活用した児童生徒の悩みや不安の早期発見・支援を推進するとともに、ICTを活用した学習も含め、不登校児童生徒が行った学習の成果を成績に反映することができることを法令上明確化。

5 教師を取り巻く環境整備

○ 指導体制の充実

- 中学校35人学級化（令和8年度から）や、小学校高学年及び中学年で教科担任制の拡充、中学校生徒指導担当教師の配置拡充、貧困など個々の学校が抱える課題への対応等、学校の指導・運営体制の充実。
- 多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するため、教師人材の質の向上と入職経路の拡幅の観点から、教師の養成・採用・研修における必要な改革について、中央教育審議会の審議の中で検討。

○ 子供と向き合う時間の確保

- 教師が教師でなければならない仕事に集中することができるよう、学校における働き方改革の更なる加速化や、教員業務支援員などの支援スタッフの配置充実。
- コミュニティ・スクールを活用した働き方改革に係る取組の充実。

○ 校務DXの推進

- 教職員の事務負担の軽減や効率的で柔軟な働き方の実現、データ利活用・データ連携等を通じた教育活動の高度化に向けて、次世代校務DX環境の整備への支援を加速。

6 調査結果の活用、次回以降の調査の検討

○ 調査の高度化に向けた検討

- CBTを着実に導入し、調査の高度化、きめ細かな分析・返却を実現。
- 結果返却の更なる早期化を検討。

○ 集計結果データの貸与

- 大学等の研究者による多様な学術研究の分析等を促進するため、個票データ等の貸与を実施。